

SharePoint Server 2007

レプリケーションを利用した業務適用 手順書



バックアップ&リカバリー

管理

展開と複製

ストレージ最適化

テストとレポート

アーカイブとコンプライアンス

SharePoint への移行

著作権

このドキュメントに記載されている情報（URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む）は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このソフトウェアおよび関連するドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のものです。実在する名称とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用をお願いします。AvePoint は、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途 AvePoint のライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

1 目的

本ドキュメントでは Microsoft Office SharePoint Server 2007 のデータや設定をレプリケーション(複製)、および同期するための手順について、画面キャプチャを用いてステップバイステップで紹介します。利用する製品は DocAve レプリケーター for SharePoint v5 です。本ドキュメントを通じて DocAve レプリケーター for SharePoint v5 の機能概要と利用手順について理解をしていきます。

2 対象製品

DocAve レプリケーター for SharePoint v5

3 前提条件

より実践に近い環境での学習を行うため、本ドキュメントでは Active Directory 環境でのファーム構成の Microsoft Office SharePoint Server 2007 を前提としています。

4 用語および略語

本ドキュメントの中で使用している用語、略語はそれぞれ以下の通りです。

表 1 用語一覧

用語	説明
DocAve エージェント	DocAve の各種機能の処理を実行しているモジュールのこと。
DocAve マネージャー	管理者が DocAve の管理コンソールを利用して設定した内容の管理や、DocAve エージェントに対する処理の実行指示を行うモジュールのこと。
エージェントグループ	DocAve エージェントをグループ化して管理する設定のこと。
オフラインレプリケーション	レプリケート元からレプリケート対象のデータをディスク上にエクスポートし、エクスポートしたデータをレプリケート先へインポートすることで段階的にレプリケーションを行う機能のこと。
コントロールパネル	DocAve 自体の設定や管理操作を行うメニューのこと。DocAve の操作権限の設定や、ライセンス管理などの基本的な操作に利用する。
ジョブ	DocAve 製品の各機能における処理の単位のこと。レプリケーターにおいてはレプリケーションを行う際の処理を表す。
ジョブモニター	ジョブの実行結果を確認するための機能の 1 つ。レプリケーターを含む各機能の実行結果の確認が可能。
スケジュールモニター	DocAve 製品の各機能における実行予定のプランの確認を行う機能のこと。スケジュールによる実行を設定したプランのうち、指定した条件の期間に実行されるプランを検索することが可能。
スケジュールレプリケーション	設定したスケジュールに従って定期的にレプリケーションを行う設定のこと。条件に応じて都度レプリケーションが行われるリアルタイムレプリケーションに対し、決められた時間に一括でレプリケーションが実行される。

用語	説明
ダッシュボード	ジョブの実行結果を確認するための機能の 1 つ。レプリケート元とレプリケート先の情報や、リアルタイムレプリケーションが最後に実行された時間などのジョブの実行結果について確認が可能。
フィルタ	レプリケーションの実行時に、指定した条件に基づいて特定のサイトやフォルダ、アイテムなどのふるい分けを行うオプションのこと。
プラン	ジョブを実行するための設定のこと。レプリケーターにおいてはレプリケート対象のマッピング、および実行する際のスケジュールやオプションなどが含まれる。
プランビルダー	DocAve 製品の各機能におけるプランを作成する機能のこと。レプリケーターにおいてはレプリケート時のプランの作成を行う機能のこと。
マッピング	レプリケート対象とするリストやサイトなどを、レプリケート元とレプリケート先で対応付けしたもの。
リアルタイムレプリケーション	レプリケート対象の新規作成、更新、削除、移動など、特定の操作をトリガとしてレプリケーションを行うオプションのこと。

表 2 略語一覧

略語	説明
DocAve	DocAve ソフトウェアプラットフォーム
MOSS	Microsoft Office SharePoint Server 2007
WSS	Windows SharePoint Services 3.0
DocAve レプリケーター	DocAve レプリケーター for SharePoint

変更履歴

バージョン	リリース時期	変更内容
Version 1.0	2010年5月7日	初版リリース
Version 1.1	2013年1月8日	一部説明を修正

目次

はじめに.....	3
変更履歴.....	5
目次.....	6
第1章 前提条件.....	8
1.1 システム要件.....	9
第2章 レプリケーションが必要となる背景.....	10
2.1 海外等分散拠点間での情報共有.....	11
2.2 F/W で保護された環境間での情報共有.....	12
2.3 事業部門毎に個別の SharePoint が存在する環境での情報共有.....	13
2.4 厳密な権限管理下での情報共有.....	14
2.5 異なる言語のサイトを併用.....	15
2.6 シナリオ別利用オプション対応表.....	16
第3章 DocAve レプリケーターの概要.....	17
3.1 アーキテクチャ.....	18
3.1.1 DocAve マネージャー.....	18
3.1.2 DocAve エージェント.....	18
3.1.3 エージェントグループ.....	18
3.2 スケーラビリティ.....	19
第4章 DocAve でのレプリケーションの考え方.....	20
4.1 レプリケーションの概要.....	21
4.2 レプリケート対象の選定.....	22
4.3 レプリケート時のオプションの選定.....	23
4.3.1 必須のオプション設定.....	23
4.3.2 任意のオプション設定.....	23
4.4 オフラインレプリケーションの検討.....	24
第5章 使用するサンプル環境.....	25
5.1 基本情報.....	26
5.1.1 システム構成.....	26
5.1.2 ソフトウェア構成.....	27
第6章 DocAve を利用したレプリケーションの設定手順.....	28
6.1 レプリケーションの設定の流れ.....	29
6.2 プランの作成.....	33
6.2.1 プランの新規作成.....	33
6.2.2 マッピングの設定.....	34
6.2.3 必須のオプション設定.....	42
6.2.4 任意のオプション設定.....	59
6.2.5 プロファイルの割り当て.....	96
6.2.6 プランの実行.....	101
6.3 プラン(オフラインレプリケーション)の作成.....	104
6.3.1 エクスポート先の設定.....	105
6.3.2 インポート先の設定.....	109

6.3.3	オプションの設定.....	109
6.3.4	エクスポート.....	110
6.3.5	インポート.....	114
6.4	レプリケーション状況の確認.....	119
6.4.1	ジョブモニターによる確認.....	119
6.4.2	マッピングモニターによる確認.....	124
6.4.3	ダッシュボードによる確認.....	126
6.4.4	通知メールによる確認.....	128
第7章	パラメータシート.....	131
第8章	付録.....	141
8.1	ハードウェアサイジング.....	142
8.2	スレッド数の検討.....	143

第1章 前提条件

本省では、当シナリオの前提となる環境条件を整理します。

1.1 システム要件

DocAve が対応する SharePoint 環境は以下の通りです。

カテゴリ	製品バージョン / エディション
SharePoint	Office SharePoint Server 2007 (一部製品は SP1 以上) Windows SharePoint Services 3.0 (一部製品は SP1 以上) (Standard/Enterprise Edition、32/64 ビットバージョン含む)
SQL Server	SQL Server 2000 SQL Server 2005 SQL Server 2008 (Standard/Enterprise Edition、32/64 ビットバージョン含む) 注意: SQL Server Express Edition ではプラットフォームバックアップ、スタンバイセンターはサポートされていません。また、SQL Embedded Edition は全モジュールがサポートされていません。
OS	Windows Server 2003 / Windows Server 2003 R2 Windows Server 2008 / Windows Server 2008 R2 (Standard/Enterprise Edition、32/64 ビットバージョン含む)

DocAve インストールマシンの推奨スペック構成を以下に記載します。詳細な DocAve のシステム要件については、DocAve ユーザー ガイドを参照してください。

ハードウェア

項目	内容
CPU	デュアルコア CPU 以上 (Intel Core 2 Duo クラス、または Intel Xeon クラス同等の CPU を推奨)
メモリ	DocAve 用に 2GB の空きメモリ
HDD	5GB 以上の空き容量 (データバックアップ用の保存領域は、別にデータ量に応じて準備する必要があります。)

ソフトウェア

項目	内容
OS	Microsoft Windows XP Microsoft Windows Server 2008 / Microsoft Windows Server 2008 R2 Microsoft Windows Server 2003 / Microsoft Windows Server 2003 R2 (x86/x64 可)
アプリケーション	.NET Framework 2.0 以上

DocAve ユーザー ガイド

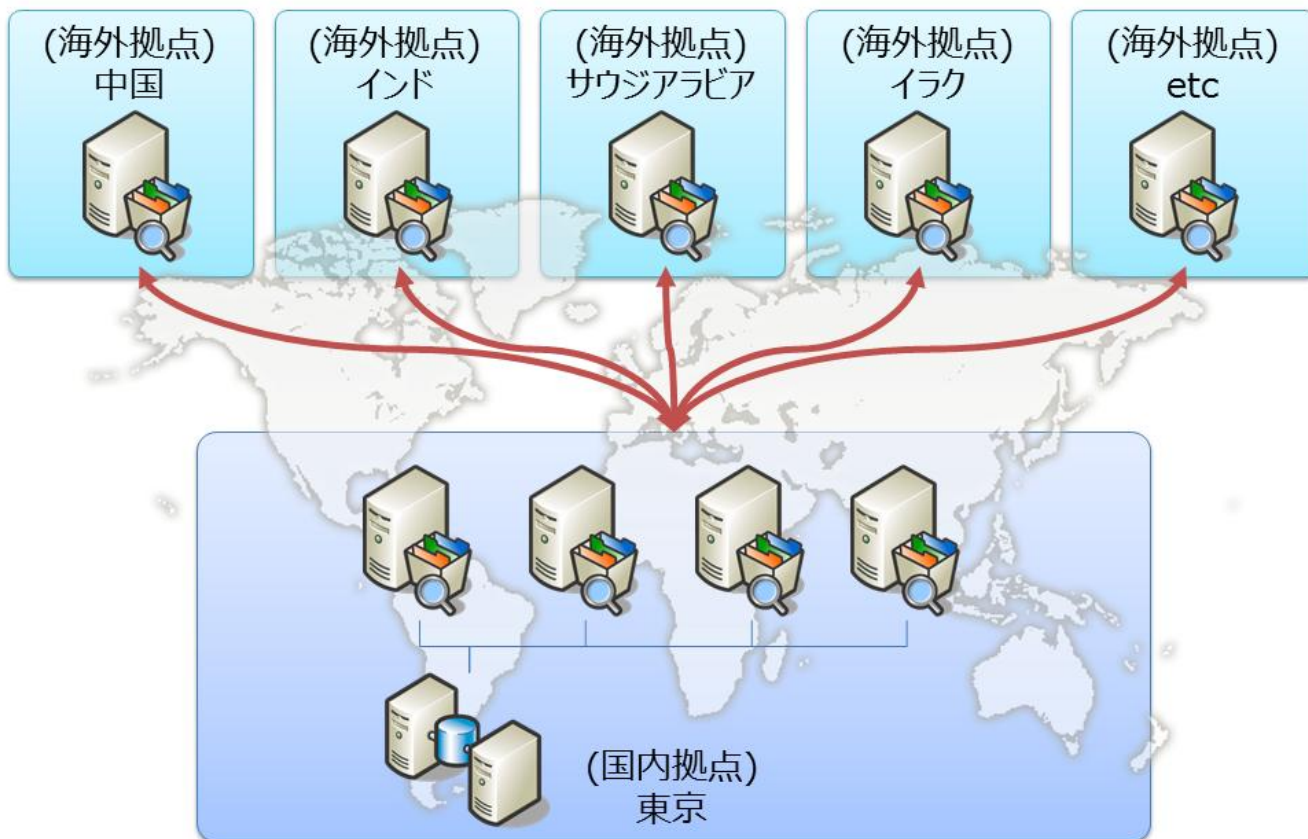
<http://www.avepoint.co.jp/resources/user-guides/>

第2章 レプリケーションが必要となる背景

本章では、MOSS を運用していく中でレプリケーションが必要となる背景を、代表的な 4 つの例を通して説明します。

2.1 海外等分散拠点間での情報共有

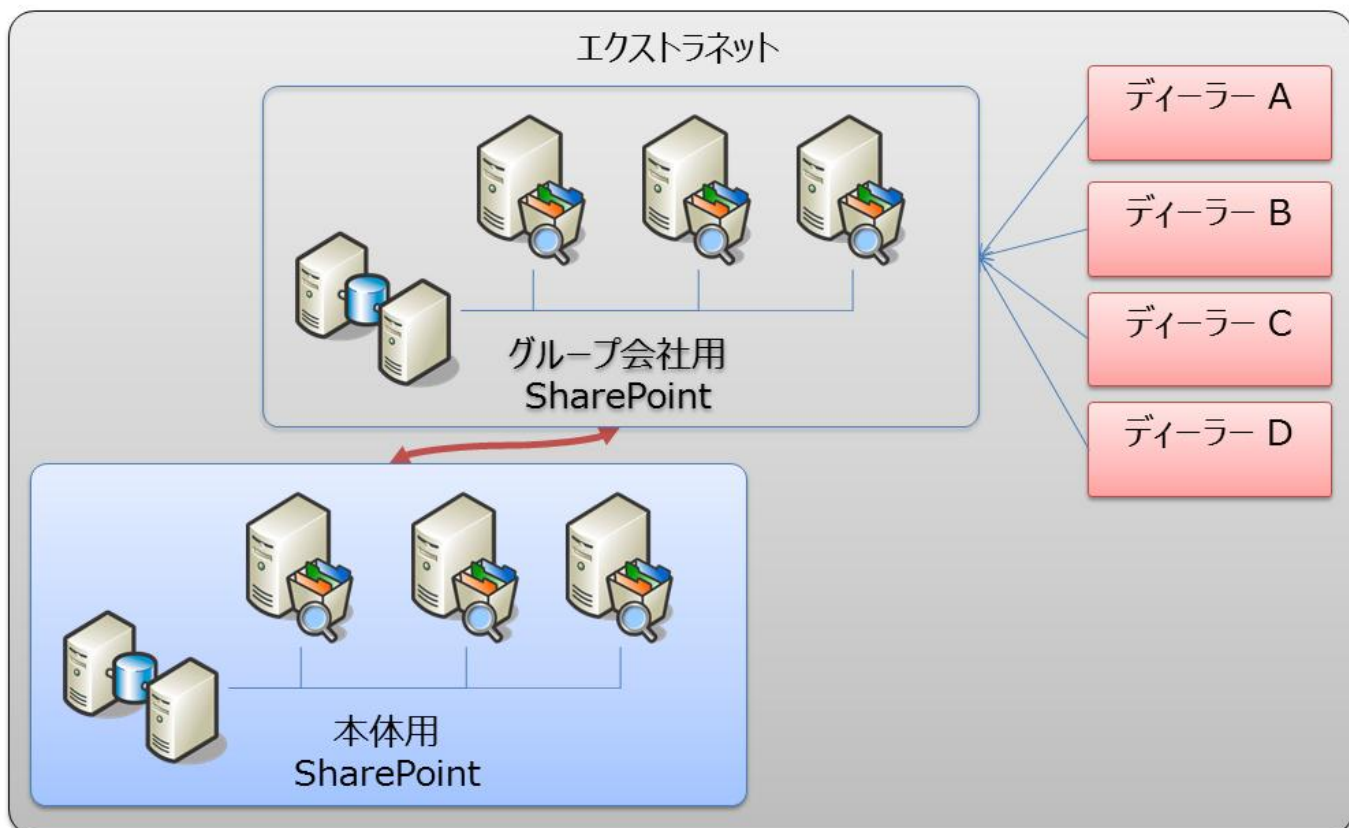
グローバルでビジネス展開をする企業にとって、海外拠点との業務上のやりとりは日々発生します。中央のデータセンターに SharePoint を集中配置して、拠点ユーザーはネットワーク経由でアクセスをするという手段もありますが、回線条件や権限委譲の要件などを満たすために、拠点にも SharePoint を配置し、中央のデータセンターに配置した SharePoint の間で同期をするという利用パターンが必要になるケースがあります。そのような用途にレプリケーションが大きな役割を果たします。



低速回線や不安定な回線に対応するために、拠点にローカルサーバーを配置してレプリケーション。ローカルでも軽いレスポンスでアクセス可能にしたい。

2.2 F/W で保護された環境間での情報共有

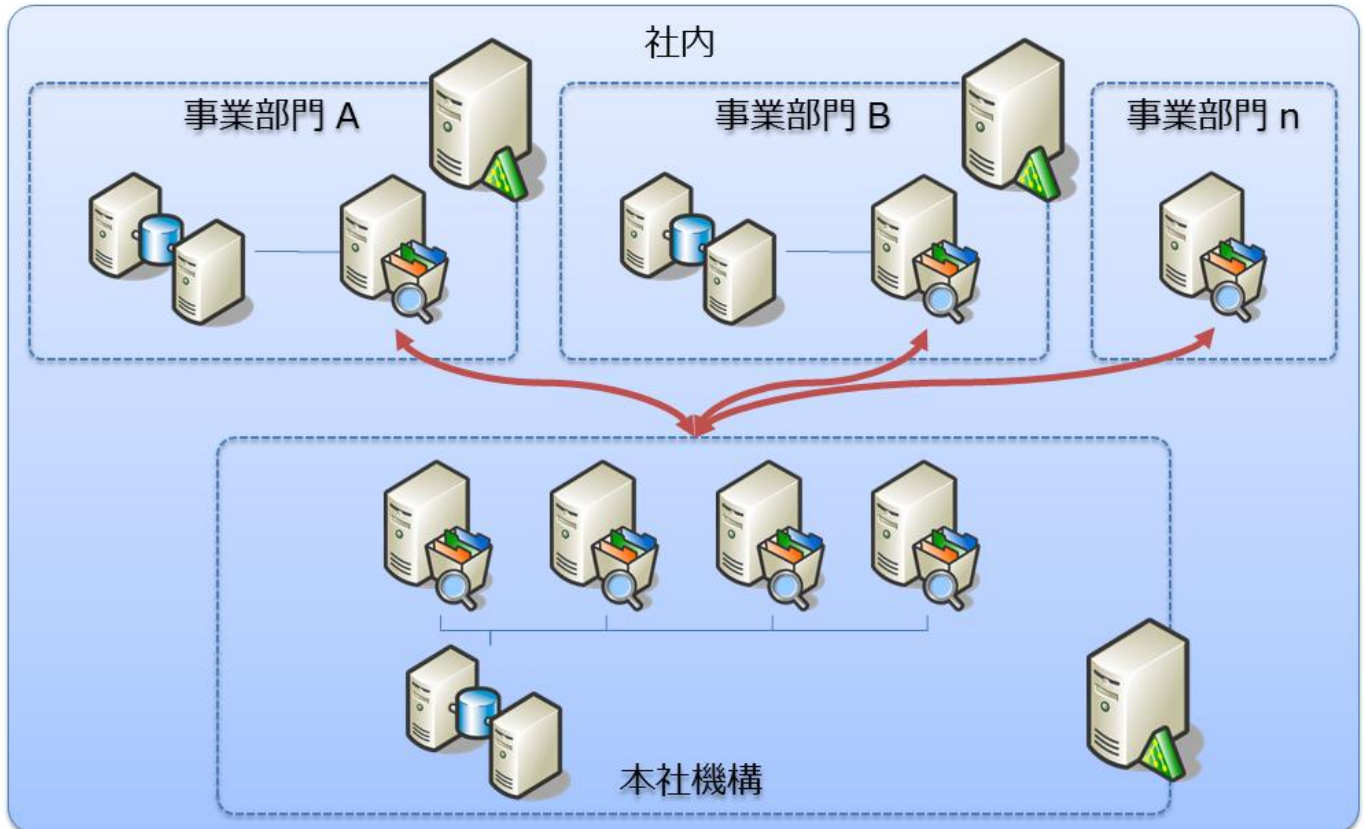
近年では、本体だけでなくグループ会社や取引先との間で共同作業を行うケースがあります。しかし、社外ユーザーに直接社内の SharePoint にアクセスを許可することはセキュリティ上問題があります。そのようなケースでは、エクストラネットや DMZ 上に SharePoint を別に配置し、社外ユーザーはそこへアクセスし、社内ユーザーは社内向けの SharePoint にアクセスし、共有が必要な必要最小限のコンテンツのみ、社内用の SharePoint と社外用の SharePoint の間でレプリケーションによって共有するという方式が必要になります。そのような用途にレプリケーションが大きな役割を果たします。



グループ会社や販売店など社外の利害関係者との情報共有の際に、ファイアーウォール内の社内リソースに直接アクセスさせたくない。エクストラネットに、グループ会社用の SharePoint を配置して、本体用の SharePoint と同期させたい。

2.3 事業部門毎に個別の SharePoint が存在する環境での情報共有

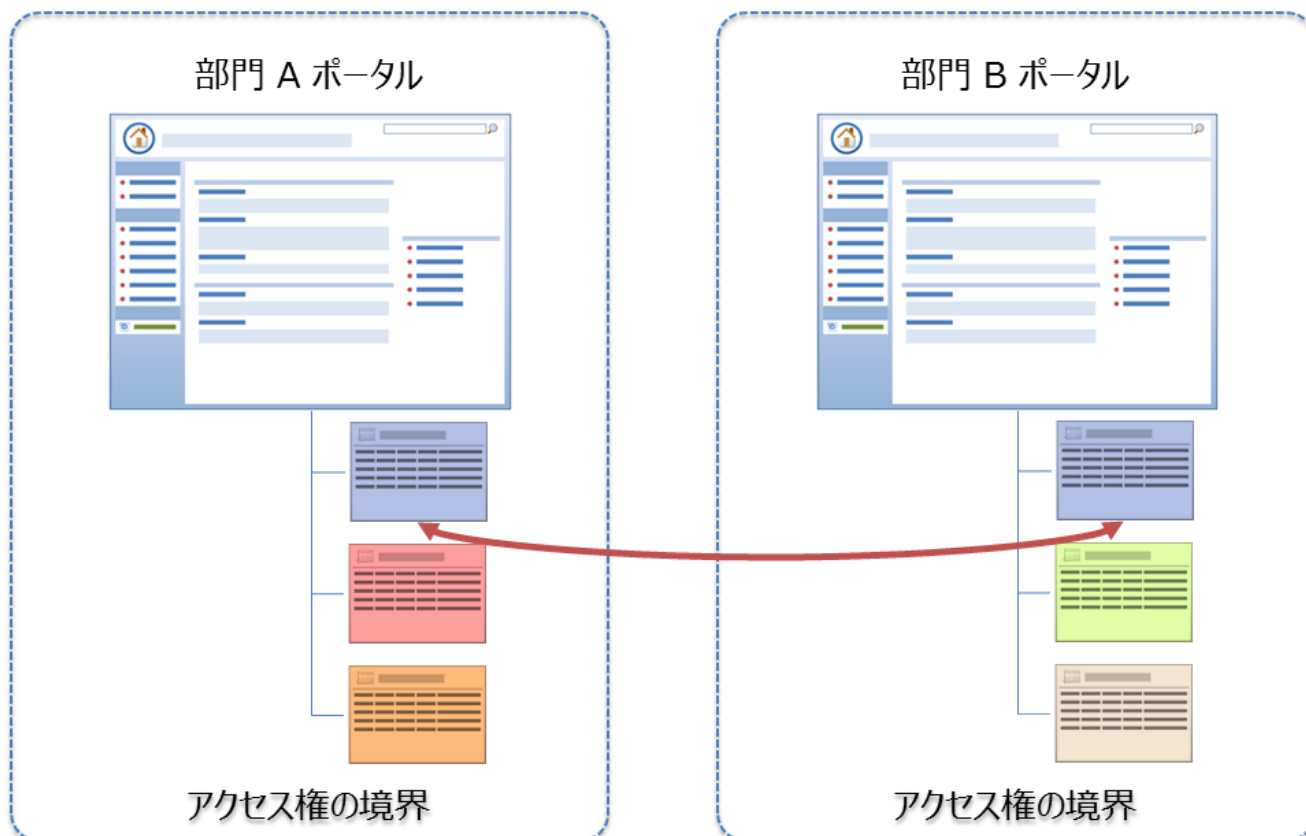
理想的には、社内に SharePoint のファームが 1 つだけ存在しているのが理想ですが、実際には政治的な理由、導入タイミングや利用したいバージョンの理由、バージョンアップなどのライフサイクルの違い、管理権限委譲レベルの理由から、事業部門毎に個別の SharePoint ファームが立てられる事も珍しくはありません。極端な場合では、Active Directoryすらも社内で統一化されていないことも、巨大企業では珍しくはありません。そのような環境においても、全社の情報共有基盤として組織横断の情報共有を実現するためには、導入されている SharePoint ファーム間を連結する事が必要になります。そのような用途にレプリケーションが大きな役割を果たします。



本社導入の全社向け SharePoint とは別に、事業部門の管理下の個別 SharePoint がある。しかも AD も別。レプリケーションを活用することで、管理権限を分けながら、一部のコンテンツを共有したい。

2.4 厳密な権限管理下での情報共有

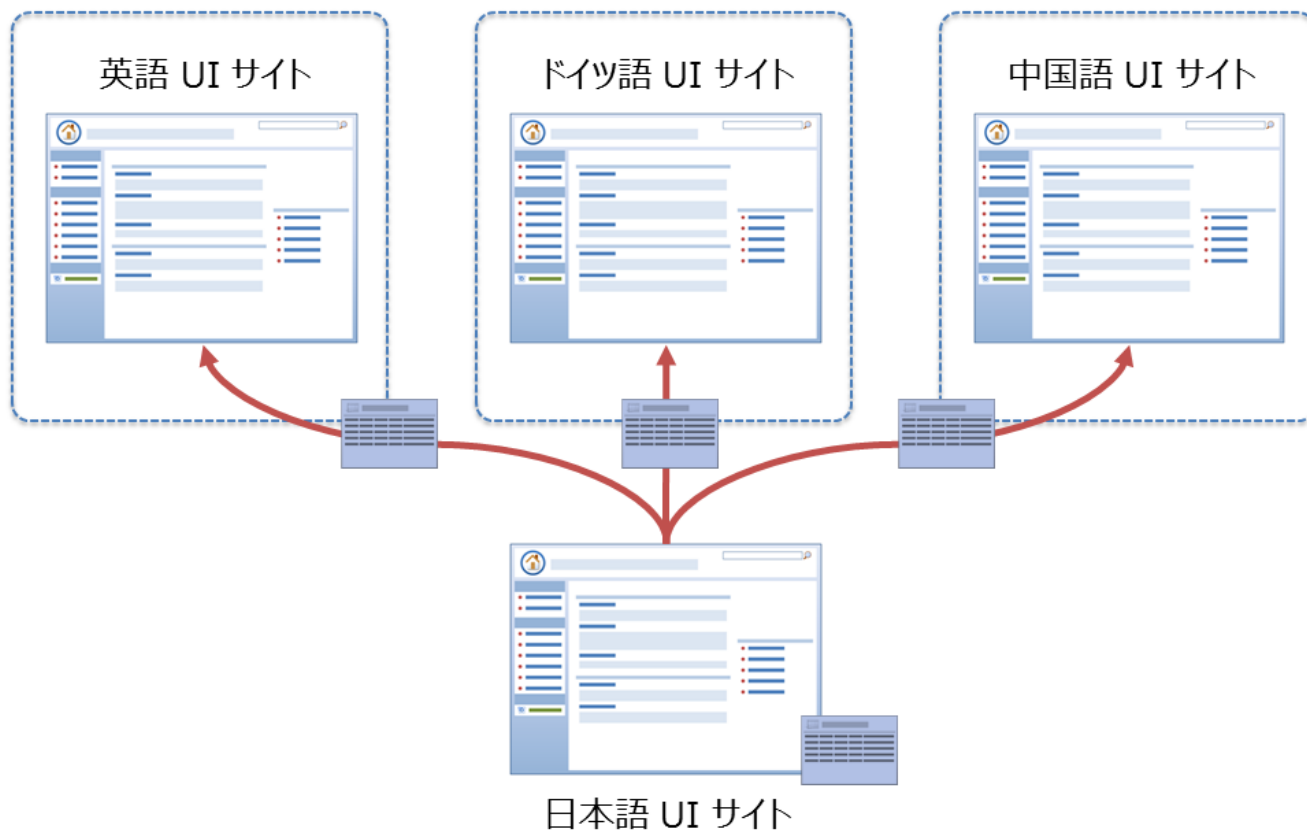
クロスグループの情報共有を行う場合に、セキュリティの管理をどうするかは大きな課題です。たとえば、部門 A と部門 B で情報を共有したい物の、相手方の部門にポータル全体の権限を付与したくないケースがあります。そのような場合、細かな権限設定をすることで対応は可能ですが、時間がたつ毎に権限管理が破綻してしまうのが現実です。たとえば、特定のドキュメントライブラリについては、両部門間でデータが同期されており、自身のポータルの中から情報を確認することが可能になります。そのような用途にレプリケーションが大きな役割を果たします。



部門Aポータルは部門Aのユーザーだけ、部門Bポータルは部門Bのユーザーだけがアクセス権がある。一部のコンテンツだけは共有したいので、ポータル全体にアクセス権を与えずに特定のリストやライブラリをレプリケーションしてコンテンツだけ両部門で共有したい。

2.5 異なる言語のサイトを併用

グローバル企業では、様々な言語を話すユーザーが存在します。コンテンツ自体は、英語などの共通の言語である物の、SharePoint のユーザーインターフェースは各国のユーザーにあわせて独自の言語で提供をしたいというケースがあります。その場合は、各言語の SharePoint サイトを構築しておき、その間を複製することで目的を達成可能です。そのような用途にレプリケーションが大きな役割を果たします。



異なる言語の UI を持ったサイトに対して、マスターとなるサイトからコンテンツを定期的に流し込みたい。

2.6 シナリオ別利用オプション対応表

このセクションでは、それぞれのシナリオにおける課題を解決するために、DocAve レプリケーターで利用するオプションについて説明します。

以下の表は、シナリオ別の利用オプションの一覧です。各オプションの概要、および設定方法の詳細は、[解説箇所]列に記載されている番号のセクションを参照して下さい。

表 2.6-1 シナリオ別使用オプションの対応表

レプリケーションのシナリオ項目	使用オプション	解説箇所
海外等分散拠点間での情報共有	バイトレベル差分 言語マッピング フィルタオプション 暗号化 帯域制御 圧縮 レプリケーションスケジュール	6.2.4.4
F/W で保護された環境間での情報共有	セキュリティのレプリケーション ユーザーマッピング フィルタオプション レプリケーションスケジュール	6 章参照
事業部門毎に個別の SharePoint が存在する環境での情報共有	フィルタオプション ユーザーマッピング フィルタオプション レプリケーションスケジュール	6 章参照
厳密な権限管理下での情報共有	フィルタオプション レプリケーションスケジュール	6 章参照
異なる言語のサイトを併用	言語マッピング レプリケーションスケジュール	6 章参照

第3章 DocAve レプリケーターの概要

本章では、DocAve レプリケーターの機能、および構成の概要を説明します。

3.1 アーキテクチャ

このセクションでは、DocAve レプリケーターアーキテクチャについて説明します。

DocAve は「マネージャー・エージェント方式」で動作しており、DocAve マネージャーと DocAve エージェントの 2 つの役割で構成されています。また、DocAve エージェントはエージェントグループという単位でグループ化して管理することが可能です。

以下に、DocAve レプリケーターにおける DocAve マネージャーと DocAve エージェント、およびエージェントグループの動作を説明します。

3.1.1 DocAve マネージャー

DocAve レプリケーターにおける DocAve マネージャーの役割は、大きく 2 つあります。

1 つ目は、管理者が管理画面から設定した設定情報を管理することです。レプリケーションの対象や条件を定義した「プラン」をはじめとする設定情報は、DocAve マネージャーによって管理されます。

2 つ目は、DocAve エージェントにレプリケーションの実行指示を出すことです。DocAve マネージャーは、プランで設定された内容に基づき、該当する DocAve エージェントへ処理の実行指示を出します。処理の開始後は、進行状況を管理します。

3.1.2 DocAve エージェント

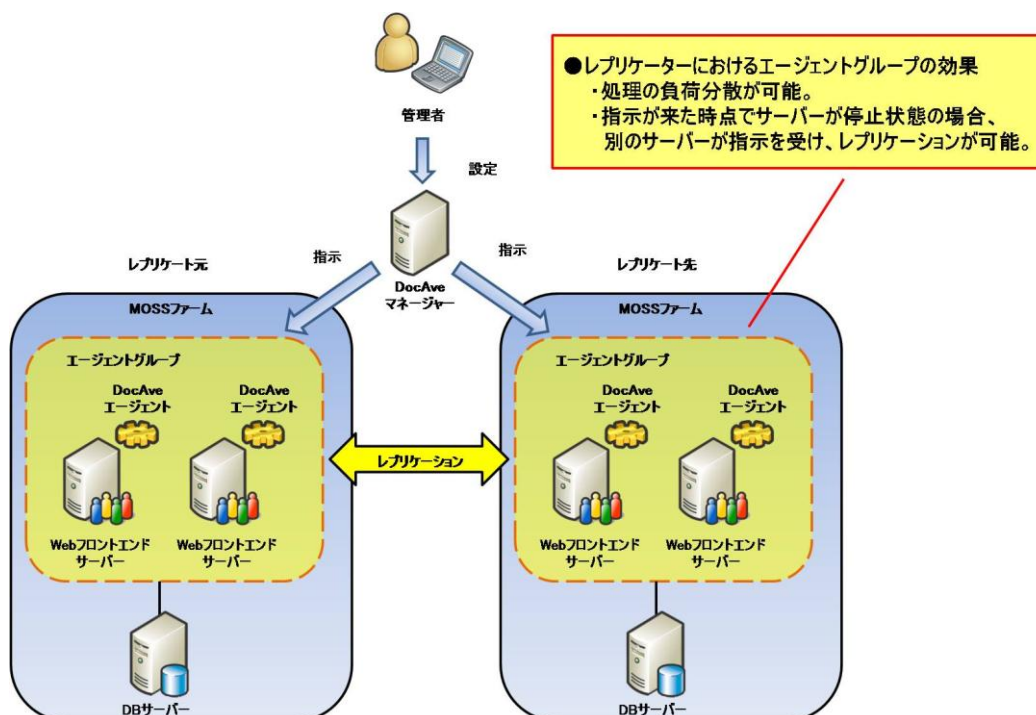
DocAve レプリケーターにおける DocAve エージェントの役割は、レプリケーションの処理を実行することです。DocAve エージェントは Web フロントエンドサーバー上で動作し、DocAve マネージャーからの指示を受けて処理を実行します。

3.1.3 エージェントグループ

同一ファーム内に導入された DocAve エージェントは、エージェントグループという単位でグループ化して管理することが可能です。エージェントグループ内に複数の DocAve エージェントがある場合、使用できるリソースが多いエージェントが優先的に処理を実行します。このため、1 台に処理が集中せず、エージェント同士で負荷分散を行うことが可能です。

また、DocAve エージェントが障害などで停止した場合も、エージェントグループ内に複数の DocAve エージェントがあれば、稼働しているエージェントによって処理が実行されます。この動作により、レプリケーションの冗長性を実現することが可能です。

図 3.1.3-1 DocAve レプリケーターアーキテクチャ



3.2 スケーラビリティ

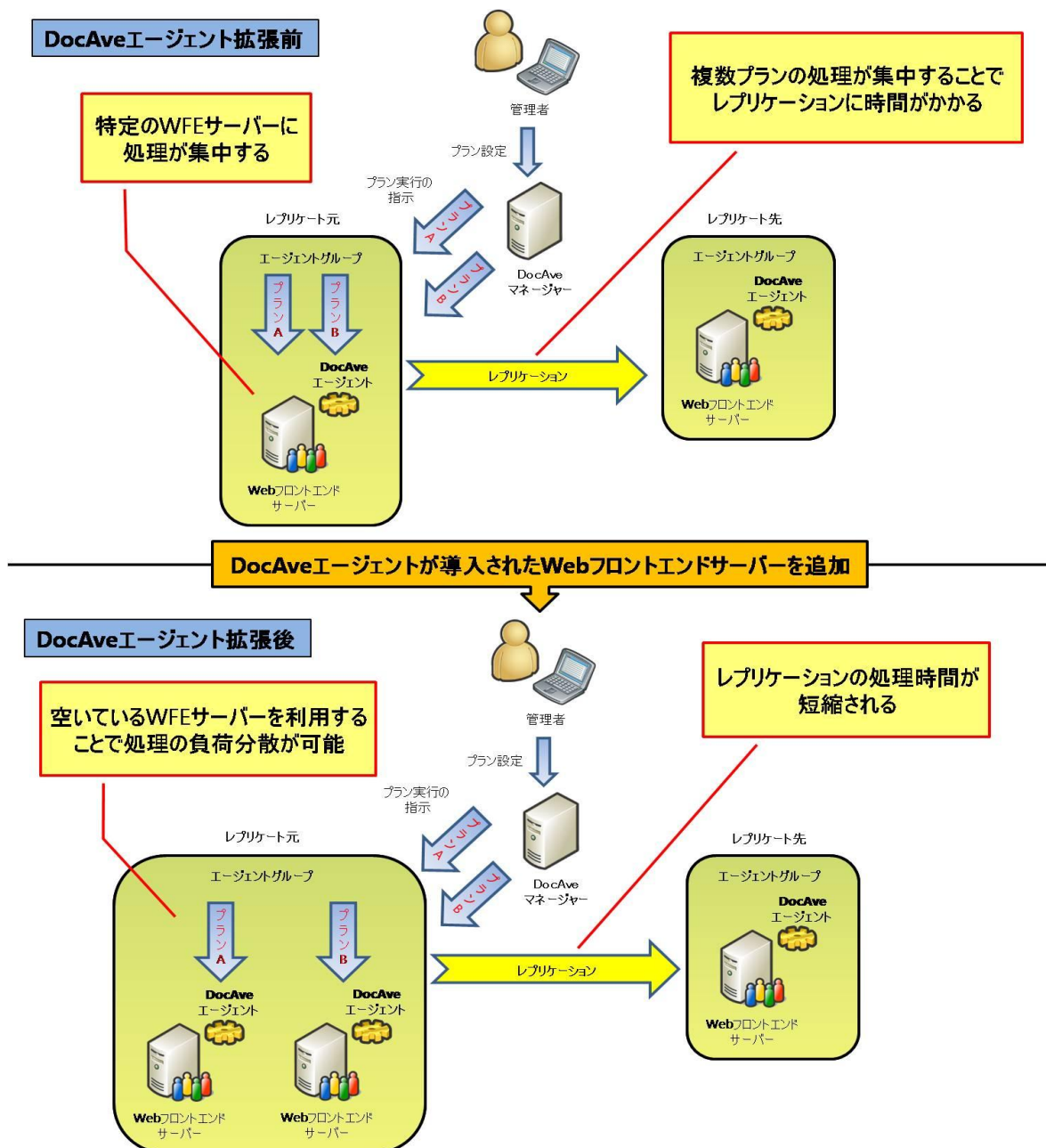
このセクションでは DocAve レプリケーターのスケーラビリティについて説明します。

多数のレプリケート処理が実行されている場合など、既存の DocAve エージェントへ非常に高い負荷がかかっている場合には、DocAve エージェントの拡張を検討します。DocAve では、DocAve エージェントをエージェントグループに追加するだけで、簡単に拡張を行うことが可能です。

例えば複数のプランを実行する場合、DocAve エージェントが 1 台の構成では、すべてのプランの処理が 1 台に集中してしまいます(下図の[DocAve エージェント拡張前]の状態)。結果、サーバーのリソースが少なくなり、パフォーマンスの低下につながります。

このような場合、Web フロントエンドサーバーを導入し、同じエージェントグループ内に DocAve エージェントを追加します(下図の[DocAve エージェント拡張後]の状態)。エージェントグループ内に複数のエージェントがある場合、使用できるリソースが最も多いエージェントが処理を実行する動きとなるため、処理の負荷分散を実現することが可能です。結果、個々のエージェントのパフォーマンスが向上し、拡張前よりレプリケーションの処理時間が短縮することも見込まれます。

図 3.2-1 DocAve レプリケーターの負荷分散



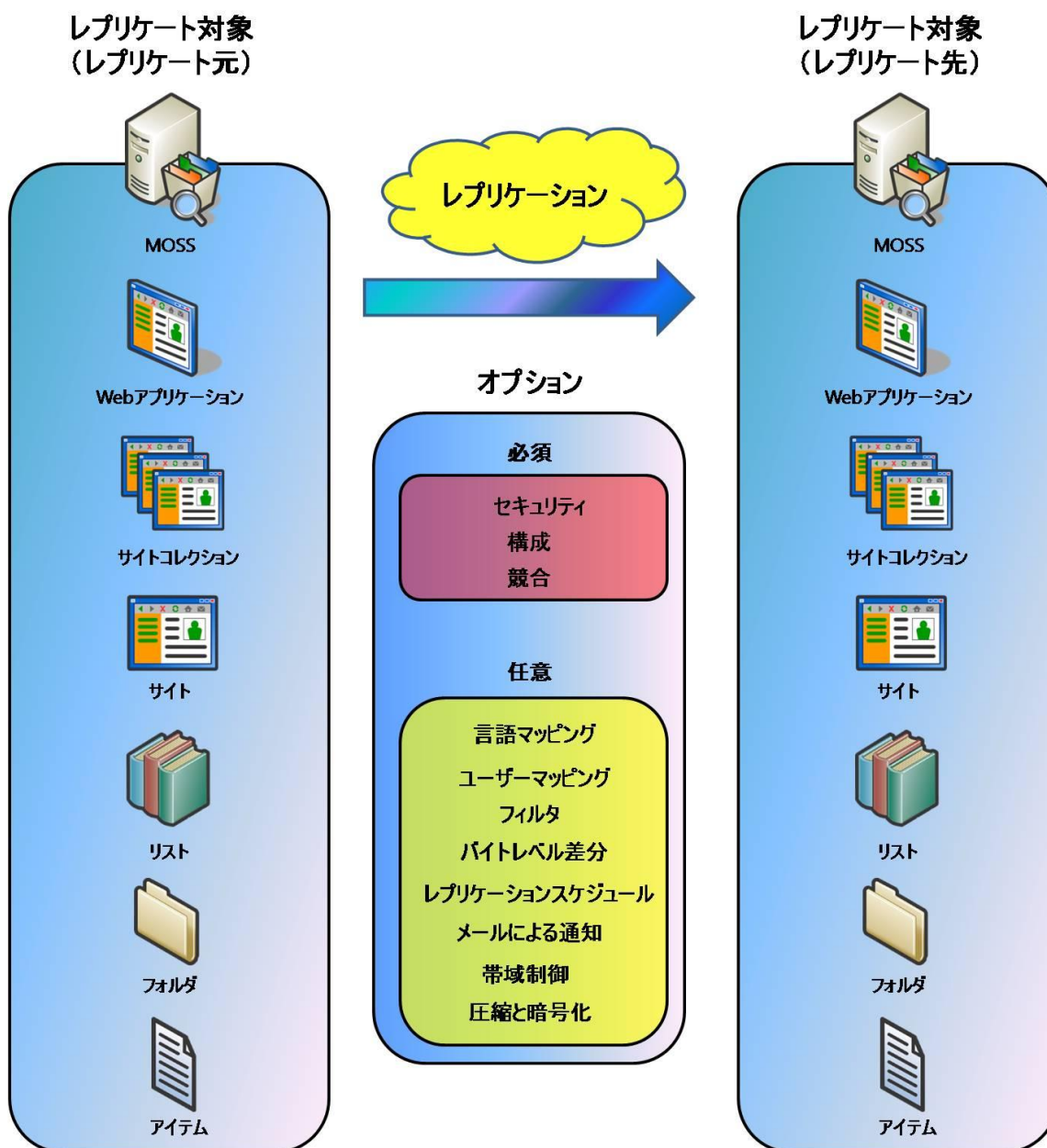
第4章 DocAve でのレプリケーションの考え方

本章では、DocAve レプリケーターを利用してレプリケーションを行う際に検討すべき要素について説明します。

4.1 レプリケーションの概要

このセクションではレプリケーションの概要について説明します。レプリケーションの際に必要な要素として、「レプリケート対象の選定」と「レプリケート時のオプションの選定」の2点があります。以下の[図 4.1-1 レプリケーションの概要図]は、レプリケーションの要素を表した図です。

図 4.1-1 レプリケーションの概要図



「レプリケート対象の選定」では、「何をレプリケーションしたいのか」という要件から、対象とする範囲を選定します。

「レプリケート時のオプションの選定」では、「どのようにレプリケーションを行いたいのか」という要件から、利用する DocAve レプリケーター オプションを選定します。

[4.2 レプリケート対象の選定]と[4.3 レプリケート時のオプションの選定]で、各項目の詳細を説明します。

4.2 レプリケート対象の選定

このセクションでは、レプリケーションの要素の1つである「レプリケート対象の選定」について説明します。

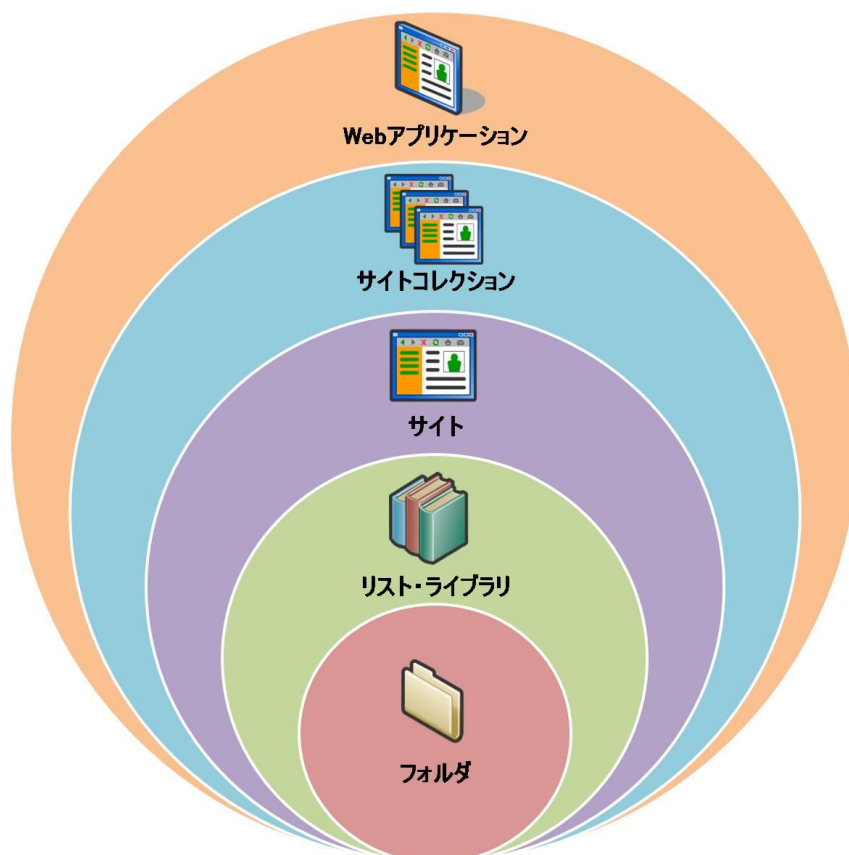
DocAve レプリケーターでは、何をレプリケーションしたいのかによって対象として指定すべき範囲が変化します。レプリケート対象は以下の[表 4.2-1 レプリケート対象一覧]に示す5種類の範囲で選択が可能です。

表 4.2-1 レプリケート対象一覧

項目	説明
Web アプリケーションレベル	Web アプリケーションとWeb アプリケーションの配下に存在するサイトコレクション、サイト、リスト、ライブラリ、フォルダ、アイテムをレプリケーションします。
サイトコレクションレベル	サイトコレクションとサイトコレクションの配下に存在するサイト、リスト、ライブラリ、フォルダ、アイテムをレプリケーションします。
サイトレベル	サイトとサイトの配下に存在するサブサイト、リスト、ライブラリ、アイテムをレプリケーションします。
リストレベル	リストとライブラリ、リストとライブラリの配下に存在するアイテムをレプリケーションします。
フォルダレベル	フォルダとフォルダの配下に存在するアイテムをレプリケーションします。

基本的に、レプリケート対象となる範囲が広いほどやり取りするデータ量は増大し、処理の時間は長くなります。以下の[図 4.2-1 レプリケート対象の包含図]は、各レプリケート対象の種類が含むレプリケート範囲を表したイメージ図です。

図 4.2-1 レプリケート対象の包含図



4.3 レプリケート時のオプションの選定

このセクションでは、レプリケーションの要素の1つである「レプリケート時のオプションの選定」について説明します。

レプリケート時に指定するオプションには必須のオプション設定と任意のオプション設定があります。[4.3.1 必須のオプション設定]と

[4.3.2 任意のオプション設定]のセクションで、各オプション設定について説明します。

4.3.1 必須のオプション設定

必須のオプションでは、セキュリティ情報など MOSS の構成に必須となる項目のレプリケート方法や、競合発生時の動作を設定することが可能です。必須のオプションは以下の[表 4.3.1-1 必須のオプション一覧]の通りです。各項目の設定方法は、[解説箇所]列に記載されている番号のセクションを参照してください。

表 4.3.1-1 必須のオプション一覧

項目	説明	解説箇所
セキュリティのレプリケーション	付与された権限をレプリケート対象として設定するオプションです。	6.2.3.1
構成のレプリケーション	機能やデザインをレプリケート対象として設定するオプションです。	6.2.3.2
競合のレプリケーション	レプリケート時に競合が発生した場合の動作を設定するオプションです。	6.2.3.3

4.3.2 任意のオプション設定

任意のオプションでは、帯域制御や圧縮など、レプリケート時に特定の条件を設定することが可能です。設定可能な任意のオプションは、以下の[表 4.3.2-1 任意のオプション一覧]の通りです。各項目の設定方法は、[解説箇所]列に記載されている番号のセクションを参照してください。

表 4.3.2-1 任意のオプション一覧

項目	説明	解説箇所
言語マッピング	異なる言語の MOSS 環境間において、リスト名と列名の言語を変換するオプションです。	6.2.4.1
ユーザーマッピング	レプリケート対象に付与されたユーザー情報(ドメイン名、ユーザー名)を置きかえるオプションです。	6.2.4.2
フィルタオプション	レプリケート対象のフィルタリングを行うオプションです。	6.2.4.3
バイトレベル差分	ドキュメントファイルなどのデータで、前回レプリケーションを行った後に更新された情報のみをレプリケート対象とするオプションです。	6.2.4.4
レプリケーションスケジュール	レプリケーションを実行するスケジュールの設定を行うオプションです。	6.2.4.5

メールによる通知	レプリケーションの実行結果や、競合が発生したことをメールで通知するオプションです。	6.2.4.6
帯域制御	レプリケーションを行う際の帯域幅と接続リトライ回数を設定するオプションです。	6.2.4.7
圧縮	データの圧縮を行い、レプリケーションを行う際のデータ量を減らすオプションです。	6.2.4.8
暗号化	レプリケーションを行う際に、データに暗号化を施すオプションです。	6.2.4.8

4.4 オフラインレプリケーションの検討

このセクションでは、オフラインレプリケーションを検討するケースについて説明します。

通常、レプリケーションを行うためには、レプリケート元とレプリケート先がネットワーク経由で通信する必要があります。ネットワークでつながっていない環境間や、利用できるネットワーク帯域が非常に狭い環境の場合には、オフラインレプリケーションの利用を検討します。

オフラインレプリケーションでは、レプリケート元のデータをエクスポート後、CD/DVD などの外部記憶媒体に保存してレプリケート先にデータを移動し、インポートを行うことが可能です。

これにより、ネットワークでつながっていない環境間などでも、レプリケーションを実現することができます。

オフラインレプリケーションの設定方法は、[6.3 プラン(オフラインレプリケーション)の作成]のセクションを参照してください。

第5章 使用するサンプル環境

本章では、本ドキュメントでレプリケーションの手順を紹介する際に使用するサンプルのシステム環境構成について説明します。

5.1 基本情報

このセクションでは[第 6 章 **DocAve を利用したレプリケーションの設定手順**]において使用するサンプル環境について説明します。

5.1.1 システム構成

本ドキュメントではより実践的な環境でのレプリケート手順を学習します。そのため、スタンドアロン環境ではなく MOSS のファーム構成を使用します。サーバー構成と MOSS のファーム構成を以下の[図 5.1.1-1 サーバー構成図]に示します。

図 5.1.1-1 サーバー構成図

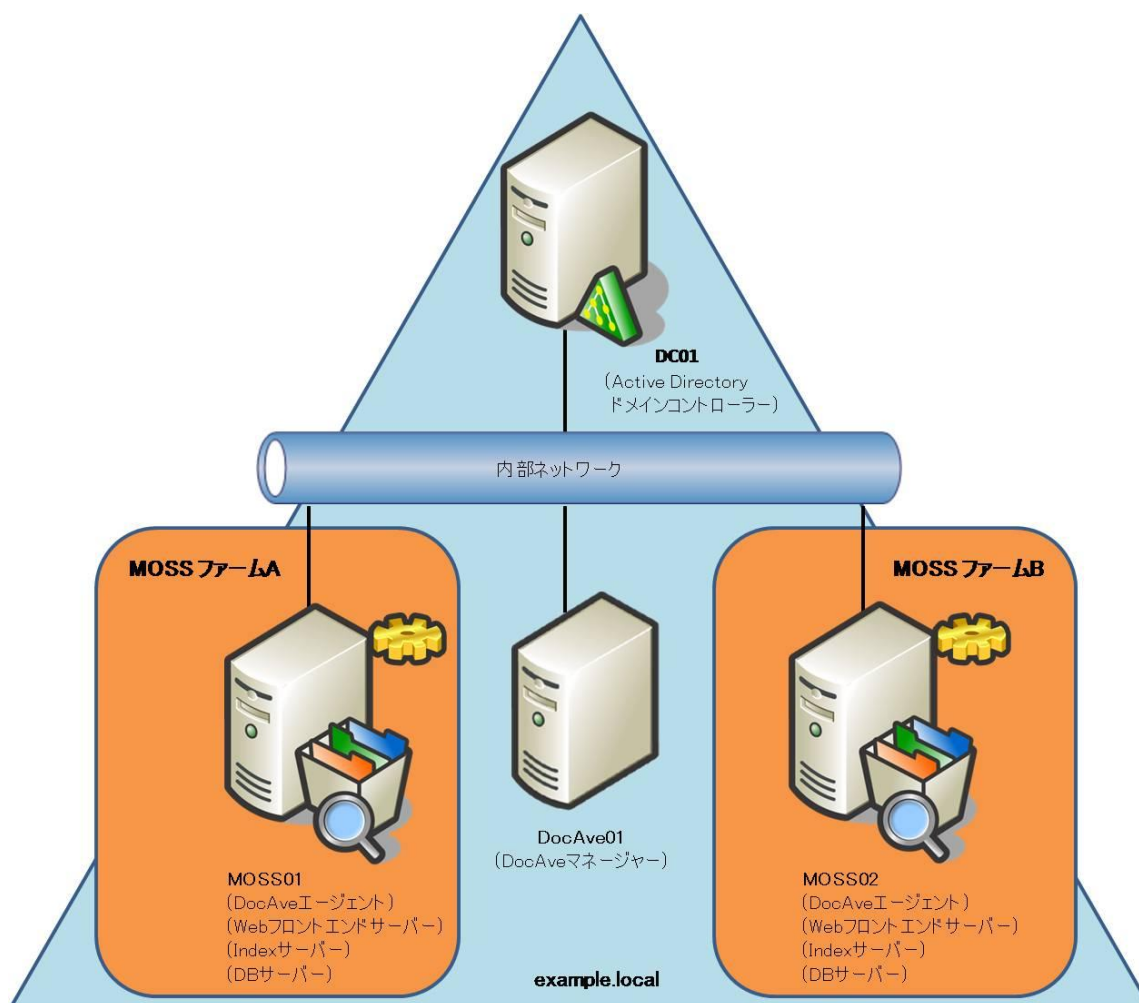


表 5.1.1-1 サーバー役割一覧

サーバー名	役割
DC01	Active Directory ドメインコントローラー
DocAve01	DocAve マネージャー
MOSS01	DocAve エージェント
MOSS02	Web フロントエンドサーバー
	Index サーバー
	DB サーバー

5.1.2 ソフトウェア構成

サンプル環境では、各サーバーに以下のソフトウェアが導入済みであることを前提とします。

表 5.1.2-1 ソフトウェア構成一覧

サーバー	ソフトウェアコンポーネント
DC01	<ul style="list-style-type: none">・Windows Server 2008 R2 Standard Edition・ドメインコントローラー (Active Directory)・DNS サーバー
DocAve01	<ul style="list-style-type: none">・Windows Server 2008 R2 Standard Edition・.NET Framework 3.5.1・DocAve マネージャー v5.4 (コントロールサービス/Web サービス/メディアサービス/監査サービス/検索サービス)
MOSS01 MOSS02	<ul style="list-style-type: none">・Windows Server 2008 R2 Standard Edition・.NET Framework 3.5.1・Internet Information Services 7.5・Microsoft Office SharePoint Server 2007 Standard Edition SP2・SQL Server 2008 Enterprise Edition SP1・DocAve エージェント v5.4 (レプリケーター)

第6章 DocAve を利用したレプリケーションの設定手順

本章では、DocAve レプリケーターによるレプリケーションの設定、および実行の手順を説明します。

6.1 レプリケーションの設定の流れ

このセクションではレプリケーションの設定から実行までの流れについて説明します。

レプリケーションは以下の[図 6.1-1 レプリケーションフローチャート]のフローに沿って進行します。各項目の作成方法、および設定方法は、フロー内に記載された番号のセクションを参照してください。また、以下の[表 6.1-1 フローチャート項目一覧]にそれぞれの概要について示します。

図 6.1-1 レプリケーションフローチャート

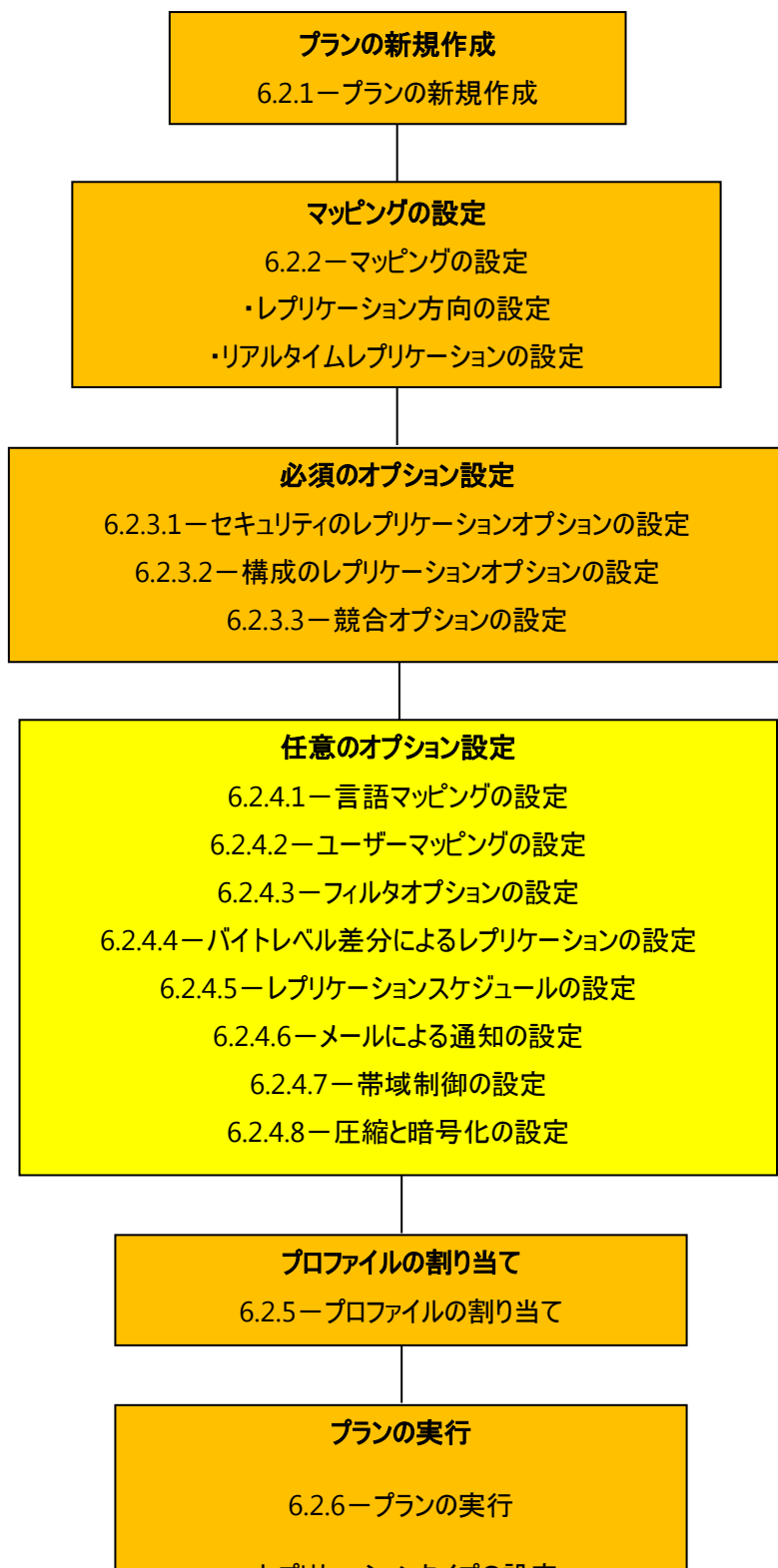


表 6.1-1 フローチャート項目一覧

必須／任意	項目	説明	解説箇所	
必須	プランの新規作成	プランを新規に作成します。	6.2.1	
	マッピングの設定	プランにマッピングの設定を行います。	6.2.2	
	必須のオプション設定	必須のオプション設定を行います。設定情報はプロファイルに保存されます。	・セキュリティのレプリケーションオプションの設定	6.2.3.1
			・構成のレプリケーションオプションの設定	6.2.3.2
			・競合オプションの設定	6.2.3.3
	プロファイルの割り当て	作成したプロファイルをプランに割り当てます。	6.2.5	
プランの実行	作成したプランを実行します。	6.2.6		
任意	任意のオプション設定	任意のオプション設定を行います。設定情報はプロファイルに保存されます。	-	
		・言語マッピングの設定	6.2.4.1	
		・ユーザーマッピングの設定	6.2.4.2	
		・フィルタオプションの設定	6.2.4.3	
		・バイトレベル差分によるレプリケーションの設定	6.2.4.4	
		・レプリケーションスケジュールの設定	6.2.4.5	
		・メールによる通知の設定	6.2.4.6	
		・帯域制御の設定	6.2.4.7	
・圧縮と暗号化の設定	6.2.4.8			

各オプションは、プランビルダー画面の以下に示す場所からプランに割り当てることが可能です。

図 6.1-2 オプションの割り当て画面(既定のレプリケーションオプション)

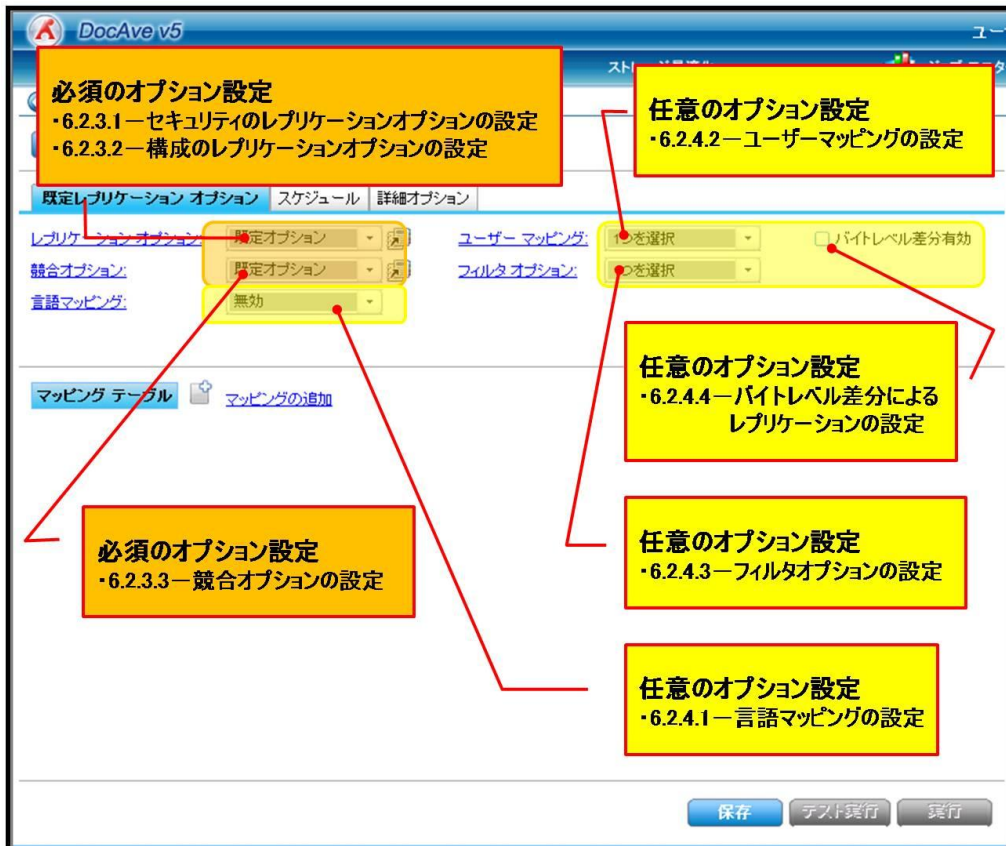


図 6.1-3 オプションの割り当て画面(スケジュール)

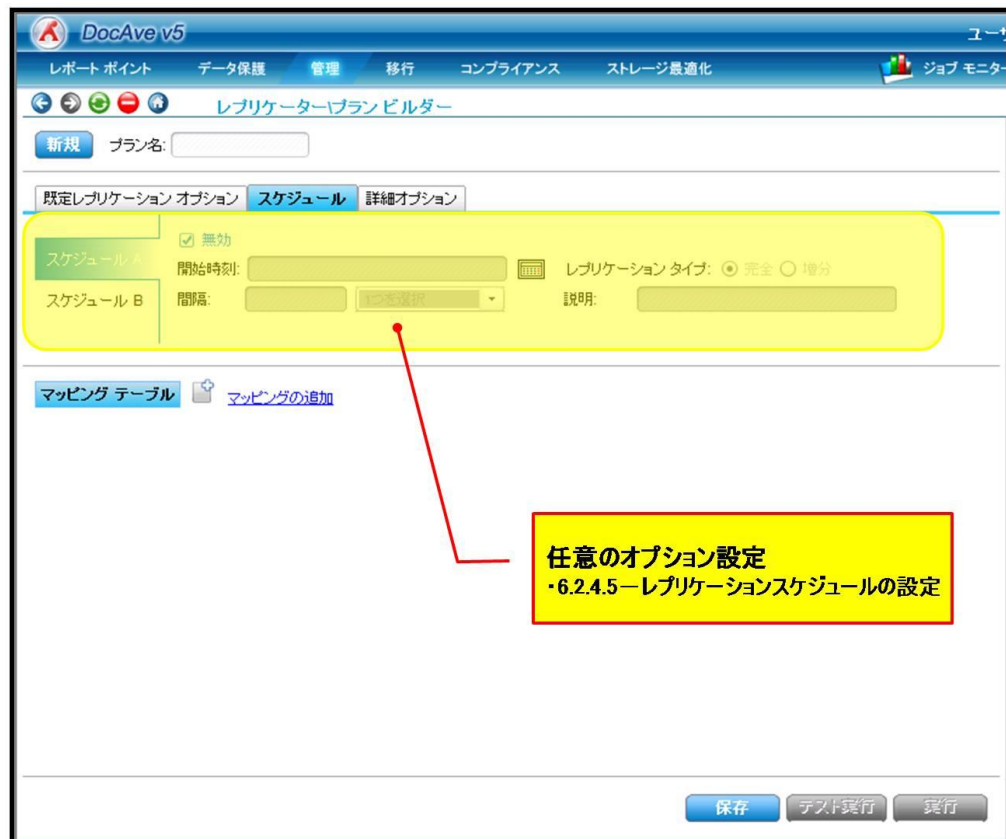
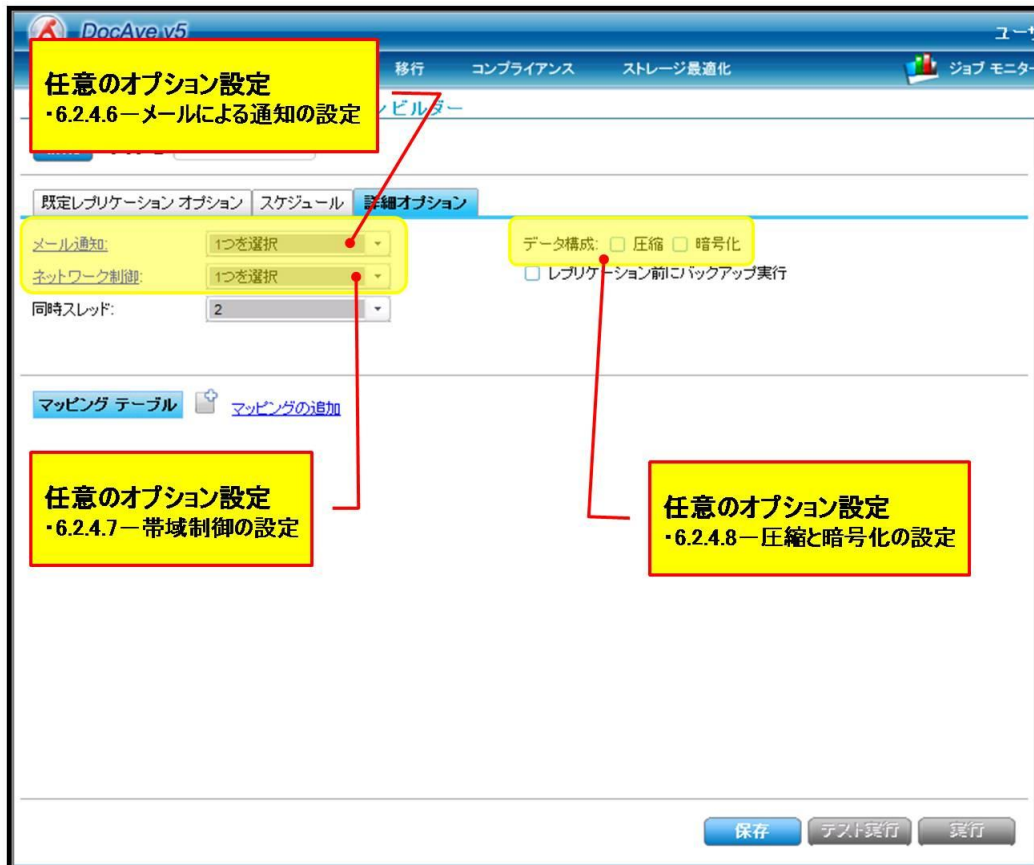


図 6.1-4 オプションの割り当て画面(詳細オプション)



6.2 プランの作成

このセクションでは、DocAve レプリケーターのプラン作成から実行までの手順について説明します。

プランを作成する際、1つのプランに対してレプリケート元として指定できるエージェントグループは1つのみです。レプリケート元のエージェントグループを変更したい場合は、新たにプランを作成する必要があります。

6.2.1 プランの新規作成

このセクションではプランの新規作成の手順について説明を行います。

- (1) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



- (2) 新規にプランを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プラン名]を入力します。

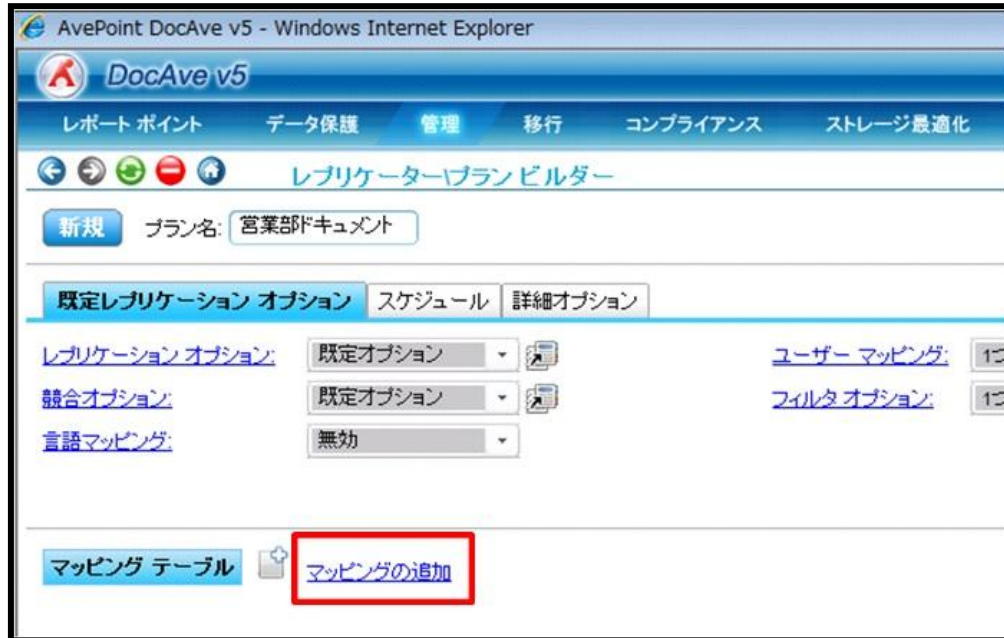


- (3) 続いて[6.2.2 マッピングの設定]の手順を実施します。

6.2.2 マッピングの設定

このセクションではマッピングの設定手順について説明します。マッピングの設定では、レプリケート元とレプリケート先の対応付けをします。1つのプランには複数のマッピングを設定することが可能です。また、各マッピングのレプリケーションの方向、タイミングについてもマッピングの設定時に指定します。

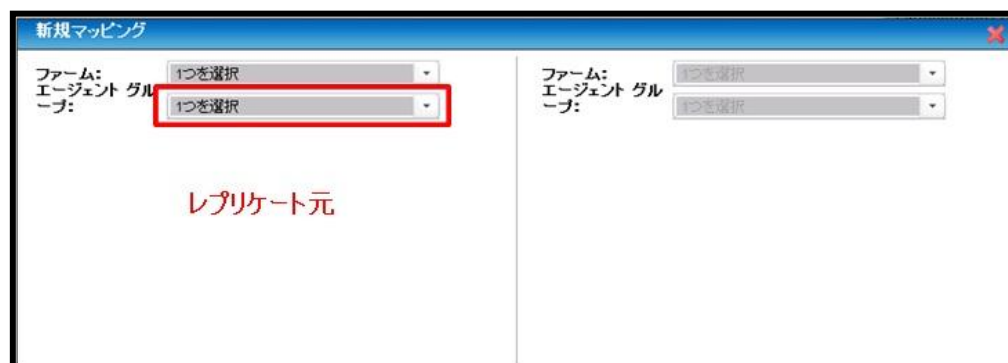
- (1) 新規にマッピングを作成します。[マッピングテーブル]の[マッピングの追加]を選択します。



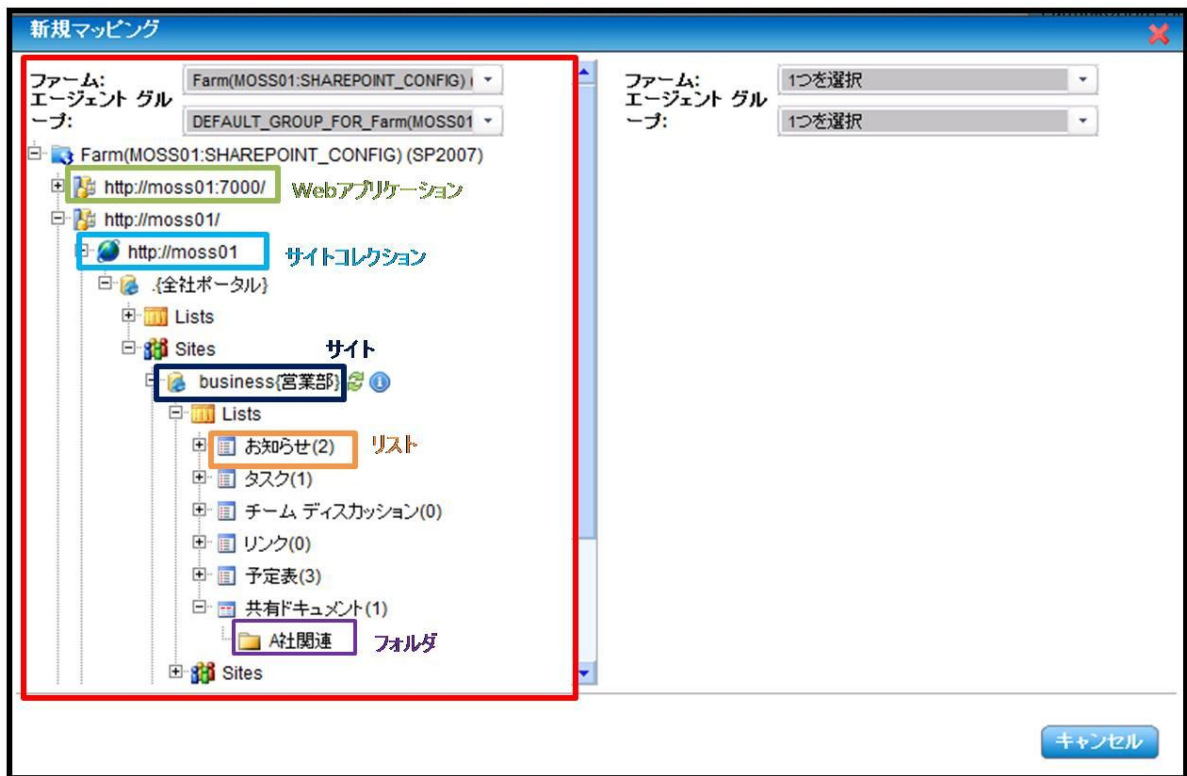
- (2) [新規マッピング]ウィンドウが表示されます。画面左の[ファーム]のプルダウンからレプリケート元のファームを選択します。



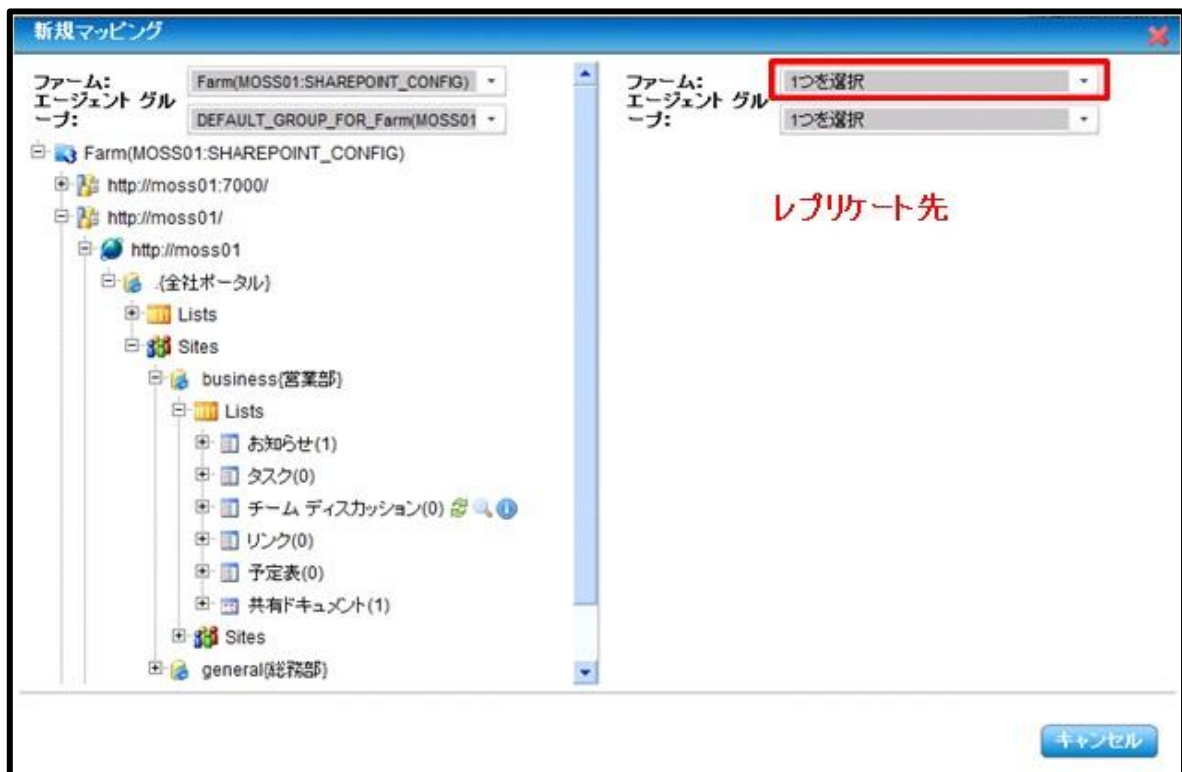
- (3) (2)で選択したファームに属する[エージェントグループ]を選択します。



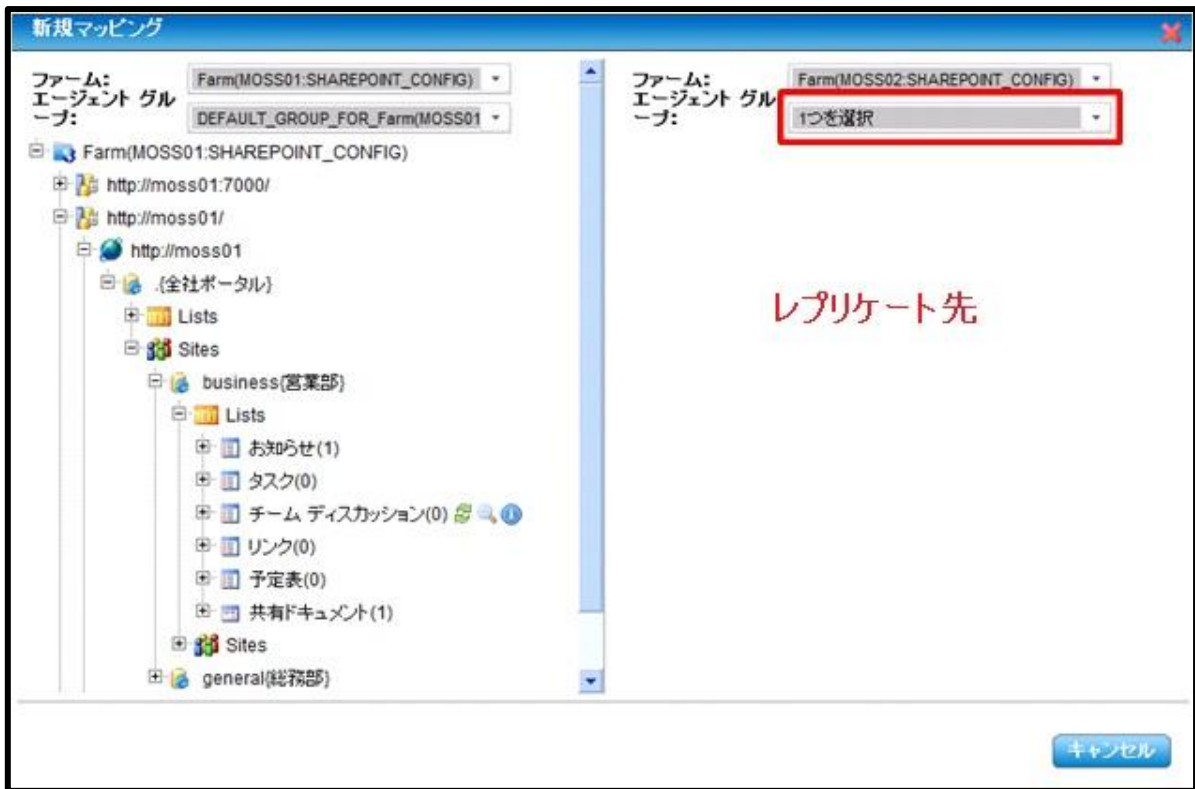
- (4) 画面左のファームのツリーを展開します。ツリーの各階層と MOSS における範囲の対応は、下図に示す通りです。



- (5) 画面右の[ファーム]のプルダウンからレプリケート先のファームを選択します。



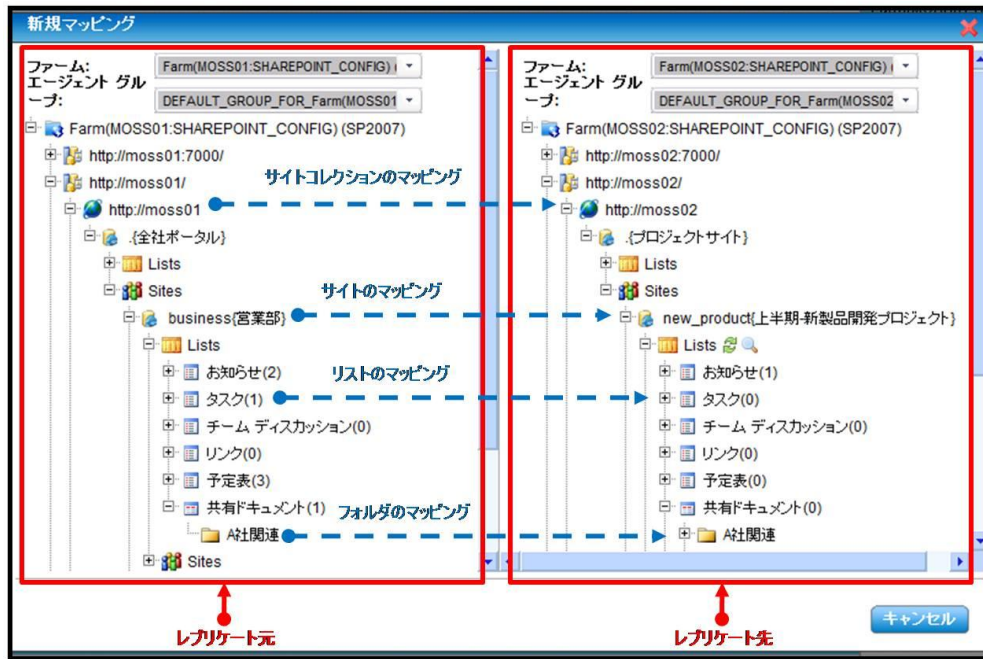
- (6) (5)で選択したファームに属する[エージェントグループ]を選択します。



- (7) 画面右のファームのツリーを展開します。ツリーの各階層と MOSS における範囲の対応は、下図に示す通りです。

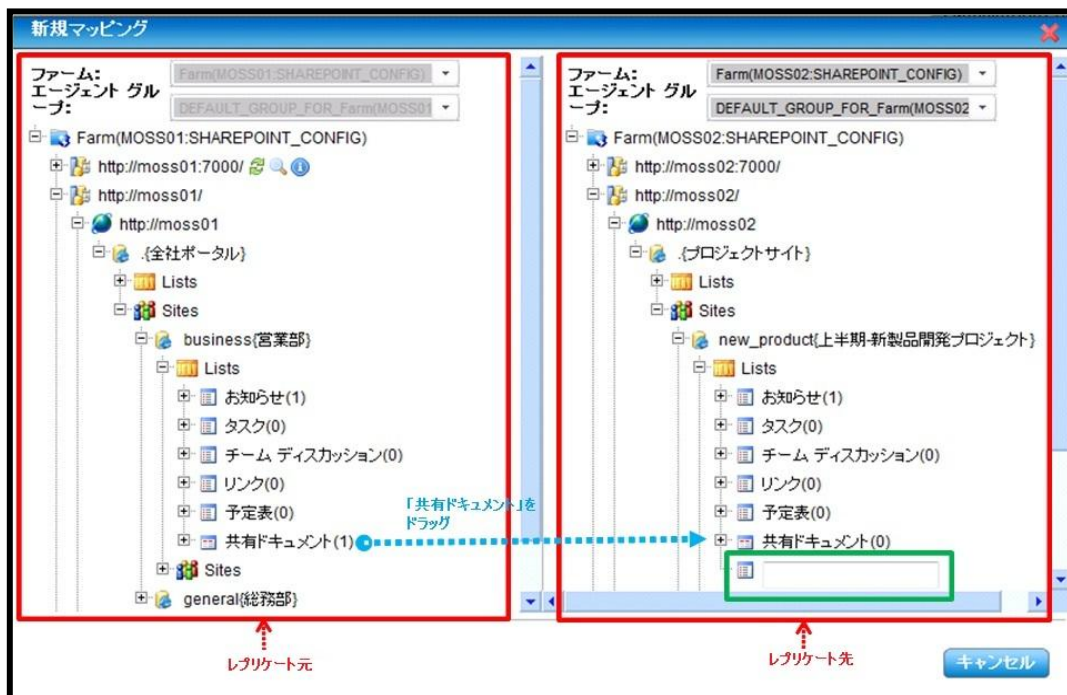


- (8) 展開したレプリケート元のツリーから、対応付けするレプリケート対象をレプリケート先へドラッグ & ドロップします。ただし、サイト同士、リスト同士など、同じレベル同士でのみ対応付けが可能です。



例えば、「営業部」サイトの「共有ドキュメント」リストを「上半期-新製品開発プロジェクト」サイトの「共有ドキュメント」リストにレプリケーションする場合、左のレプリケート元にある「共有ドキュメント」を右のレプリケート先にある「共有ドキュメント」へドラッグ & ドロップして対応付けます。

また、空白の入力ボックス(下図右下の緑の枠線で囲まれた箇所)に任意の名前を入力し、レプリケート先として対応付けすることで、新たにサイトやリストなどを作成しながらレプリケーションを行うことも可能です。



- (9) レプリケーションの方向を設定します。[レプリケーター設定]ウインドウにて、[マッピングのタイプ]のラジオボタンを選択します。
[マッピングのタイプ]の選択項目は以下の[表 6.2.2-1 マッピングタイプ一覧]の通りです。



表 6.2.2-1 マッピングタイプ一覧

種類	項目	内容
マッピングタイプ	単方向	レプリケート元からレプリケート先へ方向のレプリケーションを行います。
	双方向	レプリケート元とレプリケート先の間で双方向のレプリケーションを行います。

- (10) リアルタイムレプリケーションを設定します。[設定]の項目を選択します。[設定]の選択項目は以下の[表 6.2.2-2 レプリケーター設定一覧]の通りです。

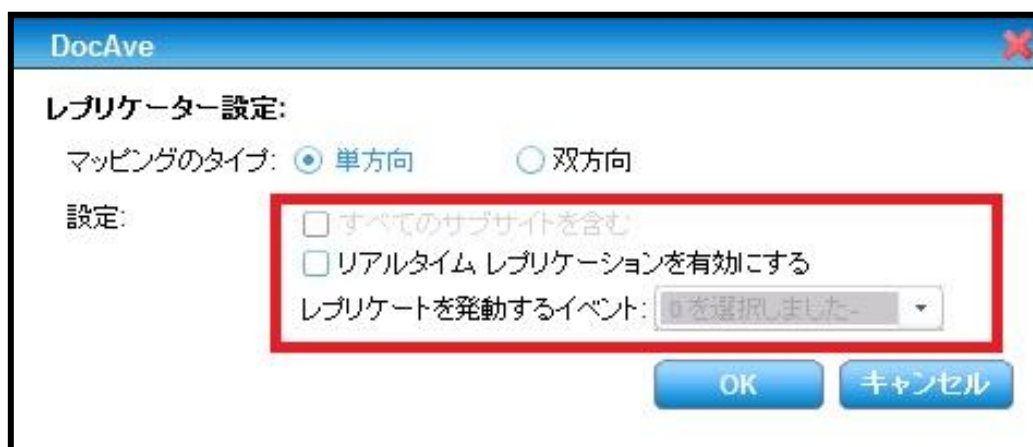


表 6.2.2-2 レプリケーター設定一覧

種類	項目	内容
設定	すべてのサブサイトを含む	有効にすることで、サイトをレプリケーションする際にサブサイトを含むことが可能です。 この項目は、サイトレベルのみ有効/無効の設定が可能です。またサイトコレクションレベルの場合は自動で有効となります。
	リアルタイム レプリケーションを有効にする	有効にすることで、特定の操作をトリガとして動作するリアルタイムレプリケーションを行うことが可能です。
	レプリケートを発動するイベント	リアルタイムレプリケーションが動作する際のトリガの設定を行います。トリガとして設定可能なイベントは以下の項目です。 <ul style="list-style-type: none"> ・新規フォルダ/アイテム ・フォルダ/アイテムの更新 ・フォルダ/アイテムの削除 ・フォルダ/アイテムの移動 ・チェックイン ・チェックアウト ・チェックアウトの破棄 ・リストの列の変更

(11) マッピングを保存します。[OK]ボタンをクリックします。

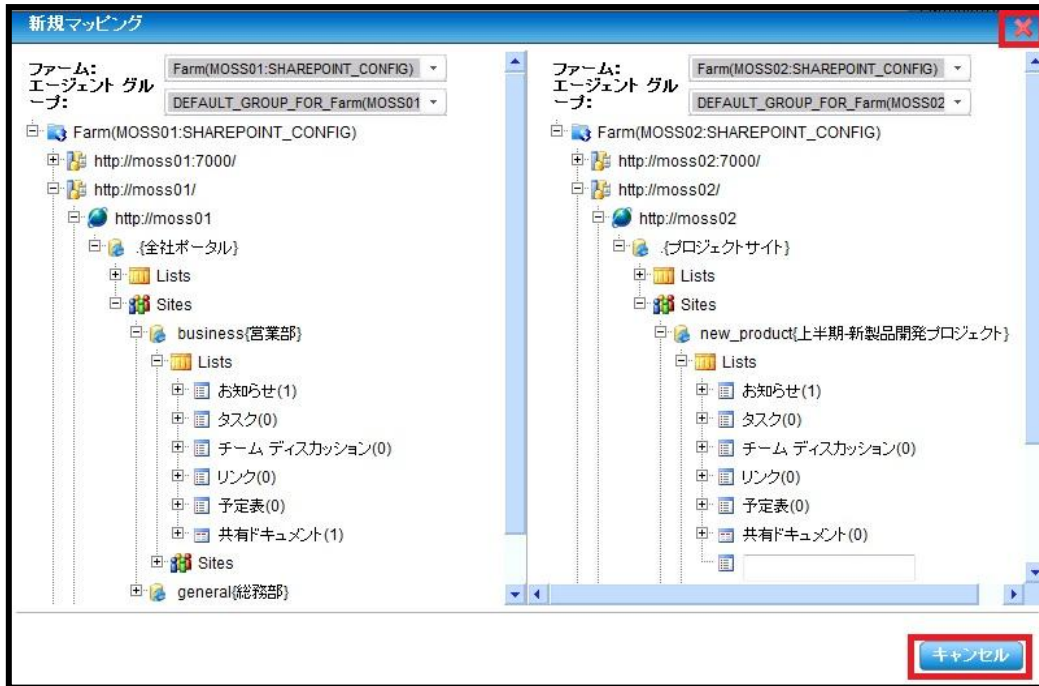


(12) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。

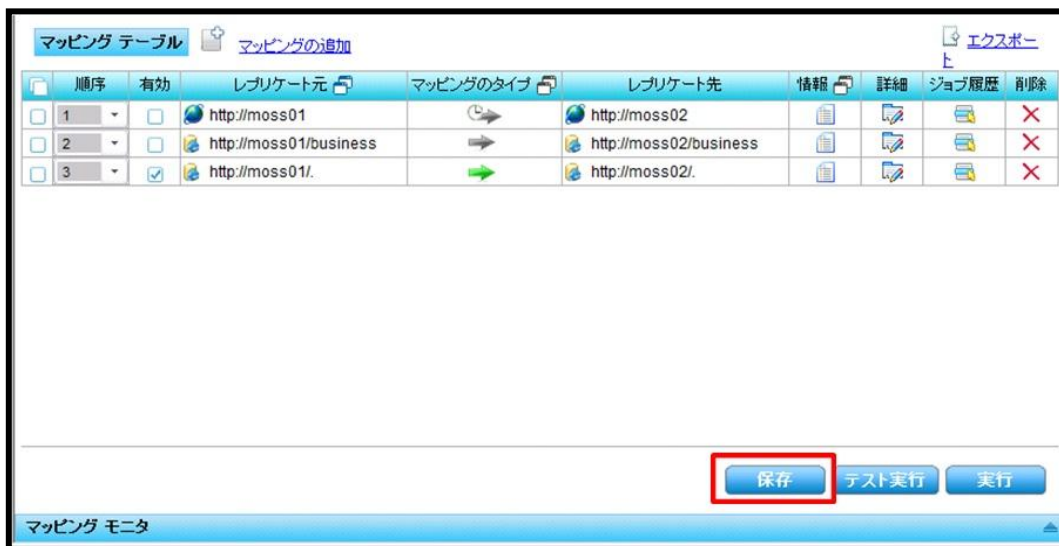


(13) [新規マッピング]ウインドウに戻ります。マッピングを追加する場合は(5)～(12)の手順を繰り返し行います。

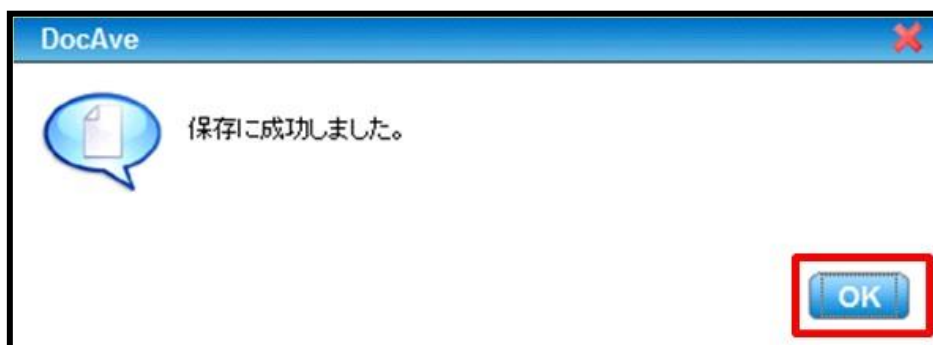
- (14) 必要なマッピングの設定が終了した場合、右上の[×]か右下の[キャンセル]ボタンをクリックして[新規マッピング]ウインドウを閉じます。



- (15) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (16) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- (17) 作成したプランを確認する際は、[プラン ビューア]より任意のプランを選択します。以下の[表 6.2.2-3 マッピング設定項目一覧]の項目を確認、および再設定することが可能です。



表 6.2.2-3 マッピング設定項目一覧

項目	内容
順序	プランの中に複数のマッピングを作成した場合、レプリケーションを行う順序を設定します。
有効	プランの中に複数のマッピングを作成した場合、プランの実行時に有効とするマッピングを設定します。チェックを無効にした場合、該当するマッピングはプランを実行してもレプリケーションが行われません。
レプリケート元	レプリケート元の URL が表示されます。
マッピングのタイプ	(9)と(10)の手順で設定した[レプリケーター設定]を再度設定します。
レプリケート先	レプリケート先の URL が表示されます。
情報	[既定レプリケーションオプション]タブで設定するオプションに限り、マッピング別に個別のオプションを設定することが可能です。
詳細	レプリケート元のレプリケート対象を確認します。
ジョブ履歴	マッピングの実行履歴を確認します。
削除	プランからマッピングを削除します。

- (18) 続いて[6.2.3 必須のオプション設定] の手順を実施します。

6.2.3 必須のオプション設定

このセクションではレプリケーションの必須のオプション設定について説明します。必須のオプションは、「セキュリティ」、「構成」、「競合」の3種類です。

6.2.3.1 セキュリティのレプリケーションオプションの設定

セキュリティのオプションを設定することで、サイトやリストなどに付与された権限をどのようにレプリケーションするか定義することが可能です。既定では、すべてのセキュリティ情報がレプリケーションされます。レプリケート先の権限を保ちたい場合など、レプリケーションするセキュリティ情報を変更する場合には、以下の手順を実施します。

なお、セキュリティのオプションは[6.2.3.2 構成のレプリケーションオプションの設定]で記載する構成のオプションと同一のプロファイルに設定する必要があります。

- (1) セキュリティオプションの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定]を選択します。



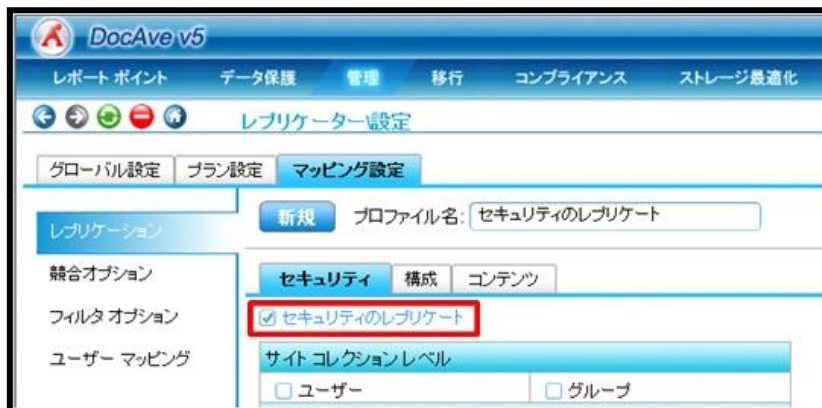
- (2) [マッピング設定]-[セキュリティ]タブを選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



- (4) [セキュリティのレプリケート]のチェックを確認します。セキュリティ情報のレプリケーションを無効にする場合はチェックを外し、手順(10)に進みます。



- (5) サイトコレクションレベルの設定
 サイトコレクションレベルにおけるセキュリティのレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.1-1 サイトコレクションレベル設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.3.1-1 サイトコレクションレベル設定項目一覧

項目	内容
ユーザー	MOSS のサイトの設定画面における「ユーザーと権限」-「ユーザーとグループ」の以下の項目のレプリケーションを行います。 ・すべてのユーザー 本項目の情報をレプリケート先に反映する場合には、「サイトレベル」の「ユーザー」を合わせて選

	<p>択する必要があります。</p>
<p>グループ</p>	<p>MOSS のサイトの設定画面における「ユーザーと権限」「ユーザーとグループ」の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他 <p>本項目の情報をレプリケート先に反映する場合には、「サイトレベル」の「グループ」を合わせて選択する必要があります。</p>

(6) サイトレベルの設定

サイトレベルにおけるセキュリティのレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.1-2 サイトレベル設定項目一覧]の通りです。

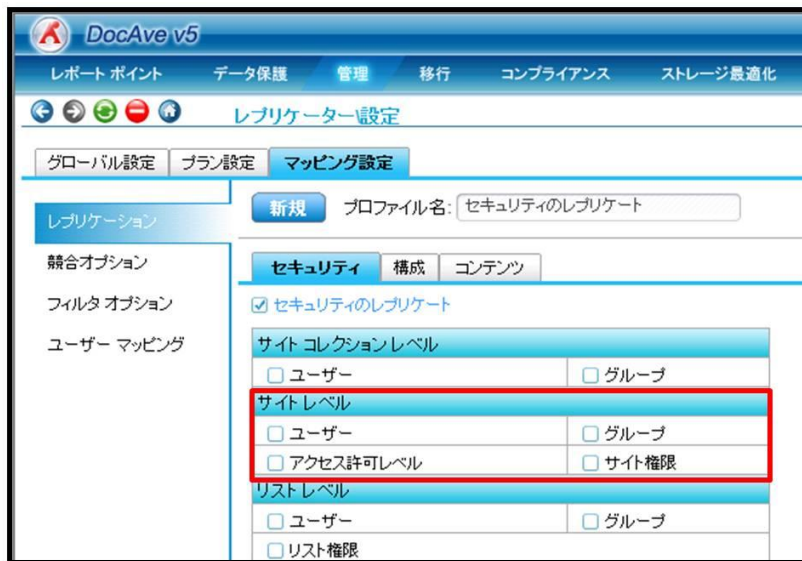


表 6.2.3.1-2 サイトレベル設定項目一覧

項目	内容
ユーザー	サイトに対して直接権限が付与されているユーザー情報のみレプリケーションを行います。合わせて[サイト権限]の項目を有効にした場合、ユーザー情報とサイトに対する権限がレプリケーションされます。
グループ	サイトに対して直接権限が付与されているグループ情報のみレプリケーションを行います。合わせて[サイト権限]の項目を有効にした場合、グループ情報とサイトに対する権限がレプリケーションされます。
アクセス許可レベル	MOSS のサイトの設定画面における「 ユーザーと権限 」-「 サイト権限 」の以下の項目のレプリケーションを行います。 ・権限(アクセス許可レベル)
サイト権限	MOSS のサイトの設定画面における「 ユーザーと権限 」の以下の項目のレプリケーションを行います。 ・サイト権限 サイト権限は単独で有効にすることはできません。[ユーザー]、[グループ]、[アクセス許可レベル]の項目と合わせて有効にする必要があります。

(7) リストレベルの設定

リストレベルにおけるセキュリティのレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.1-3 リストレベル設定項目一覧]の通りです。

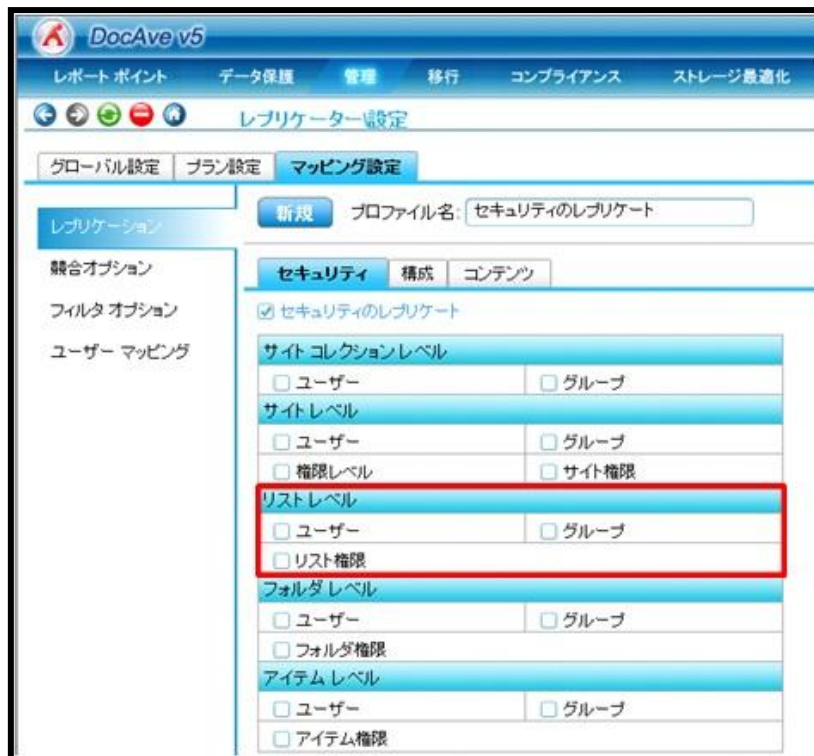


表 6.2.3.1-3 リストレベル設定項目一覧

項目	内容
ユーザー	リストに対して直接権限が付与されているユーザー情報のみレプリケーションを行います。合わせて[リスト権限]の項目を有効にした場合、ユーザー情報とリストに対する権限がレプリケーションされます。
グループ	リストに対して直接権限が付与されているユーザー情報のみレプリケーションを行います。合わせて[リスト権限]の項目を有効にした場合、ユーザー情報とリストに対する権限がレプリケーションされます。
リスト権限	リストに割り当てられた権限(ユーザー、グループ)のレプリケーションを行います。サイト権限は単独で有効にすることはできません。[ユーザー]、[グループ]と合わせて有効にする必要があります。

(8) フォルダレベルの設定

フォルダレベルにおけるセキュリティのレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.1-4 フォルダレベル設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.3.1-4 フォルダレベル設定項目一覧

項目	内容
ユーザー	フォルダに対して直接権限が付与されているユーザー情報のみレプリケーションを行います。合わせて [フォルダ権限] の項目を有効にした場合、ユーザー情報とフォルダに対する権限がレプリケーションされます。
グループ	フォルダに対して直接権限が付与されているグループ情報のみレプリケーションを行います。合わせて [フォルダ権限] の項目を有効にした場合、グループ情報とフォルダに対する権限がレプリケーションされます。
フォルダ権限	フォルダに割り当てられた権限(ユーザー、グループ)のレプリケーションを行います。ただしフォルダ権限は単独で有効にすることはできません。 [ユーザー] 、 [グループ] と合わせて有効にする必要があります。

(9) アイテムレベルの設定

アイテムレベルにおけるセキュリティのレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.1-5 アイテムレベル設定項目一覧]の通りです。

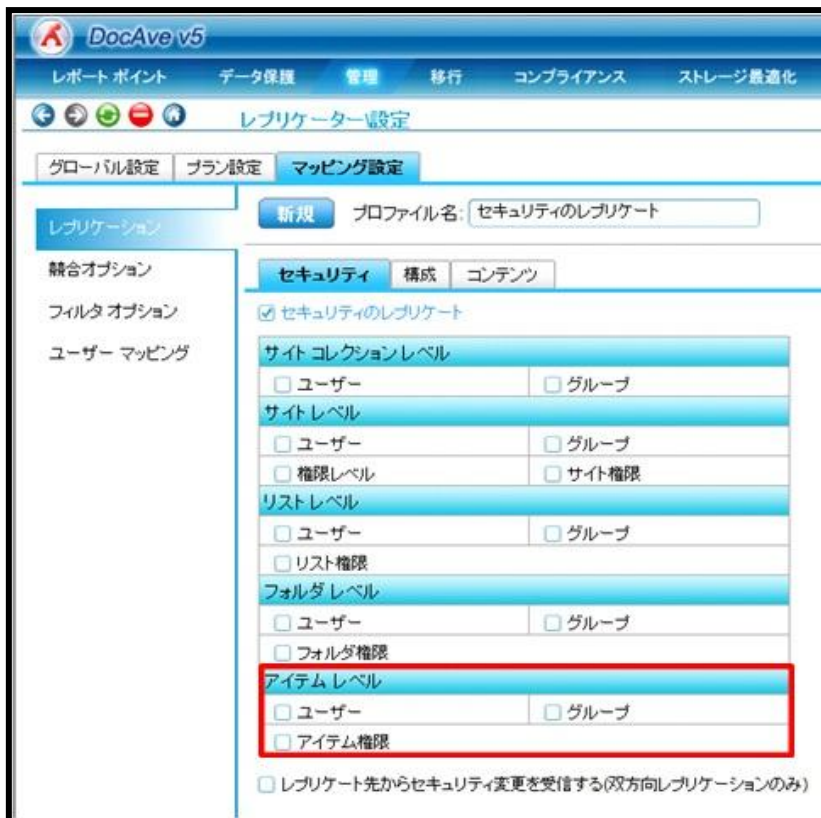
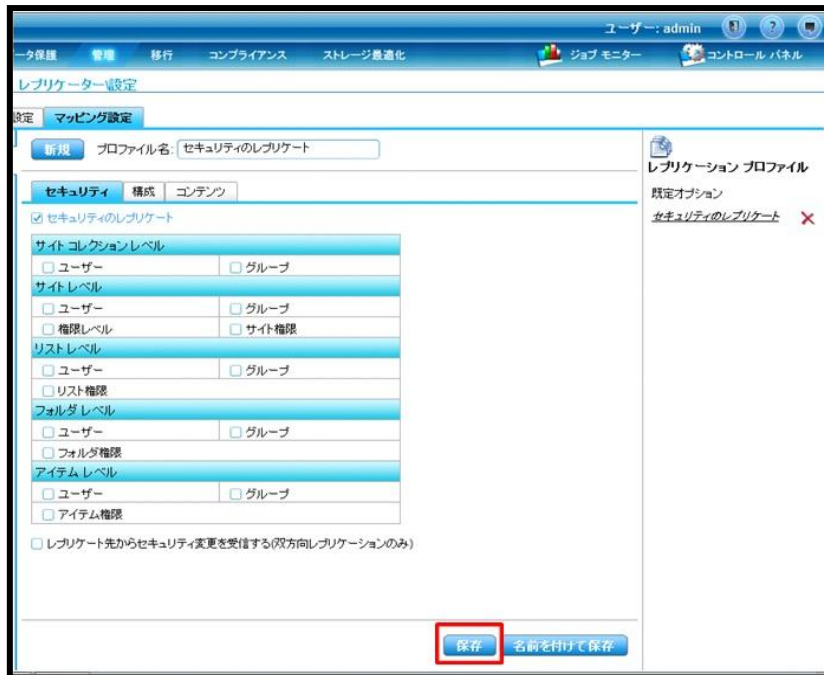


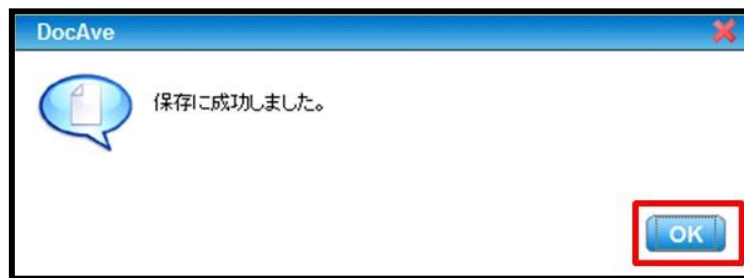
表 6.2.3.1-5 アイテムレベル設定項目一覧

項目	内容
ユーザー	アイテムに対して直接権限が付与されているユーザー情報のみレプリケーションを行います。合わせて[アイテム権限]の項目を有効にした場合、ユーザー情報とアイテムに対する権限がレプリケーションされます。
グループ	アイテムに対して直接権限が付与されているグループ情報のみレプリケーションを行います。合わせて[アイテム権限]の項目を有効にした場合、グループ情報とアイテムに対する権限がレプリケーションされます。
アイテム権限	アイテムに割り当てられた権限(ユーザー、グループ)のレプリケーションを行います。ただしアイテム権限は他の項目である[ユーザー]、[グループ]と同時にレプリケーションを行う必要があります。

- (10) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (11) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- (12) 続いて[6.2.3.2 構成のレプリケーションオプションの設定]の手順を実施します。
なお、セキュリティのオプションと構成のオプションは同一のプロファイルに設定を行う必要があります。セキュリティのオプションから続けて構成のオプションの設定を行う場合、[6.2.3.2 構成のレプリケーションオプションの設定]の(3)の手順から実施します。

6.2.3.2 構成のレプリケーションオプションの設定

構成のオプションを設定することで、MOSS サイトの機能やデザインをどのようにレプリケーションするか定義することが可能です。既定では、すべての設定がレプリケーションされます。レプリケート先の構成設定を残したい場合など、レプリケーションする設定を変更する場合には、以下の手順を実施します。

なお、構成のオプションは[6.2.3.1 セキュリティのレプリケーションオプションの設定]で記載したセキュリティのオプションと同一のプロファイルに設定する必要があります。

- (1) 構成オプションの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定]を選択します。



- (2) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



- (3) [マッピング設定]-[構成]タブを選択します。



- (4) [構成のレプリケート]のチェックを確認します。構成情報のレプリケーションを無効にする場合にはチェックを外し、手順(8)に進みます。



- (5) サイトコレクションレベルの設定
 サイトコレクションレベルにおける構成のレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.2-1 サイトコレクションレベル設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.3.2-1 サイトコレクションレベル設定項目一覧

項目	説明
サイトコレクション機能とプロパティ	<p>MOSS のサイトの設定画面における[サイトの設定]-[サイトコレクションの管理]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索の範囲 ・キーワード検索 ・サイトコレクション機能 ・ポータルサイト接続 ・サイトコレクションの監査設定 <p>全体管理の以下の項目をレプリケートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトコレクションのクォータとロック

(6) サイトレベルの設定

サイトレベルにおける構成のレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.2-2 サイトレベル設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.3.2-2 サイトレベル設定項目一覧

項目	説明
サイト機能とプロパティ	<p>MOSSのサイトの設定画面における[サイトの設定]-[サイトの管理]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域設定 ・サイトのライブラリとリスト ・RSS ・検索結果への表示 ・サイトとワークスペース ・サイトの機能 <p>MOSSのサイトの設定画面における[サイトの設定]-[外観]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル、説明、アイコン ・ツリービュー ・サイトのテーマ ・マスタページ ・ウェルカムページ ・ナビゲーションの[ナビゲーションの編集と並び替え]以外の設定 ・ページレイアウトとサイトテンプレート
サイト列とコンテンツタイプ	<p>MOSSのサイトの設定画面における[サイトの設定]-[ギャラリー]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトコンテンツタイプ ・サイト内の列

項目	説明
ナビゲーションとサイドリンクバー	<p>MOSS のサイトの設定画面における[サイトの設定]-[外観]-[ナビゲーション]の[ナビゲーションの編集と並び替え]で設定した内容のレプリケーションが行われます。</p> <p>「ナビゲーション」の他の項目は「サイトの機能とプロパティ」の項目扱いでレプリケーションされます。</p>
サイトテンプレートとリストテンプレート	<p>MOSS のサイトの設定画面における[サイトの設定]-[ギャラリー]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイトテンプレートギャラリー ・リストテンプレートギャラリー <p>本項目を正しくレプリケーションするには、「サイトコレクションレベル」の「サイトコレクションの機能とプロパティ」を有効にする必要があります。</p>
Web パーツ、ページレイアウト、マスタページと他の隠しリスト	<p>MOSS のサイトの設定画面における[サイトの設定]-[ギャラリー]の以下の項目のレプリケーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスタページ <p>発行機能が有効にされていないサイトで本項目を正しくレプリケーションするには、「サイトコレクションレベル」の「サイトコレクションの機能とプロパティ」を有効にする必要があります。</p>

(7) リストレベルの設定

リストレベルにおける構成のレプリケーションを設定します。レプリケーションを行う項目にチェックを入れます。レプリケーション可能な項目は以下の[表 6.2.3.2-3 リストレベル設定項目一覧]の通りです。

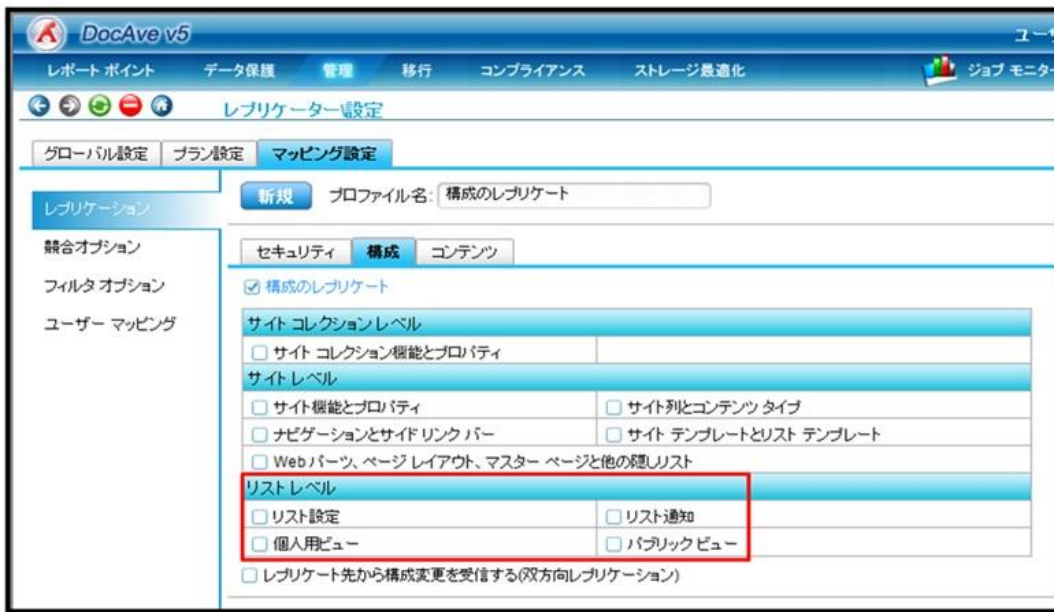
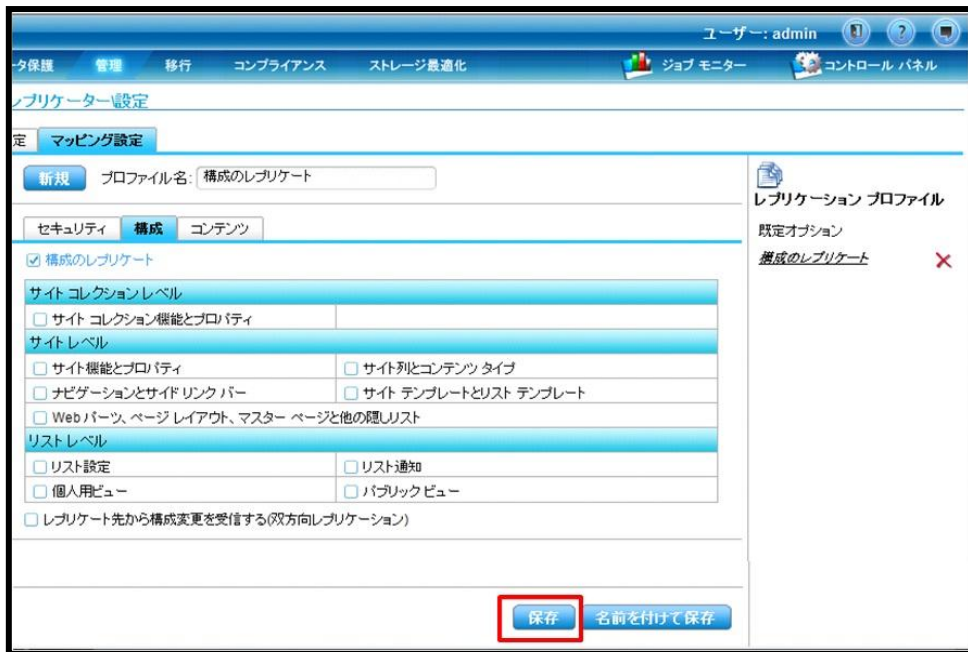


表 6.2.3.2-3 リストレベル設定項目一覧

項目	説明
リスト設定	MOSS のサイトの設定画面における[全般設定]の以下の項目のレプリケーションを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・タイトル、説明、ナビゲーション ・バージョン設定 ・詳細設定 ・対象ユーザーの設定 ・RSS 設定
リスト通知	ユーザーがリストに対して設定した通知のレプリケーションを行います。
個人用ビュー	作成した個人用ビューのレプリケーションを行います。
パブリックビュー	作成したパブリックビューのレプリケーションを行います。

- (8) プロファイルを保存します。**[保存]**ボタンをクリックします。



- (9) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。**[OK]**ボタンをクリックします。



- (10) 続いて[6.2.3.3 競合オプションの設定]の手順を実施します。

6.2.3.3 競合オプションの設定

競合のオプションを設定することで、レプリケート時に競合が発生した場合の動作を定義することが可能です。既定では、レプリケート元を優先して上書きする動作となります。競合時の動作を変更したい場合には、以下の手順を実施します。

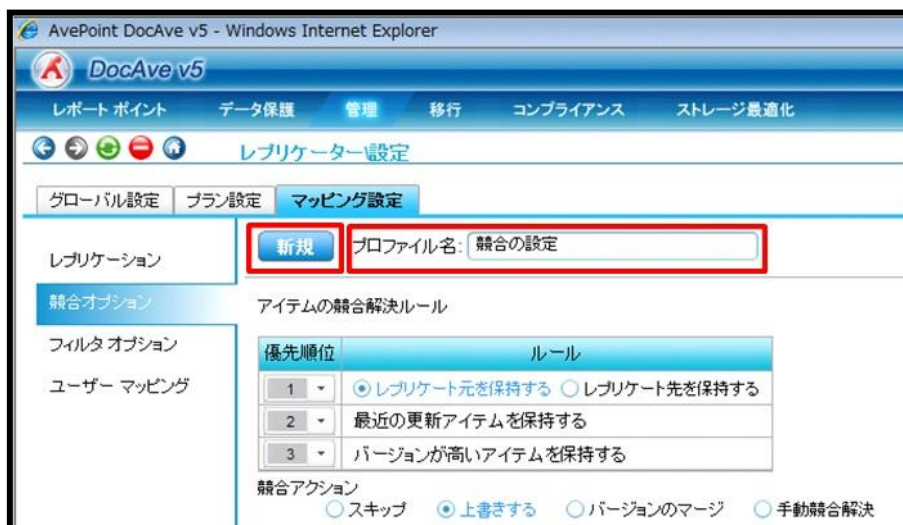
- (1) 競合オプションの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定]を選択します。



- (2) [マッピング設定]-[競合オプション]タブを選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



(4) アイテムの競合解決ルールの設定

レプリケート時の競合に関するルールを設定します。[アイテムの競合解決ルール]にて、優先順位とルールを設定します。設定可能な項目は以下の[表 6.2.3.3-1 競合解決ルール設定項目一覧]の通りです。

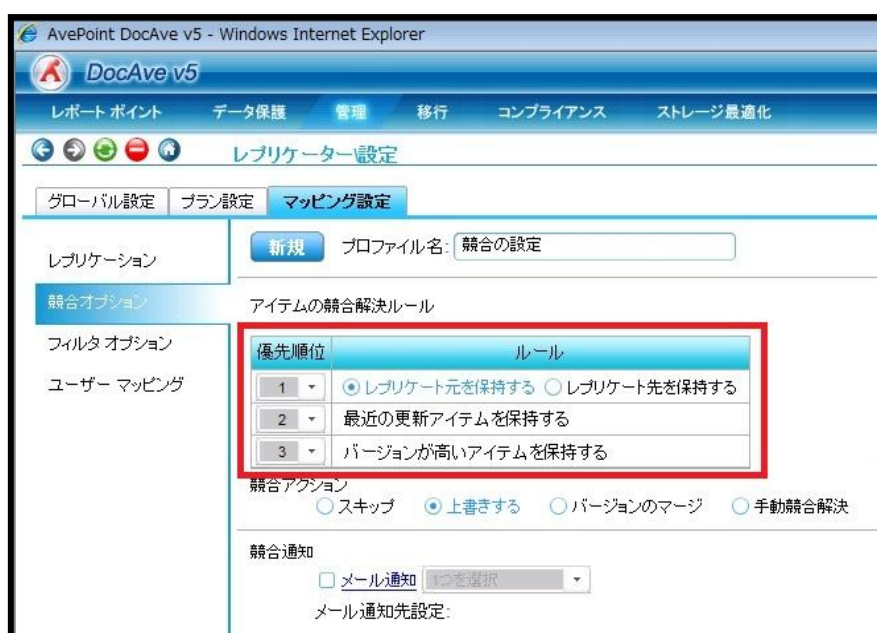


表 6.2.3.3-1 競合解決ルール設定項目一覧

種類	項目	説明	既定値
優先順位	1、2、3	ルールの優先順位を設定します。	-
ルール	レプリケート元を保持する	レプリケート元のデータを有効と判断し、レプリケーションを行います。	有効 優先順位:1
	レプリケート先を保持する	レプリケート先のデータを有効と判断し、レプリケーションを行います。	無効 優先順位:1
	最近の更新アイテムを保持する	マッピングしたレプリケート対象のうち、最新の更新状態であるデータを有効と判断します。	優先順位:2
	バージョンが高いアイテムを保持する	マッピングしたレプリケート対象のうち、バージョンが最新であるデータを有効と判断します。	優先順位:3

(5) 競合アクションの設定

レプリケート時に競合が発生した際の処理を設定します。**[競合アクション]**にて処理内容のラジオボタンを選択します。選択可能な項目は以下の**表 6.2.3.3-2 競合アクション設定項目一覧**の通りです。

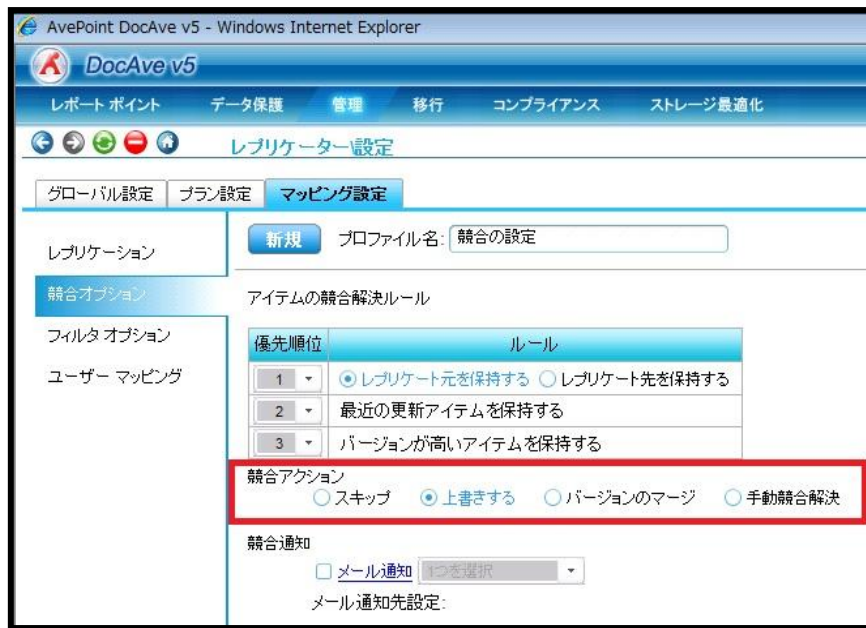


表 6.2.3.3-2 競合アクション設定項目一覧

項目	説明	既定値
スキップ	処理をスキップし、レプリケーションを行いません。	無効
上書きする	競合解決ルールに従ってレプリケート対象のレプリケーションを行います。	有効
バージョンのマージ	双方向レプリケート時に競合するバージョンのマージを行います。	無効
手動競合解決	レプリケート対象のファイル名でフォルダの作成が行われ、レプリケート先でファイルのバックアップが行われます。バックアップが行われた元となるファイルはレプリケート元のファイルで上書きされます。	無効

- (6) プロファイルを保存します。**[保存]**ボタンをクリックします。

優先順位	ルール
1	<input checked="" type="radio"/> レプリケート元を保持する <input type="radio"/> レプリケート先を保持する
2	最近の更新アイテムを保持する
3	バージョンが高いアイテムを保持する

競合アクション
 スキップ 上書きする バージョンのマージ 手動競合解決

競合通知
 メール通知 [つづき選択]

メール通知先設定:
 アイテム作成者
 保持されなかったアイテムの最終更新者
 サイト コレクションの管理者
 指定アドレスへ通知する []
 指定のユーザー列 []

保存 名前を付けて保存

- (7) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。**[OK]**ボタンをクリックします。



- (8) 以上で必須のオプションの設定は完了です。続いて[6.2.4 任意のオプション設定]の手順を実施します。

6.2.4 任意のオプション設定

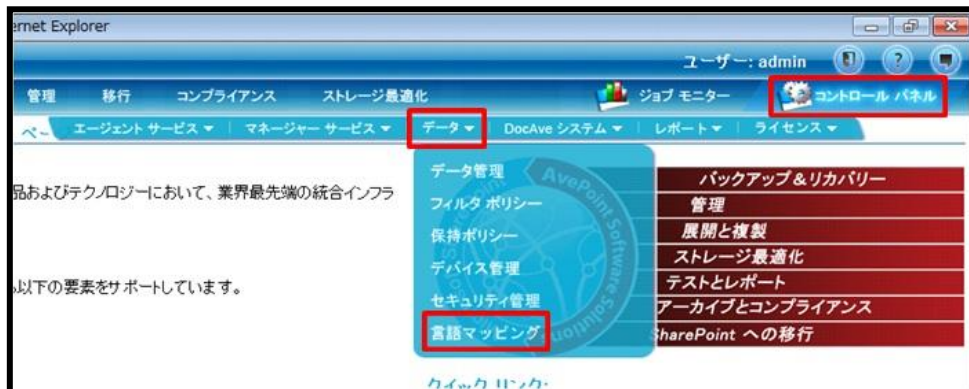
このセクションではレプリケーションの任意のオプション設定について説明を行います。任意のオプションは 8 種類存在し、既定では無効になっています。

任意のオプションは全項目を設定する必要はありません。必要なオプションを設定後、[6.2.5 プロファイルの割り当て]の手順に進みます。

6.2.4.1 言語マッピングの設定

言語マッピングのオプションを設定することで、リスト・ライブラリ名と列名の言語を変換しながらレプリケーションを行うことが可能です。異なる言語を使用した MOSS 環境間のレプリケーションで、リスト・ライブラリ名と列名の言語を変換したい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) 言語マッピングの設定画面を表示します。管理コンソールより[コントロールパネル]-[データ]-[言語マッピング] を選択します。



- (2) 新規にマッピングを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[マッピング名]を入力します。



- (3) マッピングを行うリストを設定します。[リスト]タブを選択します。



- (4) マッピングする言語を設定します。言語名の右横にあるボタンをクリックし、該当する項目にチェックを入れます。選択可能な言語は以下の[表 6.2.4.1-1 言語の設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.1-1 言語の設定項目一覧

項目	説明
英語	リスト・ライブラリの名前をレプリケート元の言語から英語に変換します。
ドイツ語	リスト・ライブラリの名前をレプリケート元の言語からドイツ語に変換します。
日本語	リスト・ライブラリの名前をレプリケート元の言語から日本語に変換します。

- (5) (4)で選択した言語の入力フィールドが表示されます。各言語でのリスト、ライブラリの名前を入力します。

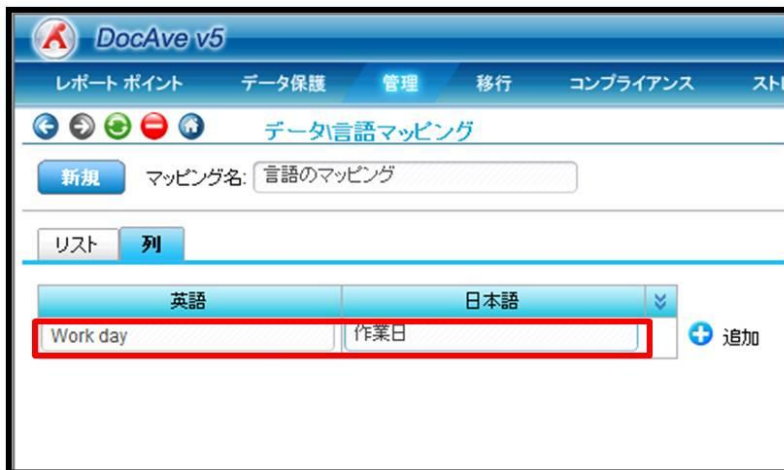


- (6) マッピングを行う列を設定します。[列]タブを選択します。

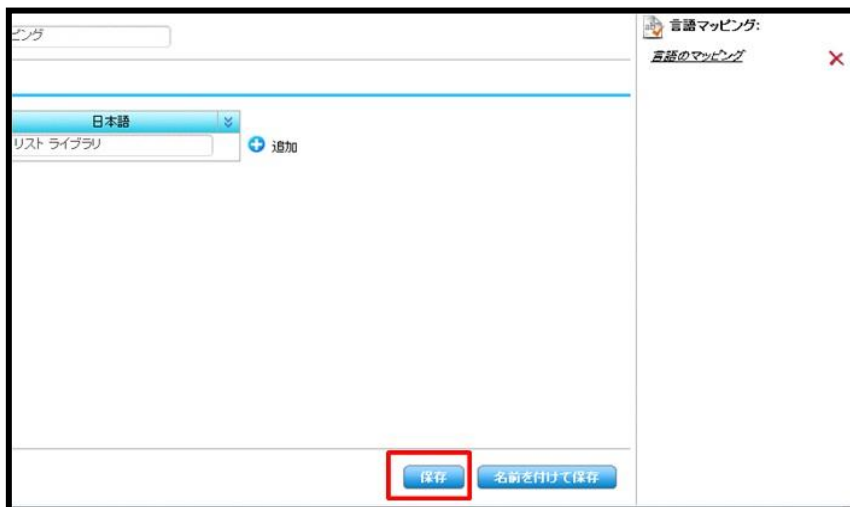


- (7) マッピングする言語を設定します。(4)と同様の手順で設定を行います。

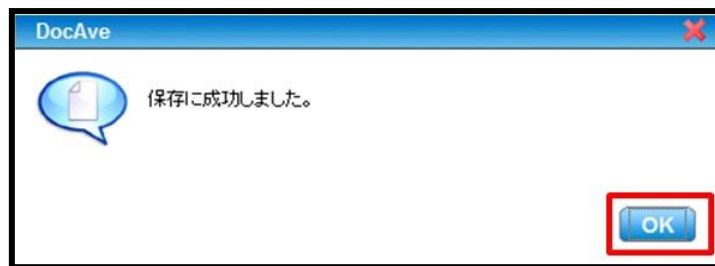
- (8) (7)で選択した言語の入力フィールドが表示されます。各言語での列の名前を入力します。



- (9) マッピングを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (10) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。**[OK]**ボタンをクリックします。



6.2.4.2 ユーザーマッピングの設定

ユーザーマッピングのオプションを設定することで、レプリケート対象に付与されたユーザー情報を置き換えることが可能です。置き換えの対象となるのはドメイン名とユーザー名です。異なるドメイン間など、ユーザー情報を置き換えながらレプリケーションを行う場合には、以下の手順を実施します。

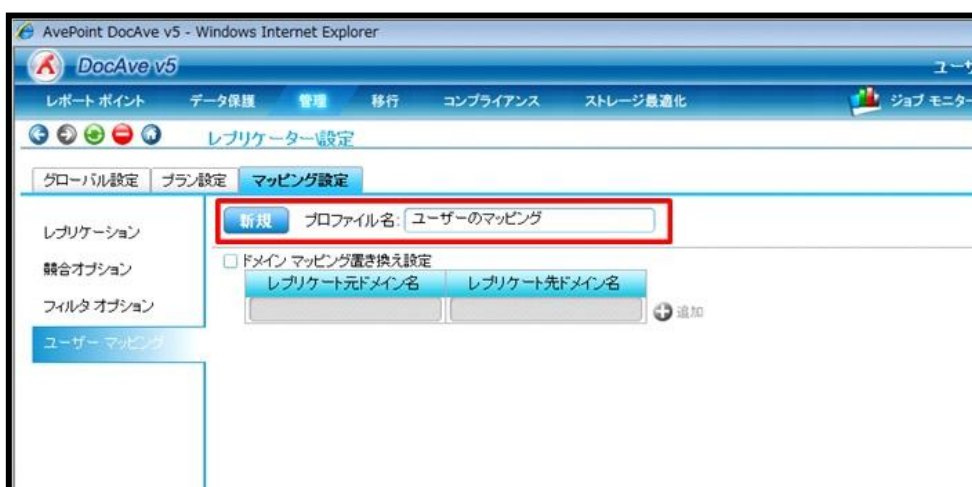
- (1) ユーザーマッピングの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定] を選択します。



- (2) [マッピング設定]-[ユーザーマッピング]タブを選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



- (4) ドメイン名のマッピングを設定します。ドメイン名を置き換える際は[ドメインマッピング置き換え設定]にチェックを入れ、置き換えるドメイン名を入力します。[ドメインマッピング置き換え設定]の入力内容は以下の[表 6.2.4.2-1 ドメインマッピング設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.2-1 ドメインマッピング設定項目一覧

項目	内容
レプリケート元ドメイン名	置き換え元となるレプリケート元のドメイン名を入力します。
レプリケート先ドメイン名	置き換えるレプリケート先のドメイン名を入力します。

- (5) ユーザー名のマッピングを設定します。ユーザー名を置きかえる際は[ユーザーマッピング置き換え設定]にチェックを入れ、置き換えるユーザー名を入力します。[ユーザーマッピング置き換え設定]の入力内容は以下の[表 6.2.4.2-2 ユーザーマッピング設定項目一覧]の通りです。

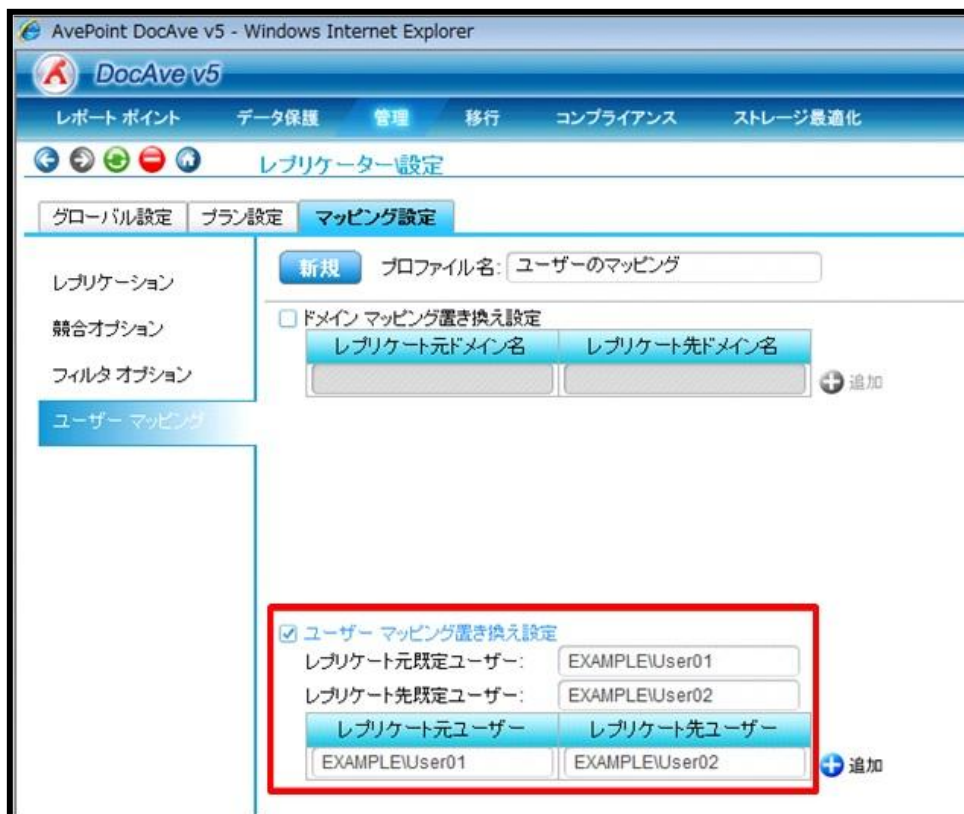
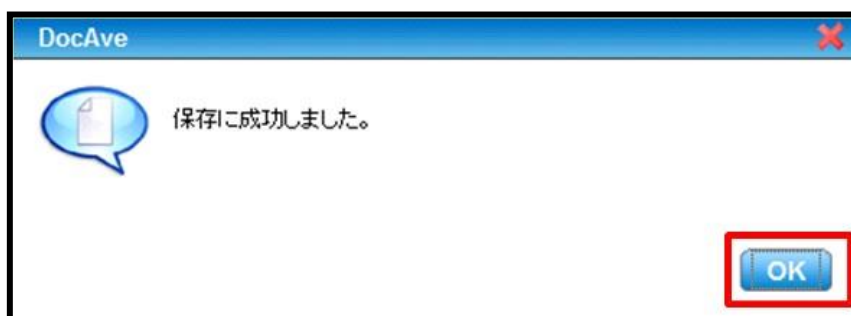


表 6.2.4.2-2 ユーザーマッピング設定項目一覧

項目	内容
レプリケート元既定ユーザー	レプリケーションの際に、レプリケート先のユーザーがレプリケート元に存在しない場合、本項目で設定したユーザーへ自動的に置き換えられます。
レプリケート先既定ユーザー	レプリケーションの際に、レプリケート元のユーザーがレプリケート先に存在しない場合、本項目で設定したユーザーへ自動的に置き換えられます。
レプリケート元ユーザー	置き換え元となるレプリケート元のユーザー名を[ドメイン名¥ユーザー名]の形式で設定します。
レプリケート先ユーザー	置き換えるレプリケート先のユーザー名を[ドメイン名¥ユーザー名]の形式で設定します。

- (6) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。

- (7) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



6.2.4.3 フィルタオプションの設定

フィルタオプションを設定することで、条件に基づいたレプリケート対象のフィルタリングが可能です。レプリケート対象を特定の条件で限定したい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) フィルタオプションの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定] を選択します。



- (2) [マッピング設定]-[フィルタオプション]タブを選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



- (4) フィルタリングの条件に一致した際の動作を設定します。[タイプ]の左横にあるマークをクリックします。選択できるマークについては以下の[表 6.2.4.3-1 動作の設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.3-1 動作の設定項目一覧

項目	説明
+	条件に一致したレプリケート対象を包含します。
-	条件に一致したレプリケート対象を排除します。

- (5) フィルタリング対象のタイプを設定します。[タイプ]の右横にあるプルダウンメニューを選択します。プルダウンメニューの選択項目は以下の[表 6.2.4.3-2 対象コンテンツ項目一覧]の通りです。

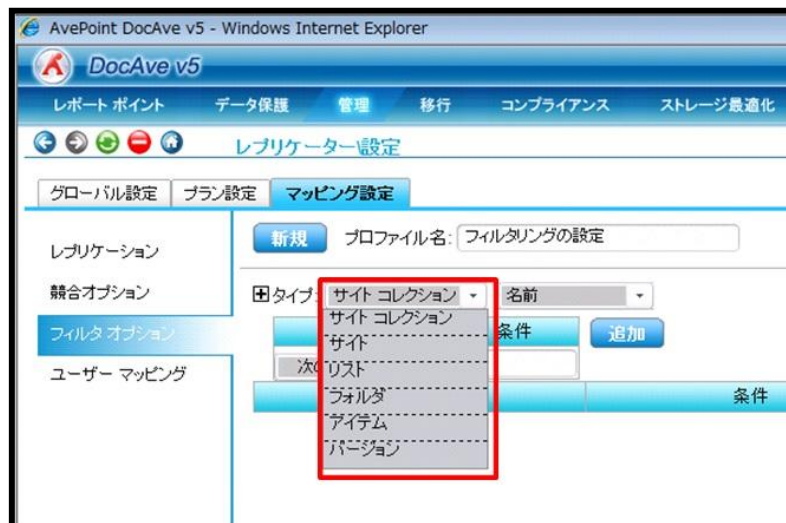


表 6.2.4.3-2 対象コンテンツ項目一覧

項目	説明
サイトコレクション	サイトコレクションをフィルタリング対象として設定します。
サイト	サイトをフィルタリング対象として設定します。
リスト	リストをフィルタリング対象として設定します。
フォルダ	フォルダをフィルタリング対象として設定します。
アイテム	アイテムをフィルタリング対象として設定します。
バージョン	アイテムのバージョンをフィルタリング対象として設定します。

- (6) (5)で選択したフィルタリング対象のタイプに紐づく項目を設定します。(5)で設定したプルダウンメニューの右横のプルダウンメニューを選択します。プルダウンメニューの選択項目は以下の[表 6.2.4.3-3 フィルタリング設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.3-3 フィルタリング設定項目一覧

種類	項目	説明
サイトコレクション	名前	サイトコレクションの名前をフィルタリング条件とします。
	テンプレート	サイトコレクションのテンプレート ID をフィルタリング条件とします。
	所有者	サイトコレクションの所有者をフィルタリング条件とします。
サイト	名前	サイトの名前をフィルタリング条件とします。
	テンプレート	サイトのテンプレート ID をフィルタリング条件とします。
	所有者	サイトの所有者をフィルタリング条件とします。
	プロパティ	サイトのメタデータをフィルタリング条件とします。
リスト	名前	リストの名前をフィルタリング条件とします。
	テンプレート	リストのテンプレート ID をフィルタリング条件とします。
	所有者	リストの所有者をフィルタリング条件とします。
フォルダ	名前	フォルダの名前をフィルタリング条件とします。
アイテム	名前	アイテムの名前をフィルタリング条件とします。
	コンテンツタイプ	コンテンツタイプをフィルタリング条件とします。
	列	特定の列の入力内容をフィルタリング条件とします。
バージョン	入力フィールド	入力したバージョンをフィルタリング条件とします。
	メジャーバージョンのみを複製	メジャーバージョンであるかどうかをフィルタリング条件とします。

- (7) (5)、(6)で設定した項目に対して条件の詳細を設定します。表示される入力欄に必要な条件を入力します。表示される入力欄については、以下の[表 6.2.4.3-4 フィルタリング条件項目一覧]の通りです。

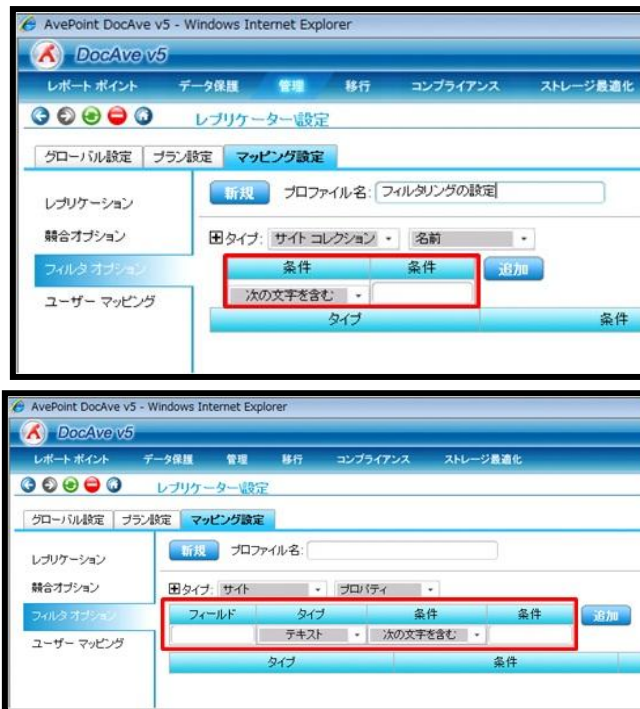


表 6.2.4.3-4 フィルタリング条件項目一覧

(5)の設定値	(6)の設定値	種類	項目	説明
サイトコレクション	名前	条件	次の文字を含む	条件の入力フィールドに入力した文字列、数字が含まれていることをフィルタリング条件とします。
	テンプレート			
	所有者			
サイト	名前		次の文字と完全一致	条件の入力フィールドに入力した文字列、数字と完全に一致することをフィルタリング条件とします。
	テンプレート			
	所有者			
	プロパティ			
リスト	名前		文字の先頭	条件の入力フィールドに入力した文字列、数字から始まることをフィルタリング条件とします。
	テンプレート			
	所有者			
フォルダ	名前	次で終了する	条件の入力フィールドに入力した文字列、数字で終わることをフィルタリング条件とします。	
アイテム	名前			
	コンテンツタイプ 列			
サイト	プロパティ	タイプ	テキスト	入力データの種類、および入力内容をフィルタリング条件とします。
アイテム	列		数値	
			はい/いいえ	
			日付と時刻	
サイト	プロパティ	フィールド	入力フィールド	サイトのメタデータが入力フィールドに入力した文字列と一致することをフィルタリング条件とします。
アイテム	列			リストの列名が入力フィールドに入力した文字列と

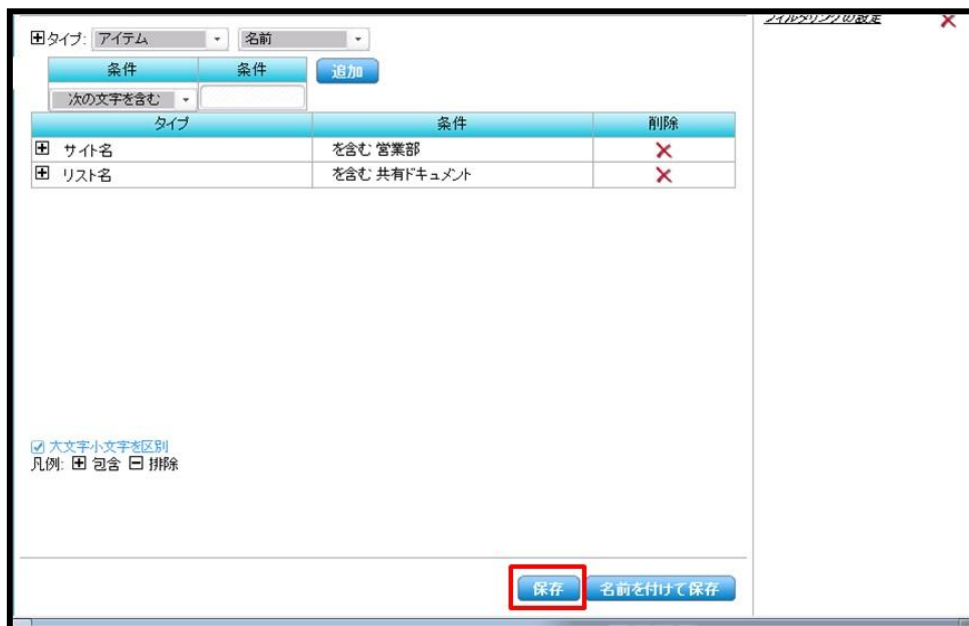
				一致することをフィルタリング条件とします。
--	--	--	--	-----------------------

- (8) フィルタリングする条件を追加します。[追加]ボタンをクリックします。

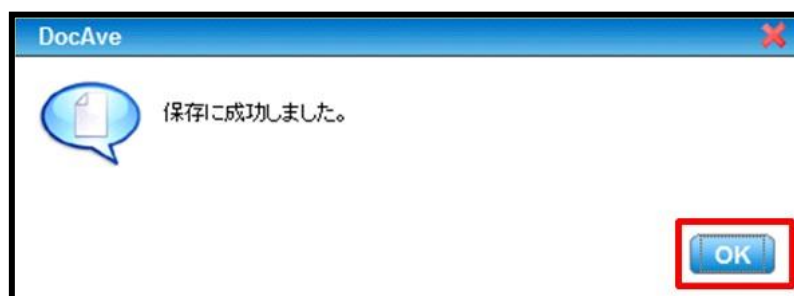


- (9) 条件をさらに追加する際は(4)～(8)の手順を再度行います。複数の条件を追加した場合、AND 条件として判定されます。

- (10) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (11) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



6.2.4.4 バイトレベル差分によるレプリケーションの設定

バイトレベル差分によるレプリケーションを設定することで、ドキュメント内の前回レプリケーションからの差分データのみをレプリケート対象とすることが可能です。このオプションを利用し、レプリケート時に送信されるデータ量を少なくしたい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) バイトレベルキャッシュの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定] を選択します。



- (2) レプリケート元のファームを選択します。[グローバル設定]-[キャッシュ設定]タブを選択し、[ファーム]から選択します。



- (3) キャッシュの保存期間とデータサイズを設定します。[バイトレベルキャッシュ構成]のプルダウンメニューを選択します。[バイトレベルキャッシュ構成]の各プルダウンメニューの選択項目は、以下の[表 6.2.4.4-1 バイトレベルキャッシュ構成の設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.4-1 バイトレベルキャッシュ構成の設定項目一覧

項目	説明
キャッシュの最大保存期間	キャッシュの最大保存期間を年、月、日のいずれかの単位で設定します。
データサイズ制限	キャッシュするデータのサイズを KB、MB、GB のいずれかの単位で設定します。

- (4) バイトレベルキャッシュの保存先を設定します。[バイトレベルキャッシュ先]を入力します。[バイトレベルキャッシュ先]の各入力項目は、以下の[表 6.2.4.4-2 バイトレベルキャッシュ保存先の設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.4-2 バイトレベルキャッシュ保存先の設定項目一覧

項目	説明
ユーザー名	保存先のフォルダにアクセス件を持つアカウントを[ドメイン名¥ユーザー名]の形式で設定します。
パスワード	ユーザー名に設定したユーザーのパスワードを設定します。
パス	保存先のフォルダパスを[¥¥サーバー名¥...]の形式で設定します。

- (5) (4)の入力情報を確認します。[テスト]ボタンをクリックし、入力情報が正しい場合は[テストに成功しました。]と表示されます。表示がされなかった際は、(4)の入力情報を再度確認します。



- (6) バイトレベルキャッシュの設定を適用します。[適用]ボタンを選択します。



- (7) 双方向レプリケーションを行う場合、(1)～(6)と同様の手順でレプリケート先のバイトレベルキャッシュ先を設定します。

- (8) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



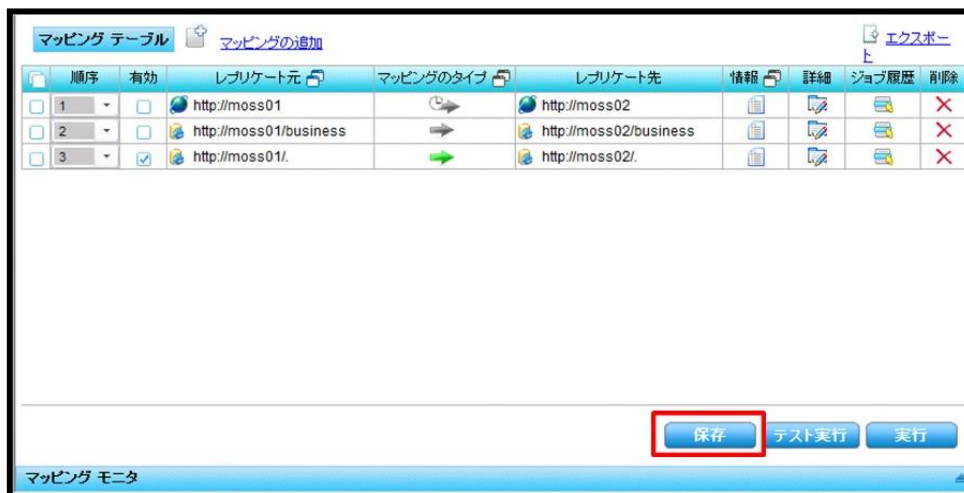
- (9) [プランビューア]から任意のプランを選択します。



- (10) バイトレベル差分を設定します。[バイトレベル差分有効]にチェックを入れます。



- (11) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (12) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



6.2.4.5 レプリケーションスケジュールの設定

レプリケーションスケジュールのオプションを設定することで、作成したスケジュールに基づいたレプリケーションを行うことが可能です。スケジュールは2つまで作成可能です。特定の時間にジョブを開始したい場合や、ある一定の間隔で定期的にレプリケーションを行いたい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



- (2) [プランビューア]から任意のプランを選択します。



- (3) スケジュールの設定画面を表示します。[スケジュール]タブを選択します。



- (4) レプリケーションスケジュールを有効にします。[無効]のチェックをはずします。



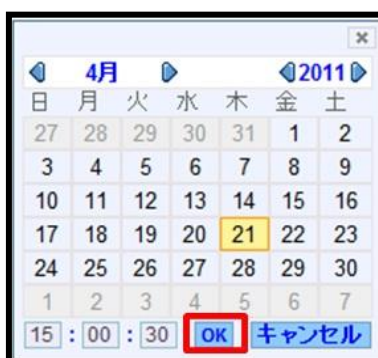
- (5) [開始時刻]を設定します。右の[カレンダーのマーク]をクリックします。



- (6) 任意の開始時刻(年/月/日/時/分/秒)を設定します。



- (7) 開始時刻を適用します。[OK]ボタンをクリックします。



- (8) レプリケーションを行う間隔を設定します。[間隔]のプルダウンメニューを選択します。[間隔]の選択項目は以下の[表 6.2.4.5-1 実行間隔の設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.5-1 実行間隔の設定項目一覧

項目	説明
1 回のみ	1 回のみレプリケーションを行います。
分	15 分、30 分、45 分のいずれかの間隔でレプリケーションを行います。
時間	任意の時単位の間隔でレプリケーションを行います。
日間	任意の日単位の間隔でレプリケーションを行います。
週間	任意の週単位の間隔でレプリケーションを行います。
ヶ月	任意の月単位の間隔でレプリケーションを行います。

- (9) (8)で「時間」、「日間」、「週間」、「ヶ月」選択した場合、[間隔]の入力フィールドに具体的な数値を入力します。



- (10) レプリケーションのタイプを設定します。[レプリケーションタイプ]のラジオボタンを選択します。ラジオボタンの選択項目は以下の[表 6.2.4.5-2 レプリケーションタイプ設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.4.5-2 レプリケーションタイプ設定項目一覧

項目	説明
完全	レプリケート対象の内容すべてをレプリケーションします。
増分	最後に完全レプリケーションが行われてからの更新情報をレプリケート対象にします。

- (11) (10)でレプリケーションタイプを「増分」に設定した場合、さらに詳細のオプションを設定します。設定可能な項目は以下の[表 6.2.4.5-3 増分の設定項目一覧]の通りです。

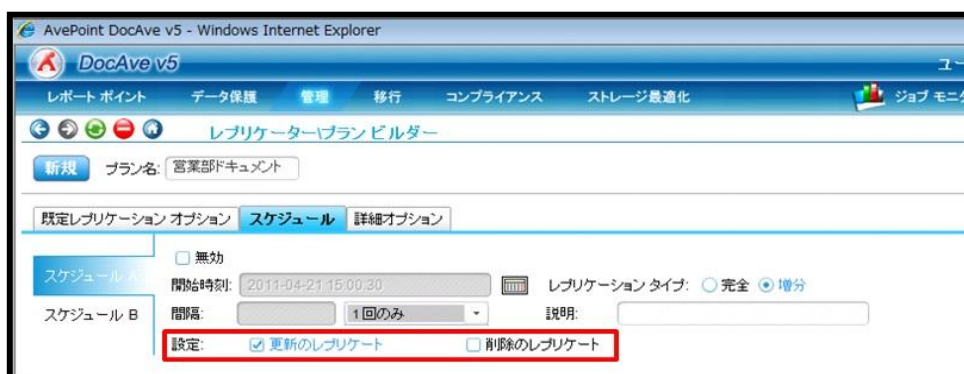


表 6.2.4.5-3 増分の設定項目一覧

項目	説明
更新のレプリケーション	最後に完全レプリケーションが行われてから、レプリケート元で更新されたデータのレプリケーションを行います。
削除のレプリケーション	最後に完全レプリケーションが行われてから、レプリケート元で削除されたデータを、レプリケート先から削除します。

- (12) スケジュールの説明を設定します。[説明]の入力フィールドにスケジュールに関する情報を入力します。



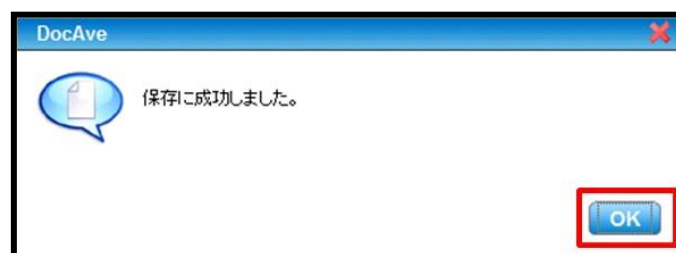
- (13) 2つ目のスケジュールを作成する際は、[スケジュール B]を選択して(4)～(12)の手順を再度行います。



- (14) プランを保存します。[保存] ボタンをクリックします。



- (15) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



6.2.4.6 メールによる通知の設定

メールによる通知を設定することで、ジョブの実行結果、および競合の発生した場合の情報をメールで受け取ることが可能です。どちらの通知を受け取るかによって、設定の手順が異なります。

メールによる通知を有効にする場合には、それぞれ以下の手順を実施します。

1 ジョブの実行結果を通知する場合

- (1) メール通知の設定画面を表示します。管理コンソールより[コントロールパネル]-[レポート]-[メール通知]を選択します。



- (2) [通知タイプ]を設定します。[通知タイプ]のプルダウンメニューから[一般]を選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[メール通知名]を入力します。



- (4) 通知に利用するメールサーバー、および差出人の情報を設定します。入力内容は以下の[表 6.2.4.6-1 送信メールサーバー設定項目一覧]の通りです。

表 6.2.4.6-1 送信メールサーバー設定項目一覧

項目	説明
送信用メールサーバー(SMTP)	送信メールサーバーのマシン名、もしくは IP アドレスを入力します。
パスワード認証	電子メールアカウント構成でパスワードが設定されている場合はチェックを入れます。
ポート	使用する送信用メールサーバーのポート番号を入力します。既定値として「25」が設定されています。
差出人	送信元となる電子メールアドレスを入力します。
SMTP 上のユーザー名	SMTP サーバーに対する認証アカウントのユーザー名を入力します。
SMTP 上のパスワード	[SMTP 上のユーザー名]で指定したアカウントのパスワードを入力します。
SSL 認証	電子メールアカウント構成で SSL 認証が設定されている場合はチェックを入れます。

- (5) (4) の入力情報を確認し、[アカウントのテスト]ボタンをクリックします。入力情報が正しい場合は[アカウントのテストに成功しました。]と表示されます。表示がされなかった際は、(4)の入力情報を再度確認します。

(6) 通知先を設定します。設定項目は以下の[表 6.2.4.6-2 通知先の設定項目一覧]の通りです。

表 6.2.4.6-2 通知先の設定項目一覧

項目	説明
要約レポートの受取人	要約レポートの受取人となるメールアドレスを入力します。
要約レポートの通知レベル	要約レポートを受け取る通知レベルを設定します。設定項目は以下の項目となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのレベル ・成功 ・失敗 ・警告
詳細レポートの受取人	詳細レポートの受取人となるメールアドレスを入力します。
詳細レポートの通知レベル	詳細レポートを受け取る通知レベルを設定します。設定項目は以下の項目となります。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべてのレベル ・成功 ・失敗 ・警告
メッセージ形式	メールの形式を設定します。以下の項目から、任意の項目のラジオボタンを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ・HTML
すべてのログを受取人に送信	有効にすると、ジョブが失敗した際に受取人へログが送付されます。

(7) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。

DocAve v5 ユーザ

レポート ポイント データ保護 管理 移行 コンプライアンス ストレージ最適化 ジョブ モニター

レポートメール通知

通知タイプ: 一般

新規 メール通知名: メールのお知らせ(MOSS01-MOSS02)

送信用メールサーバー(SMTP): 192.168.0.16

ポート: 25

差出人: report@example.local
例: user@avepoint.com

SMTP 上のユーザー名: report

SMTP 上のパスワード: ●●●●●●

パスワードの確認

SSL 認証

アカウントのテスト

アカウントのテストに成功しました。

要約レポートの受取人: user01@example.local
例: 複数受取人を設定する場合は、" "で区切ってください。

要約レポートの通知レベル: すべてのレベル 成功 失敗 警告

詳細レポートの受取人: user01@example.local
例: 複数受取人を設定する場合は、" "で区切ってください。

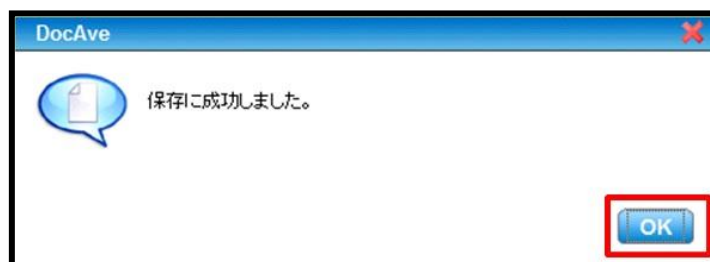
詳細レポートの通知レベル: すべてのレベル 成功 失敗 警告

メッセージ形式: HTML テキスト

すべてのログを受取人に送信:

保存 名前を付けて保存

(8) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



2 競合発生時の情報を通知する場合

- (1) メール通知の設定画面を表示します。管理コンソールより[コントロールパネル]-[レポート]-[メール通知]を選択します。



- (2) [通知タイプ]を設定します。[通知タイプ]のプルダウンメニューから[レプリケーター]を選択します。



- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[メール通知名]を入力します。



- (4) 通知に利用するメールサーバー、および差出人の情報を設定します。入力内容は以下の[表 6.2.4.6-3 送信メールサーバー設定項目一覧]の通りです。

表 6.2.4.6-3 送信メールサーバー設定項目一覧

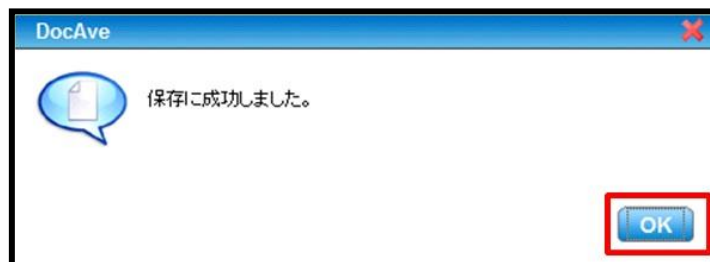
項目	説明
送信用メールサーバー(SMTP)	送信メールサーバーのマシン名、もしくは IP アドレスを入力します。
パスワード認証	電子メールアカウント構成でパスワードが設定されている場合はチェックを入れます。
ポート	使用する送信用メールサーバーのポート番号を入力します。既定値として「25」が設定されています。
差出人	送信元となる電子メールアドレスを入力します。
SMTP 上のユーザー名	SMTP サーバーに対する認証アカウントのユーザー名を入力します。
SMTP 上のパスワード	[SMTP 上のユーザー名]で指定したアカウントのパスワードを入力します。
SSL 認証	電子メールアカウント構成で SSL 認証が設定されている場合はチェックを入れます。

- (5) (4) の入力情報を確認します。[アカウントのテスト]ボタンをクリックし、入力情報が正しい場合は[アカウントのテストに成功しました。]と表示されます。表示がされなかった際は、(4)の入力情報を再度確認します。

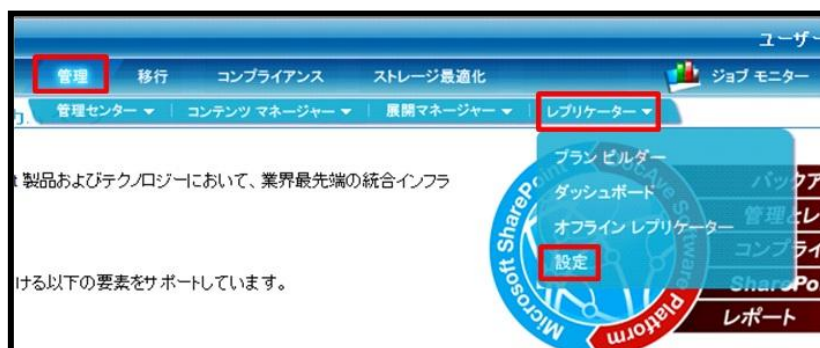
- (6) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (7) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- (8) 競合オプションの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定]を選択します。



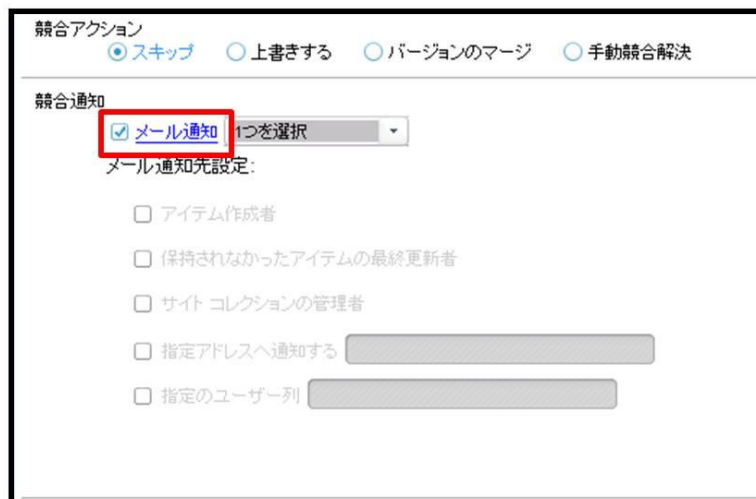
- (9) [マッピング設定]-[競合オプション]を選択します。



- (10) [競合プロファイル]からメール通知を設定したいプロファイルを選択します。



- (11) 競合通知メールを設定します。[競合通知]の[メール通知]の左にチェックを入れます。



- (12) メール通知のプロファイルを割り当てます。[メール通知]のプルダウンから手順(1)～(7)で設定したプロファイルを割り当てます。

- (13) メールの通知先設定を設定します。[メールの通知先設定]のチェックボックスを設定します。チェックボックスの設定項目は以下の[表 6.2.4.6-4 通知先の設定項目一覧]の通りです。

表 6.2.4.6-4 通知先の設定項目一覧

種類	項目	説明
メール通知先設定	アイテム作成者	競合したアイテムの作成者に通知します。
	保存されなかったアイテムの最終更新者	競合した際に保存されなかったアイテムの更新者に通知します。
	サイトコレクションの管理者	サイトコレクションの管理者に通知します。
	指定アドレスへ通知する	指定のメールアドレスに通知します。
	指定のユーザー列	指定のユーザーに通知します。

- (14) プロファイルを保存します。**[保存]**ボタンをクリックします。

競合通知

メール通知 競合通知メール

メール通知先設定:

アイテム作成者

保持されなかったアイテムの最終更新者

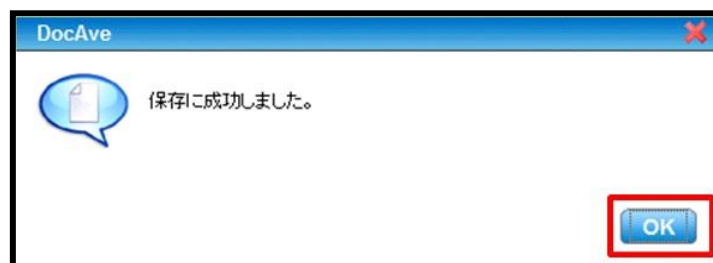
サイト コレクションの管理者

指定アドレスへ通知する user01@example.local

指定のユーザー列

保存 名前を付けて保存

- (15) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。**[OK]**ボタンをクリックします。



6.2.4.7 帯域制御の設定

帯域制御のオプションを設定することで、レプリケーションに使用する帯域幅を調整することが可能です。また、レプリケーションに失敗した場合に再実行する条件を設定することが可能です。レプリケーションに使用する帯域幅を制限したい場合や、再実行の条件を設定したい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) 帯域制御の設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定]を選択します。



- (2) [プラン設定]-[ネットワーク制御]タブを選択します。



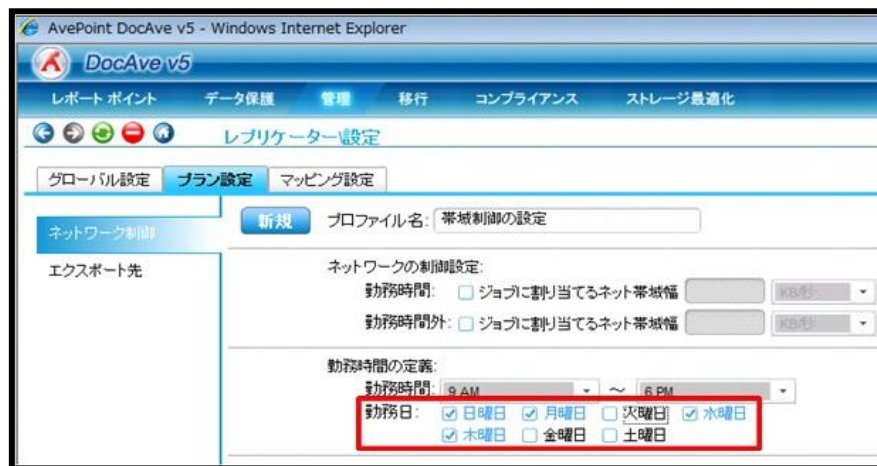
- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



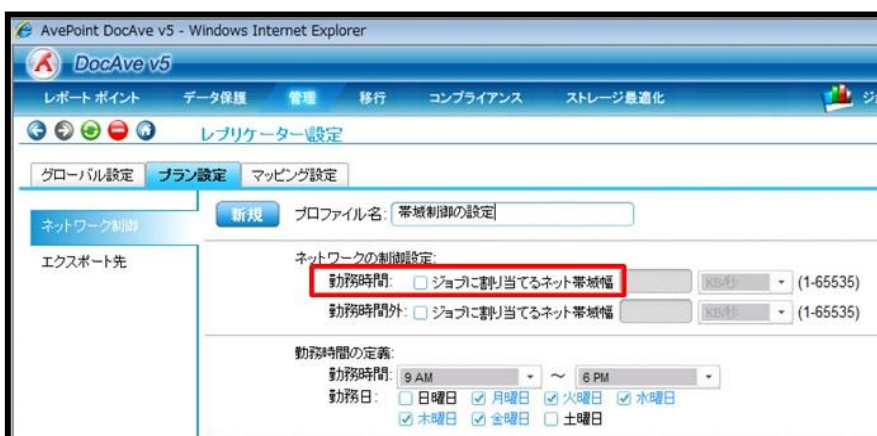
- (4) 勤務時間の定義を行います。勤務時間とする時間帯の開始時間と終了時間を設定します。[勤務時間の定義]の[勤務時間]のプルダウンから選択します。



- (5) 勤務日として扱う曜日を設定します。[勤務日]の任意の曜日にチェックを入れます。



- (6) 勤務時間と定義した時間帯に利用できる帯域幅を設定します。勤務時間内の帯域制御を有効にする場合には、[ネットワークの制御設定]で[勤務時間]の[ジョブに割り当てるネット帯域幅]にチェックを入れます。



- (7) (6)で設定を有効にした場合、プルダウンから以下の[表 6.2.4.7-1 制御単位の設定項目一覧]の項目を選択し、入力フィールドに数値を入力します。

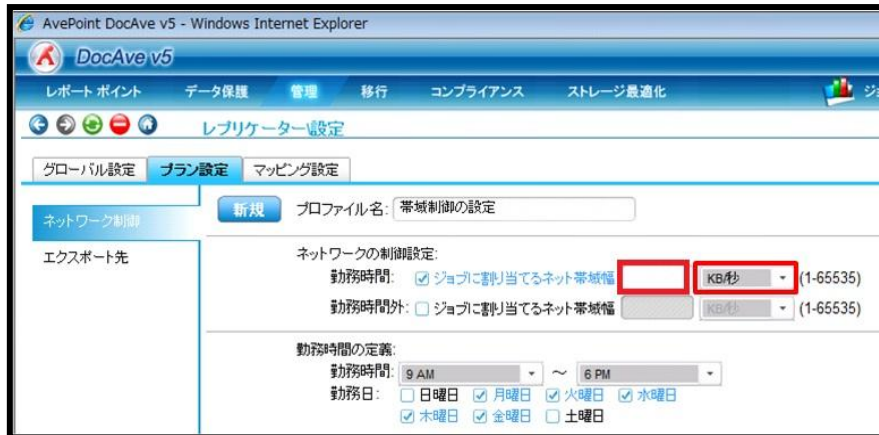
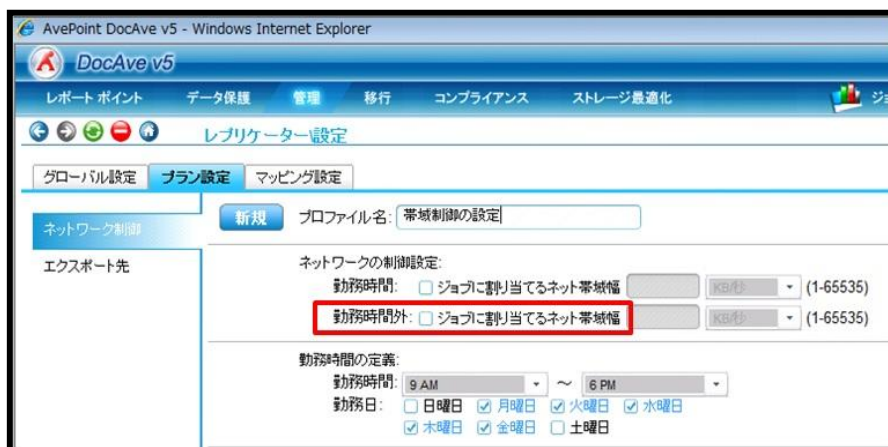


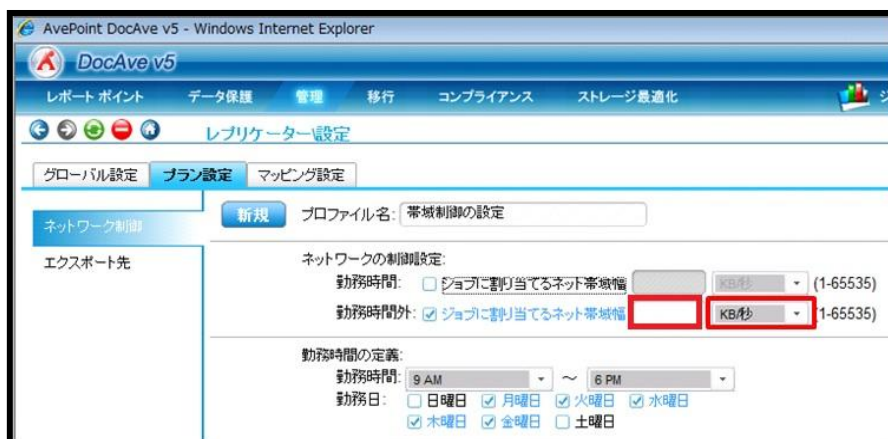
表 6.2.4.7-1 制御単位の設定項目一覧

項目	設定
KB/秒	毎秒 KB の単位で帯域を制御します。
MB/秒	毎秒 MB の単位で帯域を制御します。

- (8) 勤務時間として定義した時間帯以外に利用できる帯域幅を設定します。勤務時間外の帯域制御を有効にする場合には、[ネットワークの制御設定]で[勤務時間外]の[ジョブに割り当てるネット帯域幅]にチェックを入れます。



- (9) (8)で設定を有効にした場合、(7)と同様の手順で設定します。



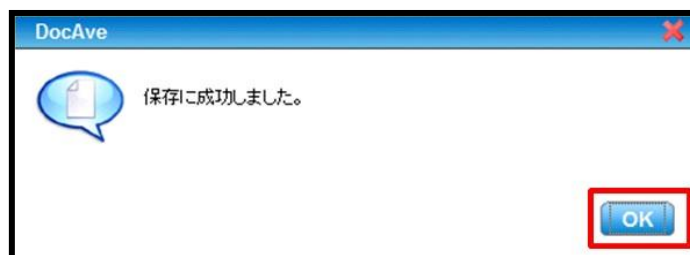
- (10) ジョブが失敗した際に再実行する間隔を調整したい場合には、[接続リトライ]を設定します。[接続リトライ]の入力項目に任意の数値を入力します。入力項目は以下の[表 6.2.4.7-2 接続リトライ設定項目一覧]の通りです。

表 6.2.4.7-2 接続リトライ設定項目一覧

項目	説明
接続リトライ	ジョブの処理結果が「失敗」となった場合、ジョブを再実行するまでの間隔を設定します。
リトライ回数	ジョブを再実行する回数を設定します。

- (11) プロファイルを保存します。[保存]ボタンをクリックします。

- (12) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



6.2.4.8 圧縮と暗号化の設定

圧縮のオプションを設定することで、レプリケート対象の圧縮を行い、レプリケーションにかかる時間を短縮することが可能です。また、暗号化のオプションを設定することで、レプリケート時のデータを暗号化し、セキュリティを向上させることが可能です。圧縮、および暗号化の設定を行いたい場合には、以下の手順を実施します。

- (1) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



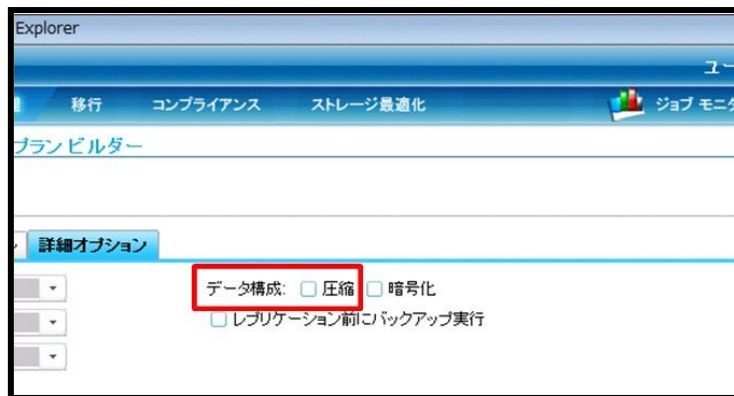
- (2) [プランビューア]から任意のプランを選択します。



- (3) 圧縮と暗号化の設定画面を表示します。[詳細オプション]タブを選択します。



- (4) 圧縮の設定を行います。圧縮を有効にする場合は、[データ構成]の[圧縮]にチェックを入れます。



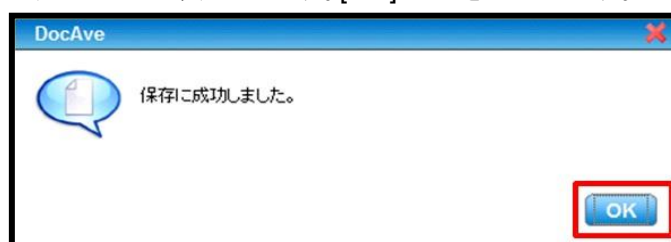
- (5) 暗号化の設定を行います。暗号化を有効にする場合は、[データ構成]の[暗号化]にチェックを入れます。



- (6) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (7) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



6.2.5 プロファイルの割り当て

このセクションでは設定したプロファイルをプランへ割り当てる手順について説明します。[6.2.3 必須のオプション設定]と[6.2.4 任意のオプション設定]において作成したプロファイルは、プランに割り当てることで有効化されます。

- (1) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



- (2) [プランビューア]から任意のプランを選択します。



- (3) [既定レプリケーションオプション]タブを選択します。



(4) レプリケーションオプションの割り当て

[レプリケーションオプション]のプルダウンから任意のプロファイルを選択します。



(5) 競合オプションの割り当て

[競合オプション]のプルダウンから任意のプロファイルを選択します。



(6) 言語マッピングの割り当て

[言語マッピング]のプルダウンから任意のマッピングを選択します。



(7) ユーザーマッピングの割り当て

[ユーザーマッピング]のプルダウンから任意のプロファイルを選択します。



(8) フィルタオプションの割り当て

[フィルタオプション]のプルダウンから任意のプロファイルを選択します。



(9) [詳細オプション]タブを選択します。

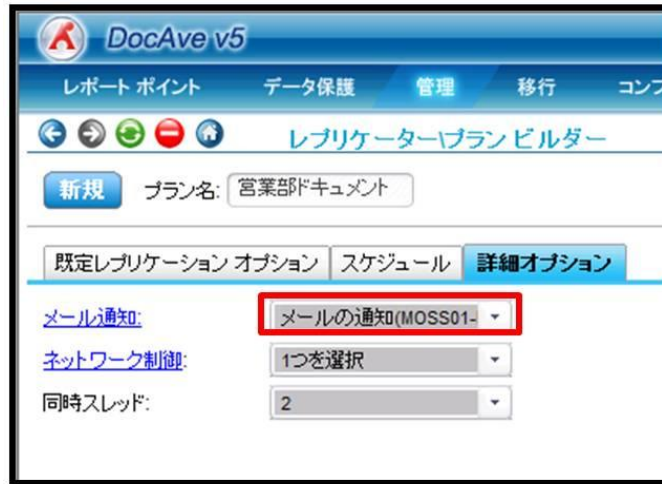


(10) メール通知の割り当て

メール通知のプロファイルの割り当ては、「ジョブの実行結果」、および「競合発生時の情報」のどちらの通知を有効にするかによって手順が異なります。

1 ジョブの実行結果を通知する場合

- ① [メール通知]のプルダウンから作成したプロファイルを選択します。



2 競合発生時の情報を通知する場合

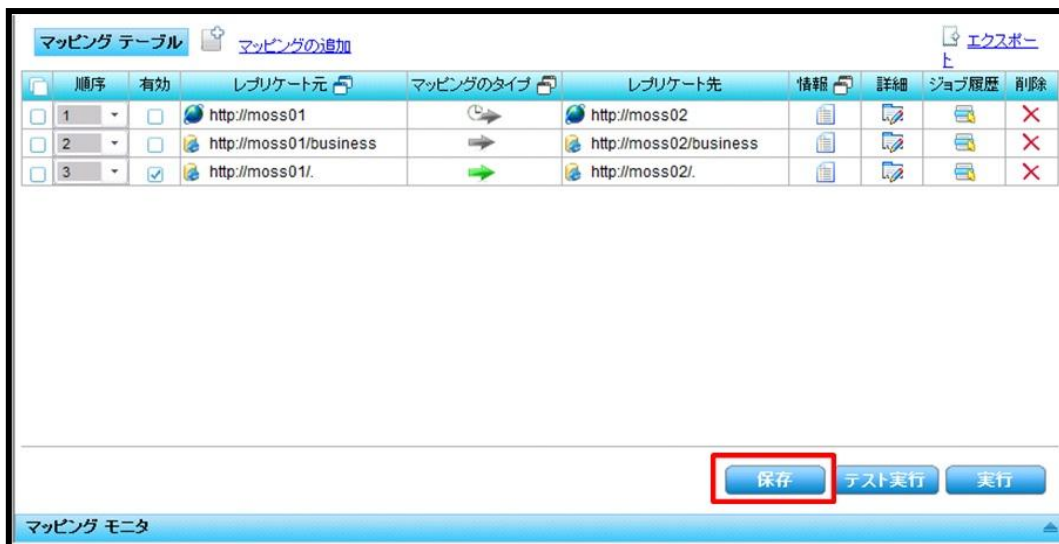
- ① 競合オプションのメール通知 (6.2.4.6 の[2 競合発生時の情報を通知する場合]を参照)を有効に設定していれば、手順(5)の競合オプションのプロファイル設定時に有効となります。

(11) 帯域制御の割り当て

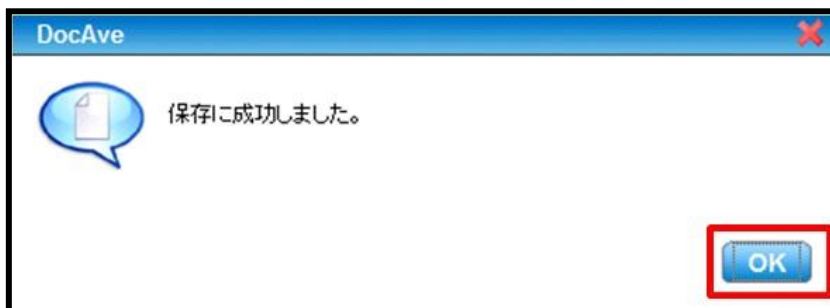
[ネットワーク制御]のプルダウンからプロファイルを選択します。



(12) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



(13) 「保存に成功しました。」とメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



(14) 以上でプロファイルの割り当ては完了です。続いて[6.2.6 プランの実行]の手順を実施します。

6.2.6 プランの実行

このセクションでは作成したプランを実行する手順について説明を行います。プランを実行することでレプリケーションが行われます。

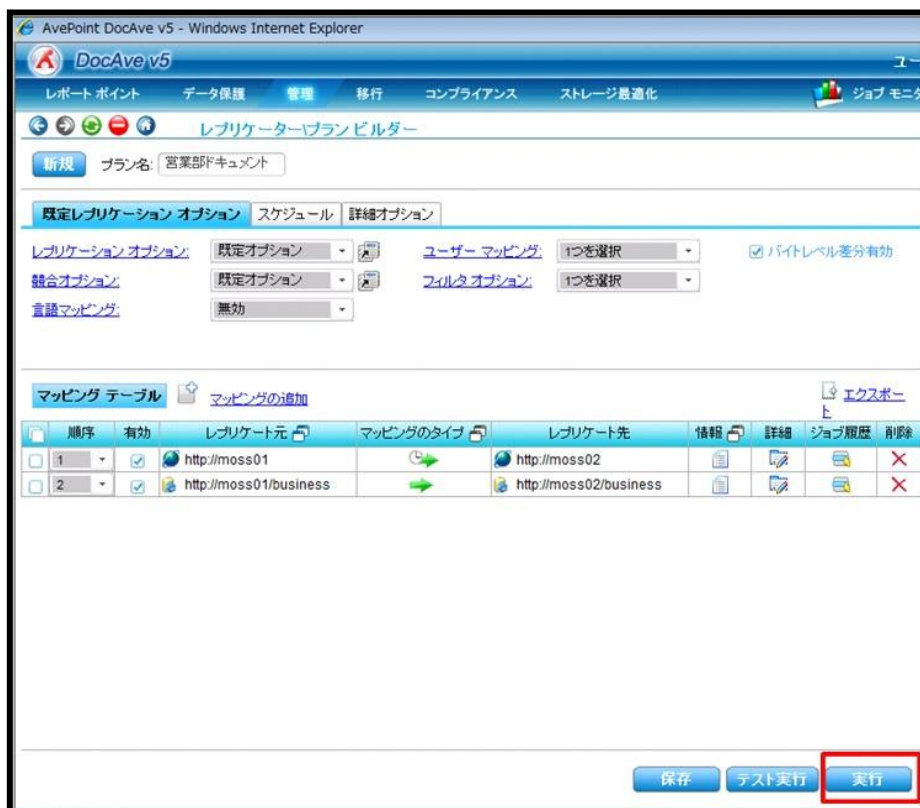
- (1) プランの設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



- (2) [プランビューア]から実行するプランの選択を行います。



- (3) プランを実行します。[実行]ボタンをクリックします。



- (4) レプリケーションタイプの設定ウインドウが表示されます。[レプリケーションタイプ]のラジオボタンを選択します。[レプリケーションタイプ]のラジオボタン設定項目は以下の[表 6.2.6-1 レプリケーションタイプの設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.6-1 レプリケーションタイプの設定項目一覧

項目	説明
完全	レプリケート元すべてをレプリケートします。
増分	最後に完全レプリケートが行われてからのレプリケート元に対する変更点をレプリケートします。

- (5) (4)で「増分」を選択した場合、増分の詳細を設定します。[設定]のチェックボックスを設定します。チェックボックスの設定内容は以下の[表 6.2.6-2 増分レプリケーションタイプの設定項目一覧]の通りです。



表 6.2.6-2 増分レプリケーションタイプの設定項目一覧

項目	説明
更新のレプリケーション	最後に完全レプリケーションが行われてから、レプリケート元で更新されたデータのレプリケーションを行います。
削除のレプリケーション	最後に完全レプリケーションが行われてから、レプリケート元で削除されたデータを、レプリケート先から削除します。

- (6) [開始時刻]を設定します。既定では[今すぐ]が設定されています。開始時刻を指定する際は、[6.2.4.5 レプリケーションスケジュールの設定]の(5)～(7)と同様の手順で設定します。



(7) [実行]ボタンをクリックし、プランを実行します。

レプリケーションタイプ: 完全 増分

詳細

設定: 更新のレプリケート 削除のレプリケート

開始時刻: 今すぐ

説明:

実行 キャンセル

6.3 プラン(オフラインレプリケーション)の作成

このセクションではオフラインレプリケーションの設定から実行までの流れについて説明します。

オフラインレプリケーションは通常のレプリケーションと異なり、レプリケート元とレプリケート先がネットワークで接続されていなくても実行可能です。MOSSの導入されたサーバー同士がネットワークで接続していない場合や、ネットワークの帯域が非常に狭い場合などに、効果的に利用することが可能です。

オフラインレプリケーションは以下の[図 6.3-1 オフラインレプリケーションのフローチャート]のフローに沿って進行します。各項目の作成方法、および設定方法は、フロー内に記載された番号のセクションを参照してください。また、以下の[表 6.3-1 フローチャート項目一覧]にそれぞれの概要について示します。

図 6.3-1 オフラインレプリケーションのフローチャート

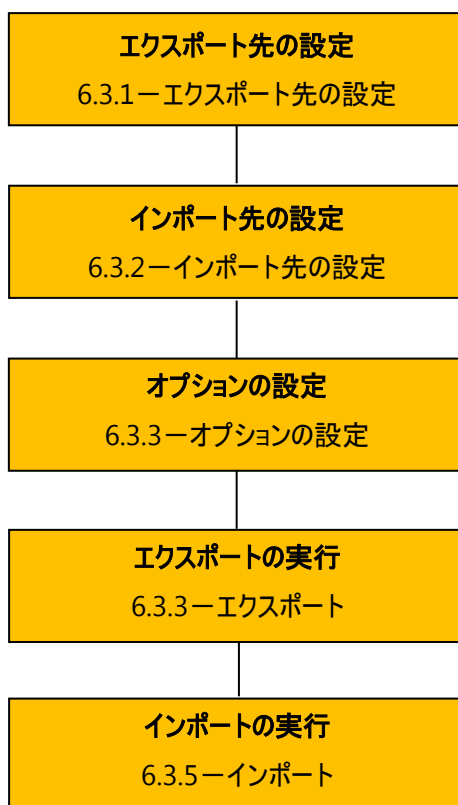


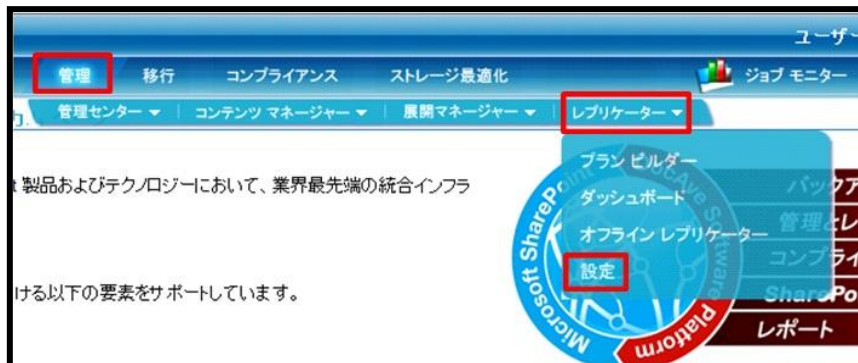
表 6.3-1 フローチャート項目一覧

項目	説明	解説箇所
エクスポート先の設定	エクスポート先を設定したプロファイルを作成します。	6.3.1
インポート先の設定	インポート先を設定したプロファイルを作成します。	6.3.2
オプションの設定	ユーザーマッピングと競合のオプションの設定を行います。 設定情報はプロファイルに保存されます。	6.3.3
エクスポートの実行	作成したエクスポートのプランを実行します。	6.3.4
インポートの実行	作成したインポートのプランを実行します。	6.3.5

6.3.1 エクスポート先の設定

このセクションではエクスポート先の設定について説明します。エクスポート先の設定を行うことで、エクスポートデータの出力先を指定することが可能です。出力先を指定するためには、エクスポートデータを保存するための空き容量があるフォルダ、およびそのフォルダにアクセス可能なアカウントを準備する必要があります。

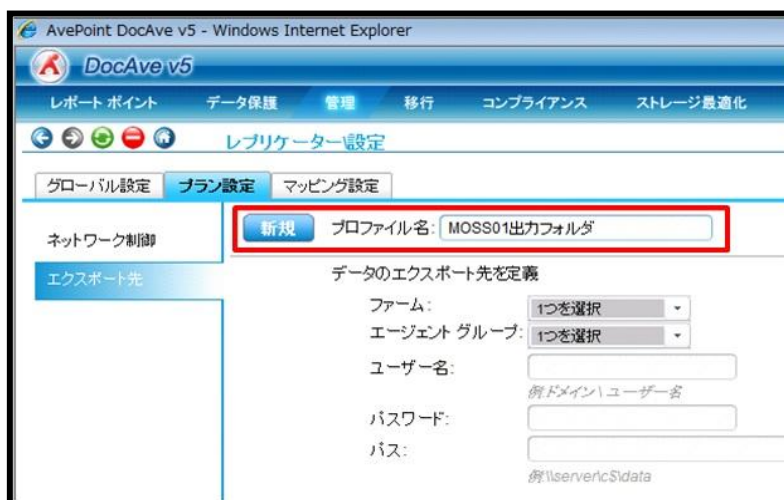
- (1) エクスポート先の設定画面を表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[設定] を選択します。



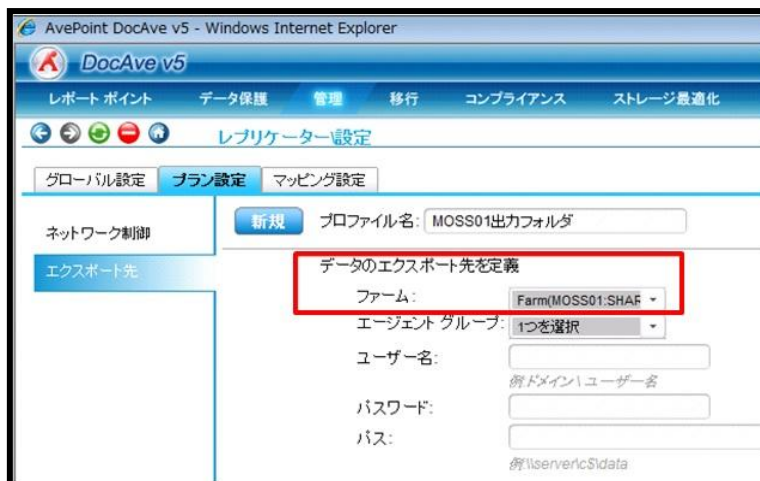
- (2) [プラン設定]-[エクスポート先]タブを選択します。



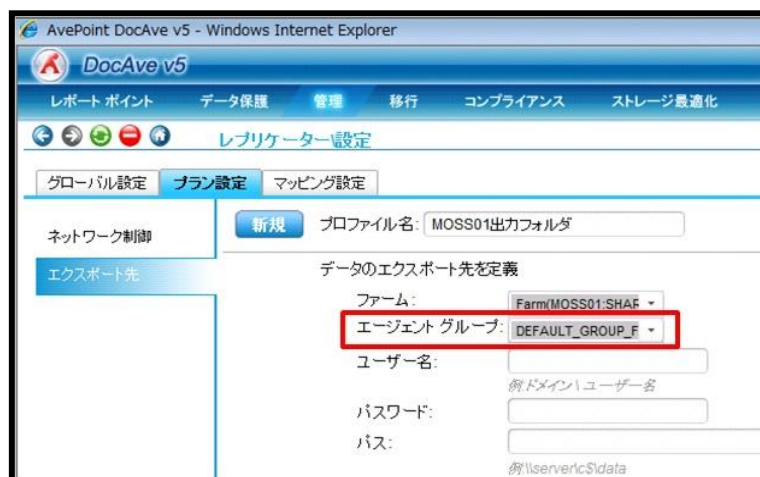
- (3) 新規にプロファイルを作成します。[新規]ボタンをクリックし、[プロファイル名]を入力します。



- (4) [データのエキスポート先を定義]の項目を設定します。[ファーム]の項目のプルダウンを選択し、エキスポート時に使用するエージェントグループが属するファームを選択します。



- (5) [エージェントグループ]のプルダウンを選択し、(4)で選択したファームに属する任意のエージェントグループを選択します。



- (6) エクスポート先のユーザー情報とディレクトリのパスを設定します。入力項目については以下の[表 6.3.1-1 エクスポート先の設定項目一覧]の通りです。

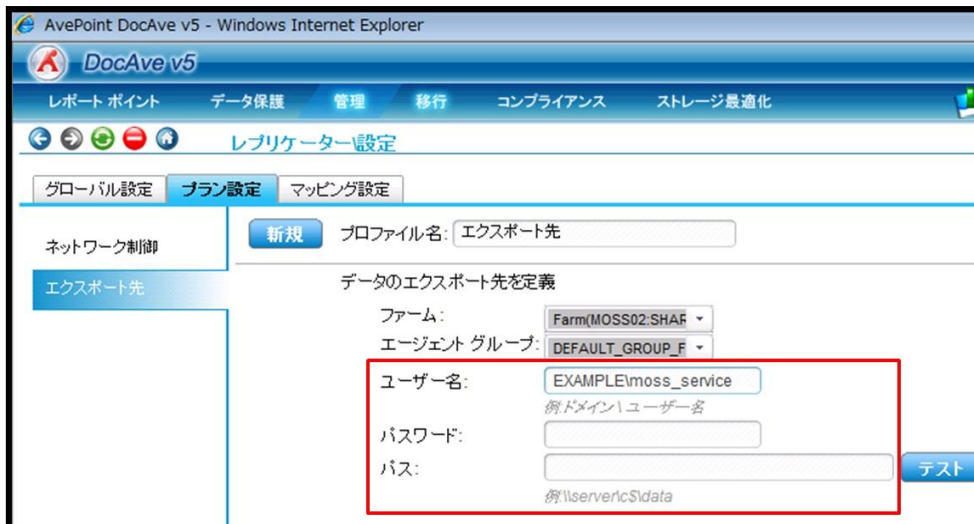


表 6.3.1-1 エクスポート先の設定項目一覧

項目	説明
ユーザー名	エクスポート先のフォルダにアクセス権を持つアカウントを[ドメイン名¥ユーザー名]の形式で入力します。
パスワード	入力したアカウントのパスワードを入力します。
パス	出力先となるパスを[¥¥サーバー名¥フォルダ名]の形式で入力します。

- (7) (4)～(6)の入力情報を確認し、[テスト]をクリックします。入力情報が正しい場合は[テストに成功しました。]と表示されます。表示されなかった際は、(4)～(6)の入力情報を再度確認します。



- (8) プロファイルを保存します。**[保存]**ボタンをクリックします。

新規 プロファイル名: エクスポート先

データのエクスポート先を定義

ファーム: Farm(MOSS01:SHAF)

エージェント グループ: DEFAULT_GROUP_E

ユーザー名: EXAMPLE\moss_service
前ドメイン/ユーザー名

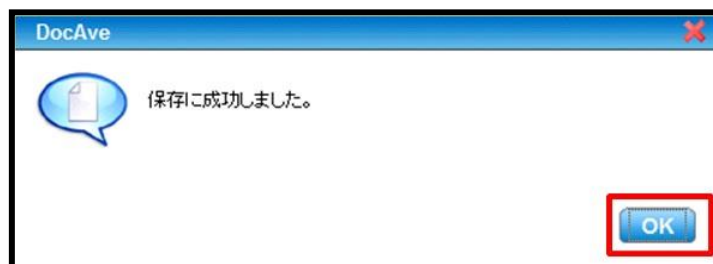
パスワード: *****

パス: \\MOSS01C\$\data **テスト**
例 \\server\c\$\data

✔ テストに成功しました。

保存 名前をつけて保存

- (9) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。**[OK]**ボタンをクリックします。



6.3.2 インポート先の設定

このセクションではインポート先の設定について説明します。レプリケート元とレプリケート先のファームが異なる場合など、エクスポート時とインポート時で利用するエージェントグループが異なる際には、インポートデータの読み込み元となるパスを設定する必要があります。インポートでは、指定したエージェントグループに紐づく[エクスポート先]のパスから自動的にデータを読み込むため、事前に設定が必要となります。

- (1) [6.3.1 エクスポート先の設定]の(3)～(9)と同様の手順でインポートデータの読み込み元となるパスを設定したプロファイルを作成します。プロファイル名、ファーム、エージェントグループ、ユーザー名、パスワード、パスはインポート先で利用可能な情報を指定します。
- (2) 続けて、[6.3.3 オプションの設定]の手順を実施します。

6.3.3 オプションの設定

このセクションでは、オフラインレプリケーションでのオプションの設定について説明します。オフラインレプリケーションでは、エクスポート時に「ユーザーマッピング」、インポート時に「競合」のオプションを利用することが可能です。

エクスポート、およびインポートの実行時にオプションを有効にするためには、事前にプロファイルを作成しておく必要があります。プロファイルの作成方法は、通常のレプリケーションと同様です。「ユーザーマッピング」のプロファイル作成方法については[6.2.4.2 ユーザーマッピングの設定]、「競合」のプロファイル作成方法については[6.2.3.3 競合オプションの設定]をそれぞれ参照してください。

本セクションの手順の完了後、[6.3.4 エクスポート]の手順を実施します。

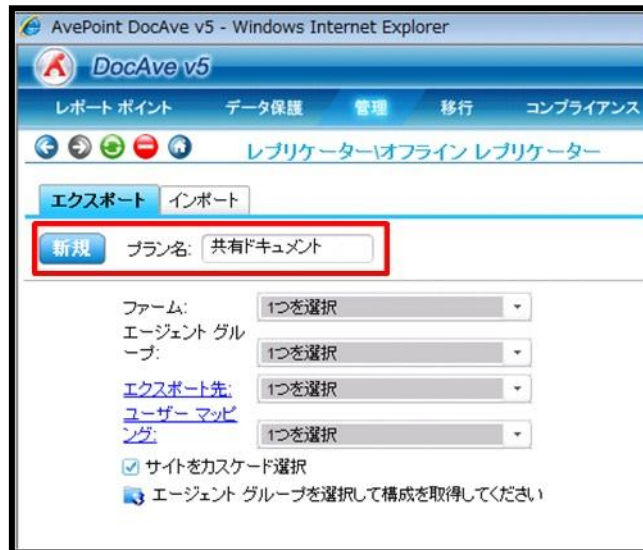
6.3.4 エクスポート

このセクションでは「エクスポート」について手順の説明を行います。エクスポートを行うことで、レプリケート元となる MOSS のサイトやリストなどのデータを出力し、保存することが可能です。

- (1) エクスポートのプランを作成します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[オフラインレプリケーター]を選択します。



- (2) [新規]ボタンをクリックし、[プラン名]に任意のプラン名を入力します。



- (3) エクスポート先のプロファイルを割り当てます。各プルダウンメニューを選択します。プルダウンメニューの選択項目は以下の[表 6.3.4-1 エクスポート先の設定項目一覧]の通りです。

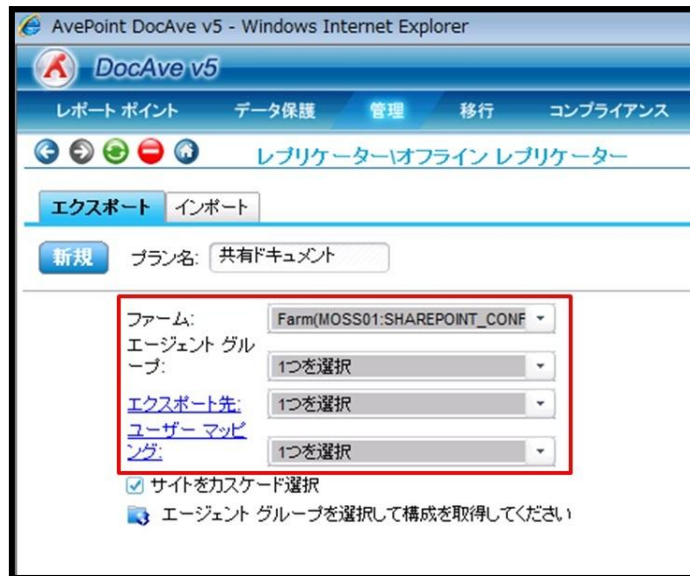
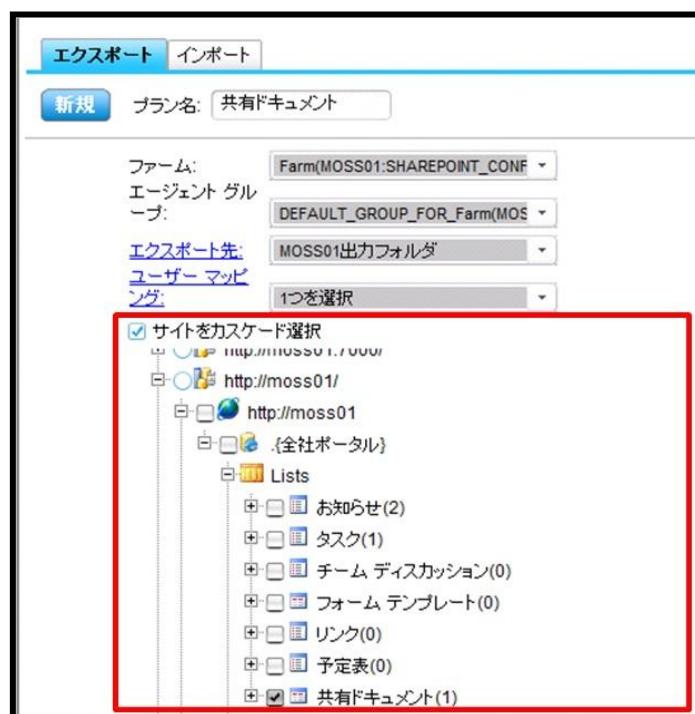


表 6.3.4-1 エクスポート先の設定項目一覧

項目	説明
ファーム	[6.3.1 エクスポート先の設定]の(4)で選択したファームを選択します。
エージェントグループ	[6.3.1 エクスポート先の設定]の(5)で選択したエージェントグループを選択します。
エクスポート先	[6.3.1 エクスポート先の設定]で作成したエクスポート先のプロファイルを選択します。
ユーザーマッピング	ユーザーマッピングのプロファイルを選択します。

- (4) エクスポート対象を選定します。設定画面の下に表示されたファームのツリーを展開し、エクスポート対象にチェックを入れます。[サイトをカスケード選択]にチェックにした場合、選択したサイトの配下にあるサブサイトもエクスポート対象となります。



- (5) [アーカイブ済みデータ]のラジオボタンを選択します。ラジオボタンの設定項目は以下の[表 6.3.4-2 アーカイブ済みデータの設定項目一覧]の通りです。既定では[レプリケートしない]が選択されています。



表 6.3.4-2 アーカイブ済みデータの設定項目一覧

項目	説明
レプリケートしない	アーカイブしたデータはレプリケーションを行いません。
コンテンツへのリンクのみをレプリケート	アーカイブデータへのリンクのレプリケーションを行います。
元のコンテンツをレプリケート	アーカイブデータのレプリケーションを行います。

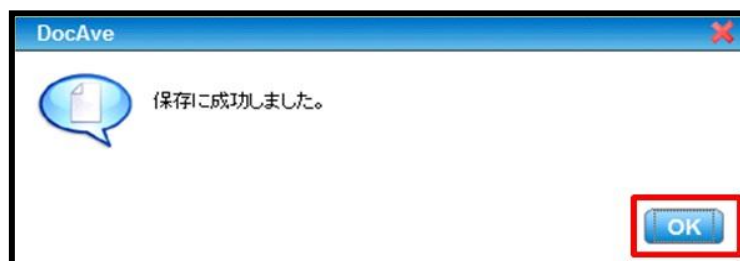
- (6) [スケジュール]を設定します。既定では[無効]が選択されています。スケジュールで実行する必要がある場合は、[6.2.4.5 レプリケーションスケジュールの設定]の(5)～(7)の手順を参照し、設定を行います。



- (7) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (8) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- (9) プランを実行します。スケジュールの設定を行っておらず、手動で開始する場合は、[すぐに実行]ボタンをクリックし、(10)の手順に進みます。(6)の手順においてスケジュールの設定を行った場合は、[保存]ボタンをクリックし、(12)の手順に進みます。



- (10) レプリケーションタイプの設定ウインドウが表示されます。[6.2.6 プラン実行]の(4)を参照し、[レプリケーションタイプ]を選択します。



- (11) [OK]ボタンをクリックします。



- (12) 続けて[6.3.5 インポート]の手順を実施します。

6.3.5 インポート

このセクションでは「インポート」について手順の説明を行います。インポートを行うことで、エクスポートした MOSS のサイトやリストなどのデータをレプリケート先へ反映させることが可能です。

- (1) エクスポートで出力したデータを、[6.3.2 インポート先の設定]の(1)の手順で設定したディレクトリにコピーします。
- (2) [インポート]タブを選択します。



- (3) [新規]ボタンをクリックし、[プラン名]に任意のプラン名を入力します。



- (4) 画面右の[レプリケート先]の[ファーム]のプルダウンから[6.3.2 インポート先の設定]の手順(1)で設定したファームを選択します。



- (5) 画面右の[レプリケート先]の[エージェントグループ]のプルダウンから[6.3.2 インポート先の設定]の手順(1)で設定したエージェントグループを選択します。



- (6) 画面左の[レプリケート元]に表示されたファームを展開します。



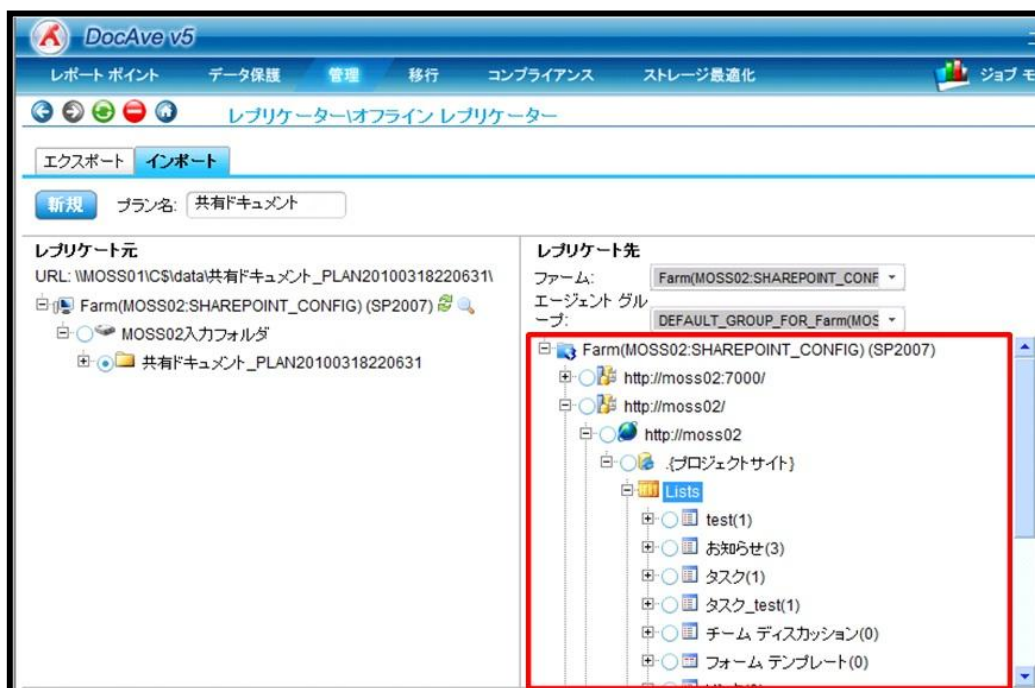
(7) (6)で展開したツリーから、インポートするフォルダにチェックを入れます。



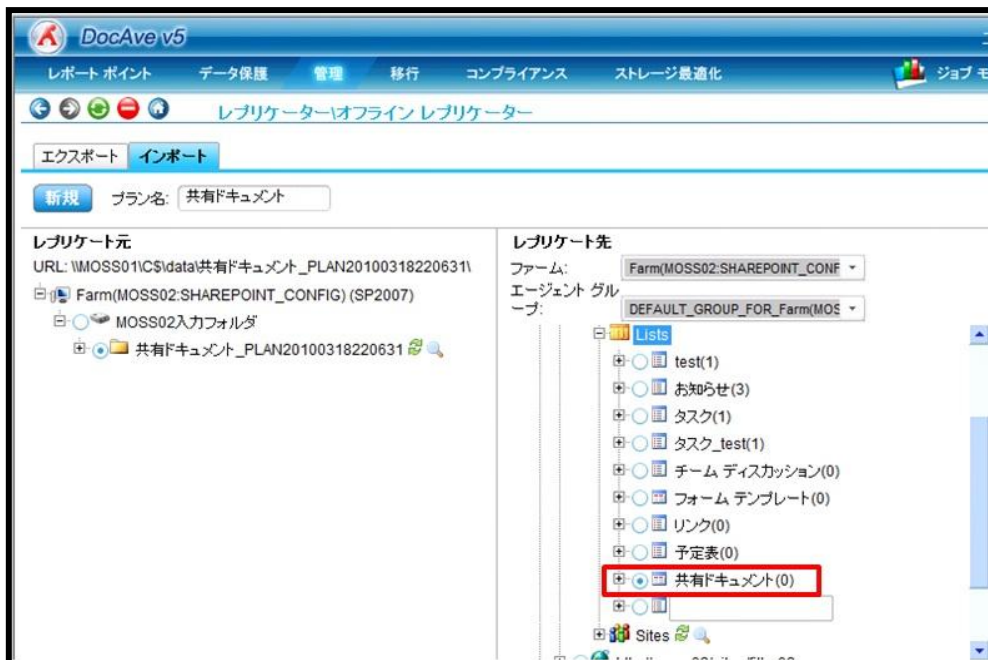
(8) コンテンツを確認するウィンドウが表示されます。インポートしたいデータがチェックされていることを確認し、[×]か[キャンセル]ボタンをクリックしてください。



(9) 画面右の[レプリケート先]に表示されたファームを展開します。



- (10) (9)で展開したツリーから、データをインポートするレプリケート先にチェックを入れます。レプリケート先は、レプリケート元のレベルに合わせて指定する必要があります。例えば、レプリケート元がサイトならレプリケート先はサイト、レプリケート元がリストならレプリケート先はリストを指定します。



- (11) [スケジュール]の設定をします。既定では[無効]が選択されています。スケジュールで実行する必要がある場合は、[6.2.4.5 レプリケーションスケジュールの設定]の(5)～(7)の手順を参照し、設定を行います。



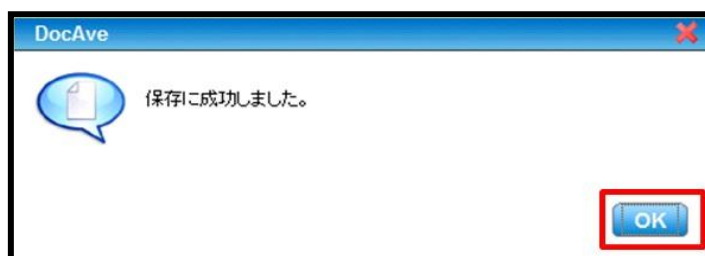
- (12) [その他の設定]の[競合オプション]を設定します。既定ではレプリケート元を優先して上書きする動作となります。既定オプション以外の設定を割り当てる際は[競合オプション]のプルダウンを選択してプロファイルを選択します。



- (13) [レプリケーション前にバックアップ実行]の項目を設定します。レプリケート前に、レプリケーション先のバックアップを取得する場合、チェックを入れて有効にします。
- (14) プランを保存します。[保存]ボタンをクリックします。



- (15) 「保存に成功しました」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



- (16) プランを実行します。手動で開始する場合は、[すぐに実行]ボタンをクリックします。(11)の手順においてスケジュールの設定を行った場合は、設定した時刻に自動的に処理が開始されます。



6.4 レプリケーション状況の確認

このセクションでは、レプリケーションの処理状況の確認手順について説明します。レプリケーションの実行結果を確認する方法は、ジョブモニター、マッピング モニター、ダッシュボード、メール通知の 4 点です。確認できる内容は、以下の[表 6.4-1 レプリケーション状況の確認方法一覧]の通りです。

表 6.4-1 レプリケーション状況の確認方法一覧

項目	内容	解説箇所
ジョブモニター	ジョブ単位のレプリケーション状況を確認することが可能です。	6.4.1
マッピングモニタ	プラン単位のレプリケーション状況を確認することが可能です。	6.4.2
ダッシュボード	プラン単位のレプリケーション状況を確認することが可能です。リアルタイムレプリケーションが行われた最新の時刻についても、この画面から確認することが可能です。	6.4.3
通知メール	レプリケーションの実行結果、および競合が発生した際の情報を確認することが可能です。	6.4.4

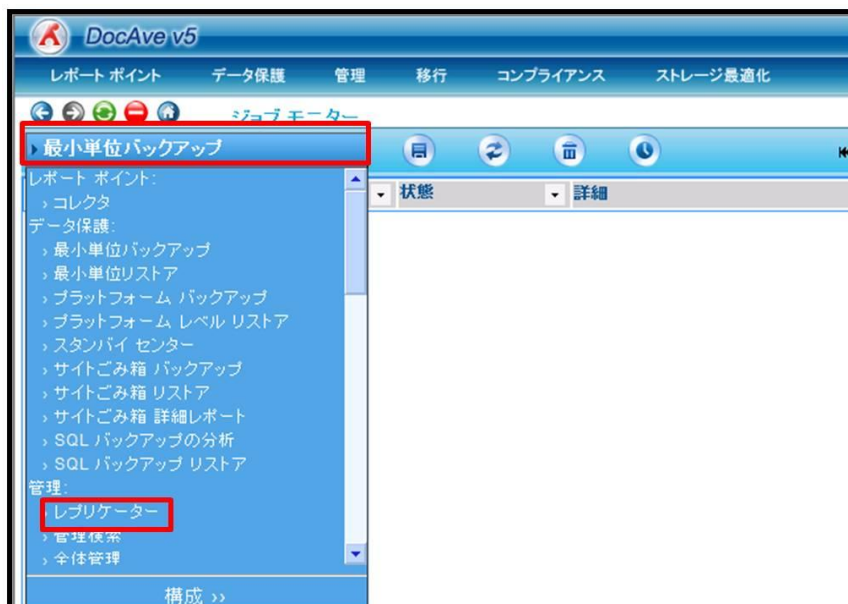
6.4.1 ジョブモニターによる確認

このセクションではジョブモニターによる実行結果の確認手順を説明します。ジョブモニターでは、ジョブの実行状況、および結果の確認を行うことが可能です。ジョブモニターによる確認を行う場合は、以下の手順を実施します。

- (1) ジョブモニターを表示します。管理コンソールより[ジョブモニター]-[ジョブモニター]を選択します。



- (2) 画面左のプルダウンから[管理]-[レプリケーター]を選択します。



- (3) レプリケータージョブの実行履歴が表示されます。既定では[既定ビュー]が設定されており、画面右上の[既定ビュー]を選択して他のビューを選択することで、表示される項目を変更することが可能です。ジョブモニターの表示項目は以下の[表 6.4.1-1 ジョブモニター確認項目一覧]の通りです。



表 6.4.1-1 ジョブモニター確認項目一覧

項目	説明
プラン名	実行されたプランの名前が表示されます。
ジョブ ID	<p>プランを実行した際に割り当てられたジョブの ID が表示されます。 任意のジョブ ID を選択した場合、以下の情報の確認が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序 ・開始時刻 ・終了時刻 ・状態 ・進行状況 ・詳細 ・レプリケート先エージェント情報 ・元に戻る
進行状況	現在のジョブの進行状況に関するプログレスバーが表示されます。
レプリケート元ファーム名	レプリケート元のファーム名が表示されます。
レプリケートタイプ	レプリケートタイプ(完全/増分)が表示されます。
オプション	競合時の動作が表示されます。
状態	現在のジョブの状態が表示されます。
詳細	ジョブの詳細レポートが表示されます。詳細レポートの内容は手順(4)を参照してください。
時間帯	実行環境のタイムゾーンが表示されます。
開始時刻	ジョブが開始された時刻が表示されます。
終了時刻	ジョブが終了した時刻が表示されます。
制御	<p>「再起動／再開」 ジョブを再実行します。</p> <p>「サイトの削除」 「削除のレプリケート」のオプションによりサイトコレクションやサイトの削除情報がレプリケーションされた場合、このボタンをクリックすることでレプリケート先サイトが削除されます。 (サイトコレクションやサイトは自動での削除はされません)</p>
説明	レプリケーションスケジュールにおいて設定した「説明」の内容が表示されます。
レプリケート元エージェント情報	レプリケート元のエージェントが表示されます。

(4) 詳細レポートの表示項目は以下の[表 6.4.1-2 詳細レポート確認項目一覧] の通りです。



表 6.4.1-2 詳細レポート確認項目一覧

項目	説明
Plan Name	実行したプランの名前が表示されます。
Plan ID	プランを実行した際に割り当てられたプランの ID が表示されます。
Job ID	プランを実行した際に割り当てられたジョブの ID が表示されます。
Source Farm Name	レプリケート元のファーム名が表示されます。
Source Agent	レプリケート元のエージェント名が表示されます。
Destination Farm Name	レプリケート先のファーム名が表示されます。
Destination Agent	レプリケート先のエージェント名が表示されます。
User Name	このプランを作成した際の DocAve アカウントが表示されます。
Start Time	ジョブが開始された時刻が表示されます。
Finish Time	ジョブが終了した時刻が表示されます。
Replication Type	レプリケートタイプ(完全/増分)が表示されます。
Replication Options	増分レプリケート時に有効にしたオプション(削除/更新)が表示されます。
Conflict Action	競合時の動作が表示されます。
Mapping Type	レプリケートの方向が表示されます。

- (5) (4)の詳細レポートの[詳細]ボタンをクリックすると、下図のようなアイテムごとの実行結果画面が表示されます。表示項目は以下の[表 6.4.1-3 詳細の確認項目一覧]の項目となります。

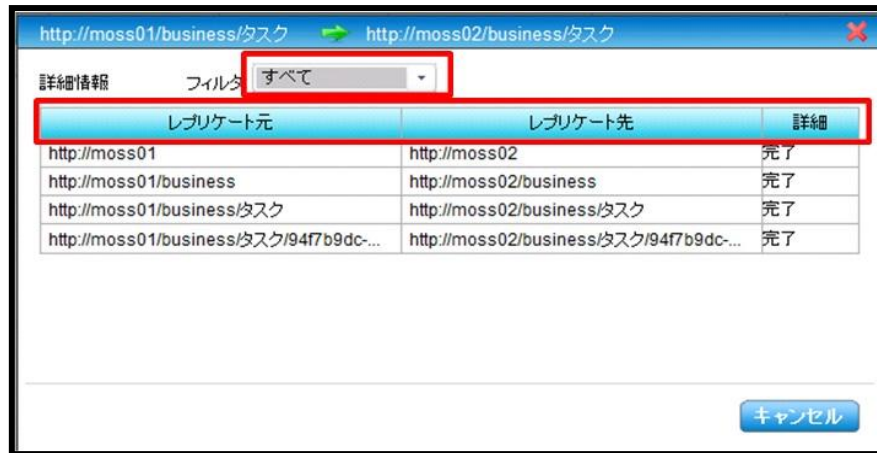


表 6.4.1-3 詳細の確認項目一覧

説明	項目
フィルタ	<p>プルダウンを選択して表示する内容を変えます。</p> <p>「すべて」 すべてのログを表示します。</p> <p>「完了」 状態が「完了」のログのみを表示します。</p> <p>「失敗」 状態が「失敗」のログのみを表示します。</p> <p>「スキップ」 状態が「スキップ」のログのみを表示します。</p>
レプリケート元	レプリケート元の URL が表示されます。
レプリケート先	レプリケート先の URL が表示されます。
詳細	アイテムごとの実行結果が表示されます。

- (6) 各項目の右の[▼]を選択することにより、表示内容のソートやフィルタリングを行うことが可能です。ソートやフィルタリングの内容は以下の[表 6.4.1-4 表示変更の項目一覧]の通りです。



表 6.4.1-4 表示変更の項目一覧

項目	説明
プラン名	各項目の昇順/降順で並び変えます。
ジョブ ID	
進行状況	
レプリケート元ファーム名	
開始時刻	
終了時刻	
レプリケートタイプ	完全/増分でフィルタリングします。
状態	以下の項目でフィルタリングします。 <ul style="list-style-type: none"> ・待機 ・実行中 ・開始 ・完了 ・失敗 ・停止 ・一時停止スキップ ・再試行中 ・完了(実行中に例外)

6.4.2 マッピングモニタによる確認

このセクションではマッピングモニタによる実行結果の確認手順を説明します。マッピングモニタではマッピングごとの実行状況、および結果の確認が可能です。マッピングモニタによる確認を行う場合は、以下の手順を実施します。

- (1) マッピングモニタを表示します。管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[プランビルダー]を選択します。



- (2) プランの設定画面を表示します。[プランビューア]より実行結果を確認したいプランを選択します。



- (3) プランを実行します。[実行]ボタンをクリックします。





- (4) プランを実行後、[実行]ボタンの下の[▲]を選択します。



- (5) 画面下に[マッピングモニタ]が表示されます。各項目の内容とボタンについては以下の[表 6.4.2-1 マッピングモニタ確認項目一覧]の通りです。



表 6.4.2-1 マッピングモニタ確認項目一覧

項目	説明
順序	マッピングが処理される順序が表示されます。
開始時刻	ジョブの開始時刻が表示されます。
終了時刻	ジョブの終了時刻が表示されます。
状態	マッピングごとの現在の処理状態が表示されます。
進行状況	マッピングごとの現在の進行状況に関するプログレスバーが表示されます。
詳細	現在のマッピングの処理状況が詳細に表示されます。ジョブが完了した際は、詳細レポートで実行結果が確認可能です。内容については、[6.4.1 ジョブモニター]の(4)を参照してください。
元に戻す	レプリケート対象を処理前の状態に戻します。「レプリケーション前にバックアップ実行」のオプションを有効にした場合に使用可能です。
	処理中のジョブを一時停止させます。
	一時停止したジョブを再開させます。

6.4.3 ダッシュボードによる確認

このセクションではダッシュボードによる実行結果の確認手順について説明します。ダッシュボードでは、プランの実行状況、および結果の確認が可能です。さらに、リアルタイムレプリケーションが最後に行われた時間の確認が可能です。ダッシュボードによる確認を行う場合には、以下の手順を実施します。

- (1) 管理コンソールより[管理]-[レプリケーター]-[ダッシュボード]を選択します。



- (2) [プランビューア]より実行結果を確認したいプランを選択します。



- (3) プランに設定された各マッピングのステータスが表示されます。各項目の内容については以下の[表 6.4.3-1 ダッシュボード確認項目一覧]の通りです。



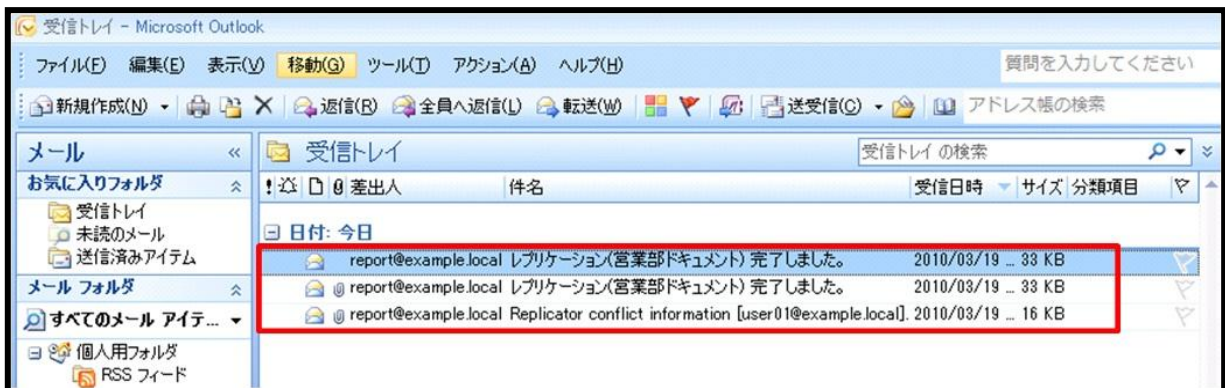
表 6.4.3-1 ダッシュボード確認項目一覧

項目	説明
URL	レプリケート対象の URL が表示されます。
エージェント名	レプリケートを実行するエージェントのホスト名が表示されます。
接続	レプリケート元とレプリケート先のサーバーの状態が表示されます。
送信済みアイテム	送信されたアイテムの数が表示されます。
受信済みアイテム	受信したアイテムの数が表示されます。
転送済み	レプリケートしたコンテンツの総容量が表示されます。
エラー	レプリケートした際に発生したエラー数が表示されます。
競合	レプリケートした際に発生した競合数が表示されます。
リトライ	レプリケートした際に発生したリトライ数が表示されます。
最終リアルタイム同期	リアルタイムレプリケーションが最後に行われた時刻が表示されます。

6.4.4 通知メールによる確認

このセクションではメール通知の確認手順を説明します。メール通知では、プランの実行結果、およびレプリケートに発生した競合の情報を確認することが可能です。メール通知による確認を行う場合には、以下の手順を実施します。

- (1) メーラーから受信メールを確認します。



- (2) ジョブの実行結果(「一般」の通知タイプ)のメールの場合

- ① 通知タイプを「一般」で設定した通知メールでは以下の図の内容が送信されます。各項目の内容は以下の [表 6.4.4-1 一般通知メールの確認項目一覧]の通りです。



表 6.4.4-1 一般通知メールの確認項目一覧

項目	説明
プラン名	実行されたプランの名前が表示されます。
プラン ID	プランに割り振られた ID が表示されます。
ジョブ ID	ジョブに割り振られた ID が表示されます。
レプリケート元ファーム名	レプリケート元のファーム名が表示されます。
レプリケート元エージェント名	レプリケート元のエージェント名が表示されます。
レプリケート先ファーム名	レプリケート先のファーム名が表示されます。
レプリケート先エージェント名	レプリケート先のエージェント名が表示されます。
レプリケートタイプ	レプリケートタイプ(完全/増分)が表示されます。
レプリケーションオプション	競合時の動作が表示されます。
マッピングタイプ	マッピングの方向が表示されます。
メール通知	この通知メールの設定を行った通知メールのプロファイル名が表示されます。
ユーザー名	このプランを作成した際の DocAve アカウントが表示されます。
開始時刻	ジョブが実行された時刻が表示されます。
終了時刻	ジョブが終了した時刻が表示されます。
統計結果	ジョブの実行結果が表示されます。

- ② メール通知で「詳細レポートの受取り」を設定した場合、添付ファイルが付与されます。添付ファイルの内容は以下の[表 6.4.4-2 詳細レポートの確認項目一覧]の通りです。

表 6.4.4-2 詳細レポートの確認項目一覧

項目	説明
Source Path	レプリケート元のコンテンツの URL です。
Path	レプリケート先のコンテンツの URL です。
Status	レプリケートをした結果です。

- (3) 発生した競合の情報(「レプリケーター」の通知タイプ)のメールの場合

- ① 通知タイプを「レプリケーター」で設定した通知メールでは、以下の画面ショットの内容が送信されます。




- ② ①の添付ファイルを任意の場所に保存し、保存した圧縮ファイルを解凍します。

- ③ ②で解凍したフォルダの中に[temp]フォルダが格納されています。[temp]フォルダに格納されているフォルダの中の[ConflictFileName]ファイルを確認します。



- ④ ③のファイルの内容です。各項目の内容は以下の[表 6.4.4-3 競合通知レポートの確認項目一覧]の通りです。

Direction	Path	Created By	Modified By	Last Modified Time	Size (Bytes)	Result
Source	http://moss01/Lists/Tasks/2_000	SHAREPOINT\system	SHAREPOINT\system	2010/03/19 11:23:09	104	
Target	http://moss02/タスク/e76422ff-dbc9-4963-b192-4edf2ab9cbbe	SHAREPOINT\system	SHAREPOINT\system	2010/03/19 11:24:26	104	Skip



 UNLEASHING THE POWER OF SHAREPOINT

表 6.4.4-3 競合通知レポートの確認項目一覧

項目	説明
Direction	レプリケート元とレプリケート先のどちらのコンテンツかを表します。
Path	レプリケート対象のコンテンツの URL が表示されます。
Created By	アイテムの作成者が表示されます。
Modified By	アイテムの更新者が表示されます。
Last Modified Time	アイテムの最新の更新日が表示されます。
Size(Bytes)	アイテムの容量が表示されます。
Result	競合時の処理が表示されます。
Winner	競合時の処理の結果、どちらが保持されたかを表します。

第7章 パラメータシート

DocAve レプリケーター設定時に必要なパラメータシートです。お客様環境に合わせてご利用ください。

複数項目を設定するオプションについては、シートを複数枚コピーしてご利用ください。

各シートで使用されている記号は以下の通りです。

□:チェックボックス / ○:ラジオボタン / 空白:テキストボックス、プルダウン

(1) オンラインレプリケーション

1 プランの作成

項目	設定値
プラン名	
既定レプリケーションオプション	
レプリケーションオプション	
競合オプション	
言語マッピング	
ユーザーマッピング	
フィルタリングオプション	
バイトレベル差分有効	<input type="checkbox"/>
スケジュール	
スケジュール A	
無効	<input type="checkbox"/>
開始時刻	
間隔・・・※1	
レプリケーションタイプ	○完全 / ○増分(□更新のレプリケート □削除のレプリケート)
説明	
スケジュール B	
無効	<input type="checkbox"/>
開始時刻	
間隔・・・※1	
レプリケーションタイプ	○完全 / ○増分(□更新のレプリケート □削除のレプリケート)
説明	
詳細オプション	
メール通知	
ネットワーク制御	
同時スレッド	
データ構成	
圧縮	<input type="checkbox"/>
暗号化	<input type="checkbox"/>
レプリケーション前にバックアップ	<input type="checkbox"/>

記入例・・・※1:1 回のみ

:2 時間

2 マッピングの作成

項目	設定値
レプリケート元	
ファーム	
エージェントグループ	
コンテンツ	
レプリケート先	
ファーム	
エージェントグループ	
コンテンツ	
マッピングのタイプ	○単方向 / ○双方向
設定	
すべてのサブサイトを含む	<input type="checkbox"/>
リアルタイムレプリケーションを有効にする	<input type="checkbox"/>
レプリケートを発動するイベント	
すべて選択	<input type="checkbox"/>
新規フォルダ/アイテム	<input type="checkbox"/>
フォルダ/アイテムの更新	<input type="checkbox"/>
フォルダ/アイテムの削除	<input type="checkbox"/>
フォルダ/アイテムの移動	<input type="checkbox"/>
チェックイン	<input type="checkbox"/>
チェックアウト	<input type="checkbox"/>
チェックアウトの破棄	<input type="checkbox"/>
リストの列の変更	<input type="checkbox"/>

3 セキュリティのレプリケーション

項目	設定値
プロファイル名	
セキュリティのレプリケート	<input type="checkbox"/>
サイトコレクションレベル	
ユーザー	<input type="checkbox"/>
グループ	<input type="checkbox"/>
サイトレベル	
ユーザー	<input type="checkbox"/>
グループ	<input type="checkbox"/>
アクセス許可レベル	<input type="checkbox"/>
サイト権限	<input type="checkbox"/>
リストレベル	
ユーザー	<input type="checkbox"/>
グループ	<input type="checkbox"/>
リスト権限	<input type="checkbox"/>
フォルダレベル	
ユーザー	<input type="checkbox"/>
グループ	<input type="checkbox"/>
フォルダ権限	<input type="checkbox"/>
アイテムレベル	
ユーザー	<input type="checkbox"/>
グループ	<input type="checkbox"/>
アイテム権限	<input type="checkbox"/>
レプリケート先からセキュリティ変更を受信する	<input type="checkbox"/>

4 構成のレプリケーション

項目	設定値
プロファイル名	
構成のレプリケート	<input type="checkbox"/>
サイトコレクションレベル	
サイトコレクション機能とプロパティ	<input type="checkbox"/>
サイトレベル	
サイト機能とプロパティ	<input type="checkbox"/>
サイト列とコンテンツタイプ	<input type="checkbox"/>
ナビゲーションとサイドリンクバー	<input type="checkbox"/>
サイトテンプレートとリストテンプレート	<input type="checkbox"/>
Web パーツ、ページレイアウト、マスターページと他の隠しリスト	<input type="checkbox"/>
リストレベル	
リスト設定	<input type="checkbox"/>
リスト通知	<input type="checkbox"/>
個人用ビュー	<input type="checkbox"/>
パブリックビュー	<input type="checkbox"/>
レプリケート先から構成変更を受信する	<input type="checkbox"/>

5 競合のレプリケーション

項目	設定値
プロファイル名	
アイテムの競合解決ルール	
解決ルール項目…※1	位 ○レプリケート元を保持する / ○レプリケート先を保持する
	位 最近のアイテムを保持する
	位 バージョンが高いアイテムを保持する
競合アクション	○スキップ / ○上書きする / ○バージョンのマージ / ○手動競合解決
競合通知	
メール通知	<input type="checkbox"/>
プロファイル名	
メール通知先設定	
アイテム作成者	<input type="checkbox"/>
保存されなかったアイテムの最終更新者	<input type="checkbox"/>
サイトコレクションの管理者	<input type="checkbox"/>
指定アドレスへ通知する	
指定のユーザー列	

記入例…※1: 1 位 ●レプリケート元を保持する ○レプリケート先を保持する
 : 2 位 最近のアイテムを保持する
 : 3 位 バージョンが高いアイテムを保持する

8 フィルタリング

項目	設定値
プロファイル名	
タイプ...※1	
条件...※2	

記入例...※1: + サイト 名前

: - アイテム 列 社員 テキスト

※2: 「営業部」を含む

: 「山田」を含む

図 7-1 フィルタリング設定例

タイプ	条件	削除
田 サイト名	を含む 営業部	×
田 アイテム列 社員 テキスト	山田 を含む	×

9 メールによる通知

項目	設定値
通知タイプ	
メール通知名	
送信用メールサーバー(SMTP)	
パスワードの認証	<input type="checkbox"/>
ポート	
差出人	
SMTP 上のユーザー名	
SMTP 上のパスワード	
SSL 認証	<input type="checkbox"/>
通知タイプが一般のみ	
要約レポートの受取人	
要約レポートの通知レベル	
すべてのレベル	<input type="checkbox"/>
成功	<input type="checkbox"/>
失敗	<input type="checkbox"/>
警告	<input type="checkbox"/>
詳細レポートの受取人	
詳細レポートの通知レベル	
すべてのレベル	<input type="checkbox"/>
成功	<input type="checkbox"/>
失敗	<input type="checkbox"/>
警告	<input type="checkbox"/>
メッセージ形式	<input type="radio"/> HTML / <input type="radio"/> テキスト
すべてのログを受取人に送信	<input type="checkbox"/>

10 帯域制御

項目	設定値
プロフィール名	
勤務時間の定義	
勤務時間	~
勤務日	
日曜日	<input type="checkbox"/>
月曜日	<input type="checkbox"/>
火曜日	<input type="checkbox"/>
水曜日	<input type="checkbox"/>
木曜日	<input type="checkbox"/>
金曜日	<input type="checkbox"/>
土曜日	<input type="checkbox"/>
ネットワークの制御設定	
勤務時間	<input type="checkbox"/>
ジョブに割り当てるネット帯域幅・・・※1	
勤務時間外	<input type="checkbox"/>
ジョブに割り当てるネット帯域幅・・・※1	
接続リトライ	
接続リトライ	
リトライ回数	

記入例・・・※1:2MB/秒

(2) オフラインレプリケーション

1 エクスポート先

項目	設定値
プロファイル	
データのエクスポート先を定義	
ファーム	
エージェントグループ	
ユーザー名	
パスワード	
パス	

2 エクスポート

項目	設定値
プラン名	
ファーム	
エージェントグループ	
エクスポート先	
ユーザーマッピング	
サイトをカスケード選択	<input type="checkbox"/>
コンテンツ	
アーカイブ済みデータ	<input type="radio"/> レプリケートしない <input type="radio"/> コンテンツへのリンクのみレプリケート <input type="radio"/> 元のコンテンツをレプリケート
スケジュール	
無効	<input type="checkbox"/>
開始時刻	
間隔・・・※1	
レプリケーションタイプ	<input type="radio"/> 完全 / <input type="radio"/> 増分

記入例・・・※1: 1回のみ

: 1 週間

3 インポート先

項目	設定値
プロファイル	
データのエクスポート先を定義	
ファーム	
エージェントグループ	
ユーザー名	
パスワード	
パス	

4 インポート

項目	設定値
プラン名	
レプリケート先	
ファーム	
エージェントグループ	
コンテンツ	
レプリケート元	
プロファイル名	
コンテンツ	
スケジュール	
無効	<input type="checkbox"/>
開始時刻	
間隔・・・※1	
その他の設定	
競合オプション	
レプリケーション前にバックアップ	<input type="checkbox"/>

記入例・・・※1:1回のみ

:1 週間

第8章 付録

より厳密な DocAve レプリケーター設計を行う際に考慮するポイントについて説明します。

8.1 ハードウェアサイジング

DocAve レプリケーターを実行する際の代表的なハードウェアの利用領域は、以下の[表 8.1-1 ハードウェア別 利用領域一覧]の通りです。長期間のレプリケーションや、数多くのプランを実行するような環境では、表に示すようなハードウェアサイジングについても考慮する必要があります。

表 8.1-1 ハードウェア別 利用領域一覧

種別	対象	説明
ディスク利用領域	プランの設定情報	プラン作成時に DocAve マネージャー、および DocAve エージェントが導入されたサーバーに保存されます。プランを作成する度に使用する容量が増加します。
	ログ情報	レプリケート実行時に DocAve マネージャー、および DocAve エージェントが導入されたサーバーに保存されます。ジョブを実行する度に使用する容量が増加します。
	オンラインレプリケーションの エクスポートファイル	エクスポート実行時に、指定したエクスポート先フォルダへ保存されます。MOSS 上のエクスポート対象の容量によってエクスポートしたファイルの容量が変化します。
		エクスポート先とインポート元が異なる場合、インポート元として指定するフォルダに、エクスポートしたファイルサイズ分のディスク容量が必要となります。
	バイトレベルキャッシュのキャッシュ領域	バイトレベルキャッシュのオプションを有効にした場合、指定したキャッシュ先にキャッシュデータが保存されます。バイトレベルキャッシュが有効になるアイテムがレプリケートされる度に容量が増加しますが、設定した最大保存期間を超えると自動的に削除されます。
メモリ利用領域	スレッド数	スレッド数の設定によってレプリケート時に使用する DocAve エージェントが導入されたサーバーのメモリの使用量が変化します。 詳細については、[8.2 スレッド数の検討]を参照してください。
	複数プランの実行	複数のプランを同時に実行する場合には、並行するプランの数が多くなるほど、DocAve エージェントが導入されたサーバーのメモリの使用量が大きくなります。

8.2 スレッド数の検討

DocAve レプリケーターでは使用している CPU のコア数に合わせてスレッド数を変えることが可能です。スレッド数を変えることによってレプリケートにかかる時間を調整することが可能です。

スレッド数を多く設定した場合、レプリケートにかかる時間が短くなる反面、使用するメモリの容量が大きくなります。逆にスレッド数を低く設定した場合、レプリケートにかかる時間が長くなりますが、使用するメモリの容量が小さくなります。

1 プランあたりに割り当てることができる時間や、DocAve エージェントが導入されたサーバーの CPU のコア数とメモリの容量に合わせてスレッド数を検討する必要があります。